

(3) 作業療法学科

専門科目（作業療法学科）

科目名	頁	科目名	頁
作業療法学概論	1	内部障がい作業療法学	58
作業療法国際比較論	4	認知機能作業療法学	60
基礎作業学	6	高齢期作業療法学	63
基礎作業学実習	8	高齢期作業療法学演習	65
運動学Ⅰ	11	高齢期作業療法学実習	67
運動学Ⅱ	14	日常生活活動学	69
体表解剖学	17	地域作業療法学概論	72
作業療法管理学	19	地域作業療法学Ⅰ	75
作業療法評価学概論	22	地域作業療法学Ⅱ	78
作業療法評価学演習Ⅰ	24	福祉用具・住環境整備学	81
作業療法評価学演習Ⅱ	27	職業関連活動学	84
作業療法評価学演習Ⅲ	30	作業療法研究法	86
作業療法評価学実習	33	卒業研究	88
小児期作業療法学	36	見学実習特論	90
小児期作業療法学演習	38	総合実習Ⅰ特論	93
小児期作業療法学実習	41	総合実習Ⅱ特論	95
身体機能作業療法学	44	総合実習Ⅲ特論	97
身体機能作業療法学演習	46	見学実習	100
身体機能作業療法学実習	49	総合実習Ⅰ	102
精神機能作業療法学	52	総合実習Ⅱ	104
精神機能作業療法学演習	54	総合実習Ⅲ	106
精神機能作業療法学実習	56		

授業科目	作業療法学概論	科目英語表記	Introduction to Occupational Therapy		
職名、担当教員氏名	教授 藤井 浩美 教授 佐藤 寿晃				
科目責任者氏名	藤井 浩美				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療学科	学年	1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	<p>作業療法(Occupational Therapy: OT)とは何かについて教授する。つまり、生活上行なわれる活動を通じて、対象者の健康で安寧な生活を促進する医療と生活を結ぶ専門職であることを概説する。OTの対象は、生活に支障を来した乳幼児期から高齢期までの心身に障がいを抱える人や予測される人であり、その人を支える家族や地域社会であることを教授する。そして、OTで用いる作業(活動)は、生活の活動全般であり、仕事、趣味、地域への参加など含む。したがって、OTが提供される保健、医療、福祉、教育、就労などの領域について概説する。</p> <p>そして、早期臨床体験を通じて、作業療法の臨床場面を見学し、作業療法に関する学習意欲の向上を図る。</p>				
到達目標	学生は、OTに必要な基礎知識を目的、対象、手段、領域の側面から説明できる。				
成績評価方法	<p>毎回、講義内容をまとめたレポート(600字程度)で評価します。各回の講義終了時にレポートの課題を提示します。レポートは、講義内容の理解度で判断します。基準は、理解度に応じてA、B、C、Dまでを合格とし、F(59点以下)を不合格とします。</p> <p>レポート提出は講義開始までに提出することを必須条件とします。提出期限を過ぎた場合は、0点となります。到達目標に達したか否かの判定は、すべてのレポートの合計が60%以上とします。到達目標に達したか否かの判定は、すべてのレポートの合計平均が60%とします。授業中の質疑応答の合計が40%とします。</p>				
成績評価基準	<p>特に優れている：根拠を踏まえて、OTに必要な基礎知識を目的、対象、手段、領域の側面から理論的に説明できる。</p> <p>優れている：根拠を踏まえて、OTに必要な基礎知識を目的、対象、手段、領域の側面から説明できる。</p> <p>良好である：根拠を踏まえて、OTに必要な基礎知識を目的、対象、手段、領域の側面からある程度説明できる。</p> <p>最低限の到達：根拠は乏しいが、OTに必要な基礎知識を目的、対象、手段、領域の側面からある程度説明できる。</p> <p>目標に達していない：OTに必要な基礎知識を目的、対象、手段、領域の側面から説明できない。</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	作業療法は何か	人間の健康、病気、障害について説明できる			藤井
2	作業療法—その起源と伝承される原理	伝承される原理と作業療法の目的について説明できる		レポート提出	藤井
3	作業療法の仕組み1	情報収集段階の仕組みが説明できる		レポート提出	藤井
4	作業療法の仕組み2	初回評価、治療・支援計画の仕組みが説明できる		レポート提出	藤井
5	作業療法の仕組み3	治療・支援の実践が理解できる		レポート提出	藤井
6	作業療法の実際1	作業療法士の実際が理解できる		レポート提出	スポット
7	作業療法の実際2	作業療法士の実際が理解できる		レポート提出	スポット
8	OT部門の管理と運営	OT部門を通してVision, Leadership, Management, Negotiationが理解できる		レポート提出	佐藤
9	診療報酬と医療経済	作業療法に関わる診療報酬の概要について説明できる		レポート提出	佐藤
10	作業療法の国際性	世界と日本の作業療法が説明できる		レポート提出	藤井
11	作業療法士の資格を有する教員が作業療法士の働く施設へ学生とともに赴く。そして、学生に作業療	早期臨床体験を通じて、作業療法の臨床場面を見学し、作業療法に関する学習意欲を向上させる			佐藤 森 千葉 鈴木 外川

	法の実際を見学させるとともに、作業療法の必要性を教授する。				佐々木 井上 川勝 高畑
12	作業療法士の資格を有する教員が作業療法士の働く施設へ学生とともに赴く。そして、学生に作業療法の実際を見学させるとともに、作業療法の必要性を教授する。	早期臨床体験を通じて、作業療法の臨床場面を見学し、作業療法に関する学習意欲を向上させる			佐藤 森 千葉 鈴木 外川 佐々木 井上 川勝 高畑
13	作業療法士の資格を有する教員が作業療法士の働く施設へ学生とともに赴く。そして、学生に作業療法の実際を見学させるとともに、作業療法の必要性を教授する。	早期臨床体験を通じて、作業療法の臨床場面を見学し、作業療法に関する学習意欲を向上させる			佐藤 森 千葉 鈴木 外川 佐々木 井上 川勝 高畑
14	作業療法士の資格を有する教員が作業療法士の働く施設へ学生とともに赴く。そして、学生に作業療法の実際を見学させるとともに、作業療法の必要性を教授する。	早期臨床体験を通じて、作業療法の臨床場面を見学し、作業療法に関する学習意欲を向上させる			佐藤 森 千葉 鈴木 外川 佐々木 井上 川勝 高畑
15	作業療法士の資格を有する教員が作業療法士の働く施設へ学生とともに赴く。そして、学生に作業療法の実際を見学させるとともに、作業療法の必要性を教授する。	早期臨床体験を通じて、作業療法の臨床場面を見学し、作業療法に関する学習意欲を向上させる			佐藤 森 千葉 鈴木 外川 佐々木 井上 川勝 高畑

日付

6.4.12 (金) 1
6.4.19 (金) 1
6.4.26 (金) 1
6.5.10 (金) 1
6.5.17 (金) 1
6.5.24 (金) 1
6.5.31 (金) 1
6.6.14 (金) 1
6.6.21 (金) 1
6.6.28 (金) 1

第11回～15回は後日連絡

教科書	矢谷令子, 福田恵美子編：作業療法実践の仕組み改訂第2版, 協同医書出版社, 東京, 2014. 藤井浩美, 小山内隆生, 黒淵奈寿編：日常生活活動の作業療法, 中央法規出版株式会社, 2014.
参考書	矢谷令子編：作業療法学概論第2版, 医学書院, 東京, 2011. 杉原素子編：作業療法概論第3版, 協同医書出版社, 東京, 2010
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業2
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修	非該当

得しておかなければならない科目	
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	藤井：研究室27 hfujii@yachts.ac.jp 佐藤：研究室37 tsato@yachts.ac.jp 森：研究室34 nmori@yachts.ac.jp 千葉：研究室22 nchiba@yachts.ac.jp 鈴木：研究室30 yusuzuki@yachts.ac.jp 外川：研究室28 tsotokawa@yachts.ac.jp 佐々木：研究室19 msasaki@yachts.ac.jp 井上：理作共同研究室 kainoue@yachts.ac.jp 川勝：理作共同研究室 ykawakatsu@yachts.ac.jp 高畑：理作共同研究室 mtakahata@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	作業療法国際比較論	科目英語表記	Cross Culture OT Study		
職名、担当教員氏名	非常勤講師 Arlene A. Schmid (コロラド州立大学) 教授 佐藤 寿晃 教授 菊池 昭夫 教授 藤井 浩美 教授 仁藤 充洋 教授 外川 佑 准教授 森 直樹 准教授 千葉 登 准教授 鈴木 由美 講師 佐々木 学 講師 川勝 祐貴 助教 高畑 未樹				
科目責任者氏名	佐々木 学				
学内連絡教員氏名					
学科/分野	作業療法学科	学年	4年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	本学作業療法学科は、開学以来、米国コロラド州立大学(Colorado State University, 以下CSU)応用人間学部作業療法学科より、異なる専門領域の教員を招聘して、本講義を実施してきた。講義の目的は近年の米国における作業療法の状況や医療・福祉などのトピックを講義し、国際感覚を養うと共に、両国における将来の作業療法の在り方を考察するものである。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内容を理解し、米国での作業療法についての知見を持つ ・ 講義テーマについて、日米比較を行うことができる(和文レポート) ・ 講義に英語で質問し、質疑応答を経験する 				
成績評価方法	レポート課題「講義内容について、米国と日本での状況について比較し、考察する(字数2000字程度)」により判断する。提出期限は12月末日とする。				
成績評価基準	A判定: 100-90 秀でた独創的知見が述べられている B判定: 80-89 大学生として発展的な意見が述べられている C判定: 70-79 臨床実習に必要な知識の習得や応用ができると総合的に判断される D判定: 60-69 講義内容をおおまかには理解している E判定: 59以下 臨床家を志す学生として不十分であると思われる				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	直前まで、CSU教員との調整が続くため、直前に開示する	直前まで、CSU教員との調整が続くため、直前に開示する	直前まで、CSU教員との調整が続くため、直前に開示する	直前まで、CSU教員との調整が続くため、直前に開示する	直前まで、CSU教員との調整が続くため、直前に開示する
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
日付					
後日連絡					

教科書	特に指定しない
参考書	特に指定しない

ディプロマ・ポリシーとの関連	作業4
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	作業療法学科 佐々木
備考	

授業科目	基礎作業学		科目英語表記	Basi activities		
職名、担当教員氏名	教 授 藤井 浩美 准 教 授 鈴木 由美 非常勤講師 小山内隆生					
科目責任者氏名	藤井 浩美					
学内連絡教員氏名						
学科／分野	作業療法学科	学年	1年			
科目区分	専門	必修・選択の別	必修			
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	1単位	
授業概要	作業療法(Occupational Therapy: OT)における作業の価値と適応について、理解する。					
到達目標	作業の適応と作業の分類、作業の治療的意味を説明できる。					
成績評価方法	骨格筋レポート、作品の作業分析のレポートで評価します。レポートは、理解度で判断します。骨格筋レポート提出は、次回の講義開始前までに提出することを必須条件とします。提出期限を過ぎた場合は、0点となります。 到達目標に達したか否かの判定は、藤井と鈴木の骨格筋レポートと作品のレポート平均値60%以上とします。					
成績評価基準	特に優れている：根拠を踏まえて、作業の適応と作業の分類、作業の治療的意味について、理論的に説明できる。 優れている：根拠を踏まえて、作業の適応と作業の分類、作業の治療的意味について、説明できる。 良好である：根拠を踏まえて、作業の適応と作業の分類、作業の治療的意味について、ある程度説明できる。 最低限の到達：根拠は乏しいが、作業の適応と作業の分類、作業の治療的意味について、ある程度説明できる。 目標に達していない：作業の適応と作業の分類、作業の治療的意味について、説明できない。					

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	OTと作業	作業がOTに用いられる理由を説明できる。	講義と演習	肩甲骨外転と上方回旋pp97-101, 肩甲骨挙上pp102-104, 肩甲骨内転pp105-107, 肩甲骨下制と内転pp108-110骨格筋レポート作成し、次回の講義前までに鈴木准教授へ提出する。	藤井
2	人と作業活動	人—作業—環境の関係を学習する。	講義	肩甲骨内転と下方回旋pp111-115, 広背筋116-119, 肩関節屈曲pp122-125, 肩関節伸展pp126-129 の骨格筋レポートを作成し、次回の講義前までに提出する。	鈴木
3	作業活動と生活環境	日本人の生活環境と作業活動の関係を学習する。	講義・演習	肩関節外転pp130-133, 肩関節水平外転pp135-137, 肩甲骨水平内転pp138-142, 肩関節外旋pp143-147, 肩関節内旋pp148-153, 肘関節屈曲pp154-158 の骨格筋レポートを作成し、次回の講義前までに鈴木准教授へ提出する。	鈴木
4	作業分析	作業活動を時間的・空間的分析の概念を学習する。	講義・演習	肘関節伸展pp159-163, 前腕回外pp164-167, 前腕回内pp169-172, 手関節屈曲pp173-177, 手関節伸展pp178-182の骨格筋レポートを作成し、次回の講義前までに提出する。	鈴木
5	手と作業活動	手と道具使用との関係を学習する。	講義・演習	指のPIP関節およびDIP関節屈曲pp184-189, MP関節伸展pp190-193, MP関節屈曲pp194-198, 指外転pp199-200, 指内転pp201-202の骨格筋レポートを作成し、6月	鈴木

				14日(金)13:00までに鈴木准教授へ提出する。	
6	心理社会的技能と作業分析	精神科作業療法領域における作業分析について説明できる。	講義と演習		小山内 藤井
7	紙細工の実際	紙細工の方法を説明できる。	演習と実習	母指MCPとIP屈曲pp205-207, 母指IP関節屈曲p208, 母指MCPとIP伸展 pp209-212, 母指外転pp213-215, 母指内転pp216-218, 対立運動pp219-221の骨格筋レポートを作成し、6月28日(金)13:00までに鈴木准教授へ提出する。	小山内 藤井
8	紙細工の作業・動作分析	代表的な紙細工の作業・動作分析ができる。	演習と実習	折り鶴と紙細工の作業分析をレポートに作成し、7月12日(金)13:00までに藤井教授に提出する。	小山内 藤井

日付

6.4.12(金)4
6.4.19(金)4
6.4.26(金)4
6.5.10(金)4
6.5.11(土)3~5
6.5.17(金)4

教科書	教科書：新・徒手筋力検査法(第10版)
参考書	参考図書：鈴木明子, 福田恵美子訳：フィドラーのアクティビティ論, 医学書院, 2007. 小林夏子, 福田恵美子：基礎作業学, 医学書院, 2007.
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業3
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	藤井：研究室27 hfujii@yachts.ac.jp 鈴木：研究室30 yusuzuki@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	基礎作業学実習		科目英語表記	Practice OT for Basic activities	
職名、担当教員氏名	教 授 藤井 浩美 准 教 授 鈴木 由美 講 師 佐々木 学 非常勤講師 加藤 拓彦				
科目責任者氏名	藤井 浩美				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学科	学年	1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	作業療法(Occupational Therapy: OT)で用いられる様々な介入技法を通じて、一つ一つの技法の適用と多様な領域で活用について、理解する。				
到達目標	作業の適応と作業の分類、作業の治療的意味について、作業分析をもとに説明できる。				
成績評価方法	作業分析のレポートで評価します。レポートは、理解度で判断します。レポート提出は、次回講義開始時に提出することを必須条件とします。提出期限を過ぎた場合は、0点となります。 到達目標に達したか否かの判定は、藤井、鈴木、佐々木のレポート課題の平均点が60%以上とします。				
成績評価基準	特に優れている：根拠を踏まえて、作業の適応と作業の分類、作業の治療的意味について、作業分析をもとに理論的に説明できる。 優れている：根拠を踏まえて、作業の適応と作業の分類、作業の治療的意味について、作業分析をもとに説明できる。 良好である：根拠を踏まえて、作業の適応と作業の分類、作業の治療的意味について、作業分析をもとにある程度説明できる。 最低限の到達：根拠は乏しいが、作業の適応と作業の分類、作業の治療的意味について、作業分析をもとにある程度説明できる。 目標に達していない：作業の適応と作業の分類、作業の治療的意味について、作業分析をもとに説明できない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	陶芸の治療的応用	陶芸の治療作用と副作用が説明できる。	講義と演習	第1回授業前に服装(エプロン)や手拭き(タオル)を準備する。	藤井 加藤
2	陶芸の治療的応用	陶芸の治療作用と副作用が説明できる。	演習と実習		藤井 加藤
3	造形と素焼の実際、作業分析	造形と素焼の方法を説明できる	実習		藤井 加藤
4	造形と素焼の方法を説明できる	物と自分、他者と自分の関係を理解し、説明できる	実習	実際に素焼きを行う。陶芸の治療作用と副作用のレポートを作成し、提出する。	藤井 加藤
5	革細工の治療的応用	革細工の工程を理解する。	個別に革細工を経験する		鈴木
6	革細工の治療的応用	革細工の工程を理解する。	個別に革細工を経験する。	革細工の治療的応用	鈴木
7	革細工の治療的応用	革細工の工程を理解し、作業分析を実施する。治療的応用を考察する。	革細工の工程分析を行う。治療的応用を考察する。	革細工の工程分析、治療的応用はレポート課題とする。	鈴木
8	革細工の治療的応用	革細工の工程を理解し、作業分析を実施する。治療的応用を考察する。	革細工の工程分析を行う。治療的応用を考察する。	革細工の工程分析、治療的応用はレポート課題とする。	鈴木
9	音楽の治療的応用	音楽を通しての関わり方、治療への転換を学習する。	トーンチャイム等を用いて、合奏を経験する。		スポット 浅野雅子 鈴木
10	音楽の治療的応用	音楽を通しての関わり方、治療への転換を学習する。	トーンチャイム等を用いて、合奏を経験する。		スポット 浅野雅子 鈴木
11	集団で行う作業活動 絵画	集団での創作活動の心理的効果を学習する	集団活動としての絵画を経験する		鈴木
12	集団で行う作業活動 絵画	集団での創作活動の心理的効果を学習する	集団活動としての絵画を経験する		鈴木
13	絵付け・施釉の実際	絵付け・施釉の方法を説明できる	講義	第13回授業前に服装(エプロン)や手拭き(タオル)を準備する。	藤井 加藤

				備する。	
14	絵付け・施釉の実際	絵付け・施釉の方法を説明できる	演習と実習		藤井 加藤
15	本焼きの実際、作業分析	本焼きの方法を説明できる、作品の治療的利用について説明できる	実習		藤井 加藤
16	本焼きの実際、作業分析	物と自分、他者と自分の関係を理解し、説明できる	実習	実際に本焼き行う。作品の治療的応用についてのレポートを作成し、提出する。焼きあがった作品を撮影し、藤井と加藤にメールで提出する。	藤井 加藤
17	精神科医療対象者への介入ガイド	精神科医療対象者への介入ガイドを概説する	グループワーク		佐々木
18	社会的マナー	社会的マナーについて考察する	グループワーク		佐々木
19	セルフコントロール	セルフコントロールについて理解する	グループワーク		佐々木
20	レジリエンス	レジリエンスを理解する	グループワーク		佐々木
21	感謝	感謝はなぜ必要か考察する	グループワーク		佐々木
22	アドバイス	治療過程では、対象者にアドバイスする場面があるが、何を重視するべきかを考察する	グループワーク		佐々木
23	反省会	反省会は、プログラム終了後にグループワークとして実施され、対象者の認知が確認される	グループワーク		佐々木
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
日付					

教科書	
参考書	鈴木明子, 福田恵美子訳: フィドラーのアクティビティ論. 医学書院, 2007. 小林夏子, 福田恵美子: 基礎作業学. 医学書院, 2007.
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業3
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内	

容	
教員の連絡先	藤 井：研究室27 hfujii@yachts.ac.jp 鈴 木：研究室30 yusuzuki@yachts.ac.jp 佐々木：研究室19 msasaki@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	運動学Ⅰ		科目英語表記	KinesiologyⅠ		
職名、担当教員氏名	教授 佐藤 寿晃 教授 加藤 浩 教授 鈴木 克彦 教授 仁藤 充洋 講師 室伏 祐介					
科目責任者氏名	佐藤 寿晃					
学内連絡教員氏名						
学科／分野	理学療法学科／作業療法学科	学年	1年			
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科－必修 作業療法学科－必修			
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	2単位	
授業概要	人体にある様々な関節の構造やその機能・メカニズムについて教授する。身体の基本的な動作を運動学・運動学的に解説する。					
到達目標	ディプロマ・ポリシー理学2／理学5／作業2に関連して ① 上肢・下肢・体幹の関節運動およびその仕組みを説明できる。 ② 主要な筋の起始、停止、走行、作用、神経支配を説明できる。					
成績評価方法	定期試験（100％）：到達目標①・②					
成績評価基準	到達目標①・②を評価する 特に優れている； 適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明(表現)できる 優れている； 根拠をふまえて論理的に説明(表現)できる 良好である； 根拠を用いてある程度論理的に説明(表現)できる 最低限の到達； 根拠は乏しいがある程度論理的に説明(表現)できる 目標に到達していない； 説明(表現)できない					

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	運動学概説	運動学が臨床でどのように活用できるのか概説します。また、身体運動学の捉え方と空間的表現について講義します。	講義	予習課題 講義内容をより深く理解するために教科書（エッセンシャル・キネシオロジー）の第1章キネシオロジーの基本原則（pp1～）を予習しておいて下さい。 復習課題 講義内容の振り返りシートの提出	加藤
2	運動器の構造と機能	関節分類、骨格筋構造、運動方向、筋収縮	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	佐藤 仁藤
3	肩複合体の運動学Ⅰ	肩関節複合体の構造と運動・筋Ⅰ	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	佐藤 仁藤
4	肩複合体の運動学Ⅱ	肩関節複合体の構造と運動・筋Ⅱ	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	佐藤 仁藤
5	肘関節・前腕の運動学	肘および前腕の構造と運動・筋	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	佐藤 仁藤
6	手関節・手指の運動学Ⅰ	手関節および手指の構造と運動・筋Ⅰ	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	佐藤 仁藤
7	手関節・手指の運動学Ⅱ	手関節および手指の構造と運動・筋Ⅱ	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	佐藤 仁藤

8	股関節の運動学Ⅰ	股関節の構造と運動・筋Ⅰ	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	室伏
9	股関節の運動学Ⅱ	股関節の構造と運動・筋Ⅱ	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	室伏
10	膝関節の運動学	膝関節の構造と運動・筋	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	室伏
11	足関節・足部の運動学	足関節および足部の構造と運動・筋の作用との関連について講義する。	講義	予習課題 講義内容をより深く理解するために教科書（エッセンシャル・キネシオロジー）の第11章 足関節と足部の構造と機能（pp292～）を予習しておいてください 復習課題 講義内容の振り返りシートの提出	鈴木克彦
12	脊柱・体幹の運動学Ⅰ	脊柱の弯曲、頸椎・胸椎・腰椎・仙椎の構造と運動との関連について講義する。	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	予習課題 講義内容をより深く理解するために教科書（エッセンシャル・キネシオロジー）の第8章 脊柱の構造と機能（pp169～）を予習しておいてください。 復習課題 講義内容の振り返りシートの提出	鈴木克彦
13	換気・呼吸の運動学	胸郭の構造と換気・呼吸の運動学について講義する。	講義	予習課題 講義内容をより深く理解するために教科書（エッセンシャル・キネシオロジー）の第13章 咀嚼と換気のキネシオロジー（pp358～）を予習しておいてください。 復習課題 講義内容の振り返りシートの提出	鈴木克彦
14	姿勢と動作の捉え方	身体運動学での姿勢と動作の表現方法について講義します。	講義	予習課題 講義内容をより深く理解するために事前に配布する資料を予習しておいて下さい。 復習課題 講義内容の振り返りシートの提出	加藤
15	歩行	歩行周期の分類について講義します。	講義	予習課題 講義内容をより深く理解するために教科書（エッセンシャル・キネシオロジー）の第12章歩行の基礎知識（pp331～）を予習しておいて下さい。 復習課題 講義内容の振り返りシートの提出	加藤

日付

6.9.25 (水) 5
6.9.30 (月) 5
6.10.2 (水) 5
6.10.7 (月) 5
6.10.9 (水) 5
6.10.16 (水) 5
6.10.21 (月) 5

6.10.23 (水) 5
 6.10.28 (月) 5
 6.10.30 (水) 5
 6.11. 6 (水) 5
 6.11.11 (月) 5
 6.11.13 (水) 5
 6.11.18 (月) 5
 6.11.20 (水) 5

教科書	エッセンシャル・キネシオロジー（原著第3版）. Paul Jackson Mansfield（著）. 弓岡光徳、他（監訳）. 南江堂. 2020
参考書	プロメテウス解剖学アトラス 運動器系（第3版）. 医学書院. 2017 基礎運動学（第6版）. 医歯薬出版. 2020 必要に応じてプリントを配布します。
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2/理学5/作業2
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	佐藤：研究室37 tsato@yachts.ac.jp 加藤：研究室36 hikato@yachts.ac.jp 鈴木：研究室31 ksuzuki@yachts.ac.jp 仁藤：研究室26 mnito@yachts.ac.jp 室伏：研究室40 ymurofushi@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	運動学 II		科目英語表記	Kinesiology II		
職名、担当教員氏名	教授 加藤 浩 教授 佐藤 寿晃 准教授 鈴木 由美					
科目責任者氏名	加藤 浩					
学内連絡教員氏名						
学科／分野	理学療法学科／作業療法学科	学年	2年			
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科ー必修 作業療法学科ー必修			
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位	
授業概要	① 運動力学的分析に必要な重力、床反力、関節モーメントの概念を説明し、その分析方法を教授する。 ② 運動学 I で学んだ身体機能解剖の知識を利用して、運動や動作の具体的な分析方法を教授する。 ③ 基本動作として寝返りや起き上がり等を、日常生活活動として更衣動作や食事動作等を分析する。グループワークによる直視および動作観察・分析を中心に講義・演習を展開する。					
到達目標	ディプロマ・ポリシー理学2／理学5／作業2に関連して ① 運動力学分析に必要な重力、床反力、関節モーメントの概念を理解し、ベクトルを用いて分析内容を可視化し説明できる。 ② 運動や動作を観察し、運動学的用語を用いて表現することができる。 ③ 基本的な起居動作や身の回り動作の運動パターンと各関節の可動域、筋活動、重心の動きを関連付けて説明できる。					
成績評価方法	筆記試験（期末）：100% [到達目標①・②・③を評価]					
成績評価基準	到達目標①・②・③ 特に優れている : 論理的、かつ明確に十分説明（表現）できる。 優れている : 論理的、かつ明確に概ね説明（表現）できる。 良好である : 論理的に概ね説明（表現）できる。 最低限の到達 : 一部不十分な所もあるが、ある程度説明（表現）できる。 目標に到達していない : 説明できない。					

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	力とベクトル	力の定義及びベクトルの概念と基本演算について学習します。	講義（聴講型）	予習課題 本講義は基礎物理（力学）の知識が必要です。参考図書（姿勢と運動の力学がやさしくわかる本）等で予習しておいて下さい。 復習課題 第1回講義内容の振り返りシートの提出	加藤 浩
2	重力と身体重心	重力と身体重心の概念、さらに重心の求め方について学習します。	講義（聴講型）	予習課題 第1回講義で配布した第2回講義資料を事前に読んでおくこと。 復習課題 第2回講義内容の振り返りシートの提出	加藤 浩
3	身体重心と支持基底面	姿勢・動作分析に必要な支持基底面と身体重心の関係について学習します。	講義（聴講型）	予習課題 第2回講義で配布した第3回講義資料を事前に読んでおくこと。 復習課題 第3回講義内容の振り返りシートの提出	加藤 浩
4	身体重心の分析	椅子からの立ち上がり動作や歩行動作を例に身体重心位置の分析を実習形式で行います。	講義（聴講型） 実技実習	予習課題 第3回講義で配布した第4回講義資料を事前に読んでおくこと。 復習課題	加藤 浩

				第4回講義内容の振り返りシートの提出	
5	運動の法則	運動力学的分析に必要な運動方程式と運動の法則（作用・反作用の法則）について学びます。	講義（聴講型）	予習課題 第4回講義で配布した第5回講義資料を事前に読んでおくこと。 復習課題 第5回講義内容の振り返りシートの提出	加藤 浩
6	床反力	ヒトが地面に体重や力を加えた時に地面から受ける反作用の力（床反力）の概念について学習します。	講義（聴講型）	予習課題 第5回講義で配布した第6回講義資料を事前に読んでおくこと。 復習課題 第6回講義内容の振り返りシートの提出	加藤 浩
7	関節モーメント	人体におけるテコと関節モーメントの概念について学習します。	講義（聴講型）	予習課題 第6回講義で配布した第7回講義資料を事前に読んでおくこと。 復習課題 第7回講義内容の振り返りシートの提出	加藤 浩
8	関節モーメントの分析	椅子からの立ち上がり動作や歩行動作を例に関節モーメント（外部・内部モーメント）の捉え方について学習します。	講義（聴講型）	予習課題 第7回講義で配布した第8回講義資料を事前に読んでおくこと。 復習課題 第8回講義内容の振り返りシートの提出	加藤 浩
9	日常生活活動に必要な肩複合体の機能	肩複合体の関節、運動	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	佐藤寿晃
10	日常生活活動に必要な肘複合体と前腕の機能	肘複合体と前腕の関節、運動	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	佐藤寿晃
11	日常生活活動に必要な手関節と手指機能	手関節と手指機能	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	佐藤寿晃
12	生活行為の観察と分析	更衣動作・食事動作の観察と分析を例に、生活行為の分析のポイントを学習します。	講義	上肢の運動学をしっかりと復習しておくこと。	鈴木由美
13	生活行為の観察と分析－更衣動作	更衣動作の観察と分析を通して、生活行為の分析を学習します。	実技実習 グループワーク	上肢の運動学をしっかりと復習しておくこと。	鈴木由美
14	生活行為の観察と分析－更衣動作	第13回に引き続き、更衣動作の観察と分析を通して、生活行為の分析を学習します。	実技実習 グループワーク	分析結果のまとめ・プレゼンテーションの準備をすること。 プレゼンテーション資料の提出	鈴木由美
15	生活行為の観察と分析	第13回、第14回で実施した内容を、グループごとに15分以内でプレゼンテーションします。	プレゼンテーション	各グループのプレゼンテーション内容を、配布資料とともに見返しておくこと。	鈴木由美

日付

6. 4.12 (金) 1
6. 4.19 (金) 1
6. 4.26 (金) 1
6. 5.10 (金) 1
6. 5.17 (金) 1
6. 5.24 (金) 1
6. 5.31 (金) 1
6. 6.14 (金) 1
6. 6.21 (金) 1
6. 6.28 (金) 1

6.7.5 (金) 1
 6.7.12 (金) 1
 6.7.19 (金) 1
 6.7.24 (水) 1
 6.7.26 (金) 1

教科書	エッセンシャル・キネシオロジー (原著第3版). Paul Jackson Mansfield (著), 弓岡光徳 (訳), 南江堂
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・筋骨格系のキネシオロジー, Neumann DA (著), 嶋田智明 (訳), 医歯薬出版 ・姿勢と運動の力学がやさしくわかる本, 勝平純司 (著), ナツメ社 ・必要に応じてプリントを配布します。
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2/理学5/作業2
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	加藤 浩 : 研究室36 hikato@yachts.ac.jp 佐藤 寿晃 : 研究室37 tsato@yachts.ac.jp 鈴木 由美 : 研究室30 yusuzuki@yachts.ac.jp
備考	<p>動作の観察・分析は障がい構造を把握する上で、欠かすことのできない重要な評価手段です。</p> <p>普段の生活においても運動学的に観察・分析する思考パターンを身につけて下さい。</p> <p>第12回～第15回の生活行為の分析のプレゼンテーション (第15回) は、発表内容が多すぎて時間切れになってしまうグループが毎年出ています。発表時間を守ることはプレゼンテーションの重要な要素です。</p> <p>必ず事前に、全体を通して読み発表内容を絞り込んでください。</p>

授業科目	体表解剖学	科目英語表記	Surface Anatomy		
職名、担当教員氏名	准教授 千葉 登 助 教 高畑未樹				
科目責任者氏名	千葉 登				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学	学年	1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	作業療法に必要な体表からの肉眼解剖と機能解剖及び触診技術を理解・習得させる。				
到達目標	1. 体表からの肉眼解剖と筋の機能を説明できる。 2. 体表からの骨・筋・靭帯の触診方法を説明できる。 3. 体表からの骨・筋・靭帯の触診ができる				
成績評価方法	到達目標1, 2, 3を期末試験80%(60%以上を合格)、MS Formsでの小テスト20%で評価する。				
成績評価基準	<p>到達目標1. 体表からの肉眼解剖と筋の機能を説明できる。 特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない；説明できない</p> <p>到達目標2. 体表からの骨・筋・靭帯の触診方法を説明できる。 特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない；説明できない</p> <p>到達目標3. 体表からの骨・筋・靭帯の触診ができる 特に優れている；骨指標となる部分や筋の作用を確認し確実に触診できる 優れている；骨指標となる部分や筋の作用を確認しながら触診できる 良好である；骨指標となる部分や筋を触診できる 最低限の到達；骨・筋・靭帯を大まかではあるが触診できる 目標に到達していない；曖昧なところ、全く違う場所を触診している</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	触診の基本	触診の基本的事項と前腕と頸部の触診	講義と演習	事前に配布している資料を読んで予習をする	千葉・高畑
2	頸・頭部・体幹	頸・頭部・体幹の触診	頸・頭部・体幹の骨及び筋・靭帯を確認し、ペアで触診し確認する。	MS Formsにて設問10題を出題。第1回目の復習(5題)、第2回目の予習(5題)となっているので次回講義前までに回答し送信すること。	千葉・高畑
3	上肢帯	肩甲骨・鎖骨の骨及び筋・靭帯の触診	肩甲骨・鎖骨の骨及び筋・靭帯を確認し、ペアで触診し確認する。	MS Formsにて設問10題を出題。第2回目の復習(5題)、第3回目の予習(5題)となっているので次回講義前までに回答し送信すること。	千葉・高畑
4	上肢(上腕)	上腕部の骨及び筋・靭帯の触診	上腕部の骨及び筋・靭帯を確認し、ペアで触診し確認する。	MS Formsにて設問10題を出題。第3回目の復習(5題)、第4回目の予習(5題)となっているので次回講義前までに回答し送信すること。	千葉・高畑
5	上肢(前腕)	上肢(前腕)の触診	上腕部の骨及び筋・靭帯を確認し、ペアで触診し確認する	MS Formsにて設問10題を出題。第4回目の復習(5題)、	千葉・高畑

			る。	第5回目の予習（5題）となっているので次回講義前までに回答し送信すること。	
6	上肢（手・手指）	手・手指の骨及び筋・靭帯	手・手指の骨及び筋・靭帯を確認し、ペアで触診し確認する。	MS Formsにて設問10題を出題。第5回目の復習（5題）、第6回目の予習（5題）となっているので次回講義前までに回答し送信すること。	千葉・高畑
7	下肢（骨盤・大腿部）	骨盤・大腿部の骨及び筋・靭帯の触診	骨盤・大腿部の骨及び筋・靭帯を確認し、ペアで触診し確認する。	MS Formsにて設問10題を出題。第6回目の復習（5題）、第2回目の予習（7題）となっているので次回講義前までに回答し送信すること。	千葉・高畑
8	下肢（下腿部・足部）	下腿部・足部の骨及び筋・靭帯	下腿部・足部の骨及び筋・靭帯を確認し、ペアで触診し確認する。	MS Formsにて設問10題を出題。第7回目の復習（5題）、第8回目の予習（5題）となっているので次回講義前までに回答し送信すること。	千葉・高畑

日付

6.12.2 (月) 3
6.12.9 (月) 3
6.12.16 (月) 3
6.12.23 (月) 3
7.1.6 (月) 3
7.1.20 (月) 3
7.1.21 (火) 3
7.1.27 (月) 3

教科書	教科書：触診解剖学アトラス第3版 医学書院,東京,2018.
参考書	参考：新・徒手筋力測定法 原著第10版 共同医書出版,東京,2020.
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業2
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	千葉 登：研究室22 nchiba@yachts.ac.jp 高畑未樹：理学作業共同研究室 mtakahata@yachts.ac.jp
備考	生体形態学・運動学Ⅰで教わった知識の復習をして臨むこと。 実技を伴う講義となりますので、実技にふさわしい服装で出席すること。

授業科目	作業療法管理学	科目英語表記	Management of OT		
職名、担当教員氏名	教授 佐藤 寿晃 教授 藤井 浩美				
科目責任者氏名	佐藤 寿晃				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学科	学年	4年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	2単位
授業概要	本科目では 1. 作業療法におけるマネジメント 2. リスク管理の重要性 3. 作業療法の職種、諸制度 4. 作業療法士のキャリア開発 について教授する。				
到達目標	1. 作業療法におけるマネジメントについて説明できる。 2. リスク管理の重要性について説明できる。 3. 作業療法の職種、諸制度について説明できる。 4. 作業療法士のキャリア開発について説明できる。				
成績評価方法	到達目標内容をまとめたレポート（100%）				
成績評価基準	到達目標1～4を評価する 特に優れている； 適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明(表現)できる 優れている； 根拠をふまえて論理的に説明（表現）できる 良好である； 根拠を用いてある程度論理的に説明（表現）できる 最低限の到達； 根拠は乏しいがある程度論理的に説明（表現）できる 目標に到達していない； 説明（表現）できない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	作業療法におけるマネジメントⅠ	マネジメントとは マネジメントプロセス機能と PDCAサイクル	スライド資料に基づいて学習 内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	佐藤
2	作業療法におけるマネジメントⅡ	組織とは 組織と個人 病院施設の特徴と組織の中での 作業療法士の役割	スライド資料に基づいて学習 内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	佐藤
3	作業療法におけるマネジメントⅢ	情報とは チーム医療・多職種連携とコミュニケーション 情報の取り扱い	スライド資料に基づいて学習 内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	佐藤
4	作業療法におけるマネジメントⅣ	サービスの基本的特性と構成 医療におけるサービスの特徴 作業療法におけるサービスの マネジメント	スライド資料に基づいて学習 内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	佐藤
5	作業療法におけるマネジメントⅤ	医療におけるリスクマネジメントと医療事故 ヒューマンエラー 作業療法におけるリスクマネジメント	スライド資料に基づいて学習 内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	佐藤
6	作業療法におけるマネジメントⅥ	人のマネジメント 物のマネジメント 経済性のマネジメント	スライド資料に基づいて学習 内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	佐藤
7	作業療法におけるマネジメントⅦ	情報のマネジメント タイムマネジメント ストレスマネジメント	スライド資料に基づいて学習 内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	佐藤

8	作業療法におけるマネジメントⅧ	作業療法の実践から 病院施設における作業療法部門のマネジメント 地域で活動する作業療法士のマネジメント 行政機関で活動する作業療法士のマネジメント	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	佐藤
9	作業療法の役割と職域	作業療法の法律と定義 作業療法の職域 これから期待される作業療法の職域	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	藤井
10	職業倫理Ⅰ	倫理とは 作業療法士の職業倫理と研究倫理 ハラスメントとハラスメント防止	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	藤井
11	作業療法を取り巻く諸制度Ⅰ	医療保険制度 介護保険制度	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	藤井 スポット
12	作業療法を取り巻く諸制度Ⅱ	地域包括ケアシステム その他、諸制度	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	藤井 スポット
13	作業療法士のキャリア開発Ⅰ	臨床と実践知と研究 実践と研究	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	藤井 スポット
14	作業療法士のキャリア開発Ⅱ	自己研鑽 資格取得 国際貢献	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	藤井 スポット
15	ワークライフバランス	ワークライフバランスとは ライフステージに合わせた働き方の選択 個々の希望にあったワークライフバランス	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	藤井 スポット

日付

6.9.27 (金) 1・2
6.10.4 (金) 1・2
6.10.11 (金) 1・2
6.10.18 (金) 1・2
6.10.25 (金) 1・2
6.11.1 (金) 1・2
6.11.8 (金) 1・2
6.11.15 (金) 1

教科書	必要に応じてプリント配布
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	佐藤：研究室37 tsato@yachts.ac.jp 藤井：研究室27 hfujii@yachts.ac.jp

授業科目	作業療法評価学概論	科目英語表記	Introduction to OT Evaluation		
職名、担当教員氏名	教授 佐藤 寿晃 准教授 鈴木 由美				
科目責任者氏名	佐藤 寿晃				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学科	学年	1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	作業療法(Occupational Therapy: OT)に必要な評価の考え方を学ぶ。				
到達目標	1.OTを展開する上で必要な評価の考え方、具体的方法を説明できる。				
成績評価方法	小テスト：前回の講義で重要な内容を次の講義開始後10分間で毎回確認します。各回ともに60点以上を合格とします。 最終成績：期末試験（65%）、7回の小テスト（35%）の結果から成績評価を行います。				
成績評価基準	到達目標1を評価する 特に優れている； 適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明(表現)できる 優れている； 根拠をふまえて論理的に説明（表現）できる 良好である； 根拠を用いてある程度論理的に説明（表現）できる 最低限の到達； 根拠は乏しいがある程度論理的に説明（表現）できる 目標に到達していない； 説明（表現）できない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	OT評価学の基礎	評価の意義と目的、対象、評価手順、治療計画と記録および報告の流れを説明できる。	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	佐藤
2	領域共通の評価法1	観察、面接、検査と測定、作業活動の内容と評価尺度を説明できる。	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。テスト①	佐藤
3	領域共通の評価法2	国際生活機能分類に沿った日常生活活動のとらえ方を説明できる。	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。テスト②	佐藤
4	領域共通の評価法3	身辺動作の作業分析を説明できる。	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。テスト③	佐藤
5	領域共通の評価法4	全身状態のとらえ方を説明できる（生命維持兆候や意識など）。	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。テスト④	鈴木
6	領域共通の評価法5	身体状態のとらえ方を説明できる（関節可動域、感覚、筋力、姿勢反射、協調性、脳神経など）。	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。テスト⑤	鈴木
7	領域共通の評価法6	精神状態のとらえ方ができる（意識、感情、記憶、思考、知能、認知など）。	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。テスト⑥	鈴木
8	修得項目の確認	OTを展開する上で必要な評価の考え方、具体的方法を説明できる。	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。テスト⑦	鈴木
日付					
6.9.30 (月) 3 6.10.7 (月) 3 6.10.21 (月) 3 6.10.28 (月) 3 6.11.11 (月) 3 6.11.18 (月) 3 6.11.25 (月) 3・4					

教科書	藤井浩美編：日常生活活動の作業療法. 中央法規出版株式会社, 2014. 矢谷令子監：作業療法評価学（第3版）. 医学書院、東京, 2017. 津山直一：新・徒手筋力検査法（第8版）. 協同医書出版社.東京,2008.
参考書	特になし
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業3
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	佐藤：研究室37 tsato@yachts.ac.jp 鈴木：研究室30 yusuzuki@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	作業療法評価学演習Ⅰ	科目英語表記	Practicum OT for Evaluation Ⅰ		
職名、担当教員氏名	准教授 千葉 登 教授 外川 佑 助教 高畑未樹				
科目責任者氏名	千葉 登				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	身体機能障害および高齢期における作業療法評価に共通かつ基礎となる検査・測定を中心に理解させる				
到達目標	1. 各種検査・測定を実施する目的について説明できる。 2. 各種検査・測定を実施できる。 3. 各種検査・測定を被験者に配慮して実施できる。				
成績評価方法	実技試験（口頭試問含む）50%： 到達目標2, 3を評価 筆記試験（期末試験）50%： 到達目標1を評価				
成績評価基準	最終成績：実技試験、期末試験ともに合格（60点以上）に達し、実技試験（50%）と期末試験（50%）の割合で成績評価を決定します。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	オリエンテーション 全身状態の観察	授業の進め方等 意識、バイタルサインの評価	本授業のオリエンテーション を行い確認・注意事項を説明 します。 教員が検査測定の留意点等解 説しながらデモンストレーシ ョンを行い、その後ペアで練 習をします。	授業で行った実技内容を復習 すること。	千葉・外川・高畑
2	身体計測	骨マーカーの触診、身体計測	教員が検査測定の留意点等解 説しながらデモンストレーシ ョンを行い、その後ペアで練 習をします。	形態計測について、事前配布 する資料を読んで予習してく ることが望ましい。	千葉・外川・高畑
3	関節可動域測定Ⅰ	上肢の関節可動域の測定	教員が検査測定の留意点等解 説しながらデモンストレーシ ョンを行い、その後ペアで練 習をします。	関節可動域測定法のオリジナ ルDVDを視聴し予習してく ることが望ましい。 関節可動域測定法の資料（基 本事項と肩関節）にて予習し てくることが望ましい。	千葉・外川・高畑
4	関節可動域測定Ⅱ	上肢の関節可動域の測定	教員が検査測定の留意点等解 説しながらデモンストレーシ ョンを行い、その後ペアで練 習をします。	関節可動域測定法のオリジナ ルDVDを視聴し予習してく ることが望ましい。 関節可動域測定法の資料（肘 関節、前腕、手関節）にて予 習してくることが望ましい。	高畑・千葉
5	関節可動域測定Ⅲ	手指の関節可動域の測定	教員が検査測定の留意点等解 説しながらデモンストレーシ ョンを行い、その後ペアで練 習をします。	関節可動域測定法のオリジナ ルDVDを視聴及び配布資料 （手指の部分）にて予習して くることが望ましい。	高畑・千葉
6	関節可動域測定Ⅳ	下肢の関節可動域の測定	教員が検査測定の留意点等解 説しながらデモンストレーシ ョンを行い、その後ペアで練 習をします。	関節可動域測定法のオリジナ ルDVDを視聴及び配布資料 （下肢の部分）にて予習して くることが望ましい。	高畑・千葉
7	関節可動域測定Ⅴ	体幹の関節可動域の測定	教員が検査測定の留意点等解 説しながらデモンストレーシ ョンを行い、その後ペアで練 習をします。	関節可動域測定法のオリジナ ルDVDを視聴及び配布資料 （体幹、その他の部分）にて	千葉・高畑

				予習してることが望ましい。	
8	徒手筋力検査Ⅰ	上肢の徒手筋力検査の実施	教員が検査測定の留意点等解説しながらデモンストレーションを行い、その後ベアで練習をします。	教科書「新・徒手筋力測定法」P2-12、p122-153 を読んで予習してることが望ましい。	千葉・高畑
9	徒手筋力検査Ⅱ	上肢、肩甲帯の徒手筋力検査の実施	教員が検査測定の留意点等解説しながらデモンストレーションを行い、その後ベアで練習をします。	教科書「新・徒手筋力測定法」p154-183、p94-119 を読んで予習してることが望ましい。	千葉・高畑
10	徒手筋力検査Ⅲ	手指の徒手筋力検査の実施	教員が検査測定の留意点等解説しながらデモンストレーションを行い、その後ベアで練習をします。	教科書「新・徒手筋力測定法」p184-221 を読んで予習してることが望ましい。	高畑・千葉
11	徒手筋力検査Ⅳ	下肢の徒手筋力検査の実施	教員が検査測定の留意点等解説しながらデモンストレーションを行い、その後ベアで練習をします。	教科書「新・徒手筋力測定法」p228-295 を読んで予習してることが望ましい。	千葉・高畑
12	徒手筋力検査Ⅴ	下肢の徒手筋力検査の実施	教員が検査測定の留意点等解説しながらデモンストレーションを行い、その後ベアで練習をします。	教科書「新・徒手筋力測定法」p228-295 を読んで予習してることが望ましい。	千葉・高畑
13	徒手筋力検査Ⅵ 筋緊張（視診・触診）	頸部、体幹の徒手筋力検査の実施 筋緊張（視診・触診）の診方	教員が検査測定の留意点等解説しながらデモンストレーションを行い、その後ベアで練習をします。	教科書「新・徒手筋力測定法」p24-67 を読んで予習してることが望ましい。 筋緊張検査について、事前配布する資料を読んで予習してることが望ましい。	高畑・千葉・外川
14	脳神経検査	脳神経検査の実施	教員が検査測定の留意点等解説しながらデモンストレーションを行い、その後ベアで練習をします。	教科書「ベッドサイドの神経の診かた」p105-126を 読んで予習してることが望ましい。	高畑・外川
15	感覚・知覚検査	感覚検査（表在，深部，複合）の実施	教員が検査測定の留意点等解説しながらデモンストレーションを行い、その後ベアで練習をします。	教科書「ベッドサイドの神経の診かた」p93-103 を読んで予習してることが望ましい。	外川・高畑
16	反射検査Ⅰ	反射検査（表在，深部，病的）の実施	教員が検査測定の留意点等解説しながらデモンストレーションを行い、その後ベアで練習をします。	教科書「ベッドサイドの神経の診かた」p65-91 を読んで予習してることが望ましい。	外川・高畑
17	反射検査Ⅱ	反射検査（原始，姿勢，口腔）の実施	教員が検査測定の留意点等解説しながらデモンストレーションを行い、その後ベアで練習をします。	教科書「ベッドサイドの神経の診かた」p65-91 を読んで予習してることが望ましい。	外川・高畑
18	平衡機能検査・協調性検査	平衡機能・協調性検査の実施	教員が検査測定の留意点等解説しながらデモンストレーションを行い、その後ベアで練習をします。	標準作業療法学 作業療法評価学第3版 姿勢反射検査（p138-150）、協調性検査（p160-166）の章および事前配布する資料を読んで予習してることが望ましい。	外川・高畑
19	片麻痺機能検査	片麻痺機能検査（Br.stageテスト）の講義	教員が検査測定の留意点等解説しながらデモンストレーションを行い、その後ベアで練習をします。	事前に配布する資料を読んで予習・復習すること。	千葉・高畑
20	上肢機能検査 視知覚機能検査	MFT、VPTA、BVRT、STEFの実施	3グループに分かれて3課題（45分毎）をローテーションして実施 1班＝（A）MFT→（B）→（C） 2班＝（B）VPTA、BVRT→（C）→（A） 3班＝（C）STEF→（A）→（B）	視知覚機能検査について、事前配布する資料を読んで予習してることが望ましい。	千葉・外川・高畑

21	上肢機能検査 視覚機能検査	MFT、VPTA、BVRT、STEF の実施	3グループに分かれて3課題 (45分毎)をローテーション して実施 1班= (A) MFT→ (B) → (C) 2班= (B) VPTA、BVRT→ (C) → (A) 3班= (C) STEF→ (A) → (B)	視覚機能検査について、事 前配布する資料を読んで予習 していただくことが望ましい。	千葉・外川・高畑
22	知的機能検査	MMSE, HDS-R, Kohs , RCPM	教員が検査測定の留意点等解 説しながらデモンストレーシ ョンを行い、その後ペアで練 習をします。	知的機能検査について、事前 配布する資料を読んで予習し ていただくことが望ましい。	外川・高畑
23	高齢者体力テスト	握力,ピンチ力,立ち座りテス ト,10m歩行,開眼片脚立 ち,TUG,FR	教員が検査測定の留意点等解 説しながらデモンストレーシ ョンを行い、その後ペアで練 習をします。	高齢者体力テストについて、 事前配布する資料を読んで予 習していただくことが望ましい。	外川・高畑

日付

6. 4.10 (水) 3・4・5
6. 4.17 (水) 3・4・5
6. 4.24 (水) 3・4・5
6. 5. 1 (水) 3・4・5
6. 5. 8 (水) 3・4・5
6. 5.15 (水) 3・4・5
6. 5.22 (水) 3・4・5
6. 5.29 (水) 3・4

教科書	標準作業療法学 作業療法評価学 (第3版). 医学書院,東京,2021. ベッドサイドの神経の診かた (第18版). 南山堂,東京,2019. 新・徒手筋力検査法 第10版. 協同医書出版社, 2020. 高齢者のための知的機能検査の手引き. ワールドプランニング,1991
参考書	
ディプロマ・ ポリシーとの 関連	作業3
先修条件指定 科目	非該当
先修条件指定 科目において あらかじめ修 得しておかな ければならな い科目	非該当
実務経験のあ る教員	
実務経験をい かした教育内 容	
教員の連絡先	千葉 登: 研究室22 nchiba@yachts.ac.jp 外川 佑: 研究室28 tsotokawa@yachts.ac.jp 高畑未樹: 理学作業共同研究室 mtakahata@yachts.ac.jp
備考	目的意識を持って臨んでください。 実技を含むため、動きやすい服装で出席して下さい。 細かなスケジュールについては、授業で配布します。

授業科目	作業療法評価学演習Ⅱ	科目英語表記	Practicum OT for Evaluation Ⅱ		
職名、担当教員氏名	講師 佐々木 学 講師 川勝 祐貴				
科目責任者氏名	佐々木 学				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	精神疾患に対する作業療法での評価は観察が主体である。これは、精神疾患患者が自己についての認知の歪みや、うまく表現できないなどの場合があることが多いためであり、これらを理解した臨床観察が必要である。また、地域移行支援推進のため、他職種との連携で活用できる行動評価や退院可能者のスクリーニングが必要である。これらを紹介し、活用ができるようになることが重要である。				
到達目標	授業で紹介された評価の概要と適用を述べることができる。 評価を実施し、採点、解釈を行うことができる。 対象者の状態や施設の目的を理解し、評価実施の総合的判断の重要性を理解できる。				
成績評価方法	総合問題により判断する。知識の記憶ではなく、柔軟な試行が可能かを問うので、各評価を十分に理解し、活用ができるように準備してほしい。筆記試験を実施する。				
成績評価基準	A判定: 秀でた独創的知見が述べられている B判定: 発展的な意見が述べられている C判定: 臨床実習に必要な最低限の知識・技能があると判断される D判定: 臨床実習に必要な最低限の知識・技能があると判断されるが、不足がある F判定: 臨床実習に必要なレベルに達していない。わずかな事項についての理解にとどまる				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	(生活)臨床観察1	観察による評価を概説、演習する。	講義、演習	これらの評価方法は、作業療法や他の職種の多くの教科書で取り上げられている。また、雑誌などにも活用例が多数掲載されているので、図書館での文献検索を行い、これらを読むことが推奨される。	川勝
2	(生活)臨床観察1、2回目	観察による評価を概説、演習する。	講義、演習	これらの評価方法は、作業療法や他の職種の多くの教科書で取り上げられている。また、雑誌などにも活用例が多数掲載されているので、図書館での文献検索を行い、これらを読むことが推奨される。	川勝
3	(作業)臨床観察2	観察による評価を概説・演習する。	教科書、配布資料を用いて、症例のサマリーシートを再評価することが行われる。また、自己評価を行うこともある	これらの評価方法は、作業療法や他の職種の多くの教科書で取り上げられている。また、雑誌などにも活用例が多数掲載されているので、図書館での文献検索を行い、これらを読むことが推奨される。	川勝
4	(作業)臨床観察2、2回目	観察による評価を概説・演習する。	教科書、配布資料を用いて、症例のサマリーシートを再評価することが行われる。また、自己評価を行うこともある	これらの評価方法は、作業療法や他の職種の多くの教科書で取り上げられている。また、雑誌などにも活用例が多数掲載されているので、図書館での文献検索を行い、これらを読むことが推奨される	川勝

5	(臨床)臨床観察3	臨床場면을観察にて評価する 場면을概説・演習する	講義・演習	これらの評価方法は、作業療法や他の職種多くの教科書で取り上げられている。また、雑誌などにも活用例が多数掲載されているので、図書館での文献検索を行い、これらを読むことが推奨される	川勝
6	(臨床)臨床観察3、2回目	臨床場면을観察にて評価する 場면을概説・演習する	講義・演習	これらの評価方法は、作業療法や他の職種多くの教科書で取り上げられている。また、雑誌などにも活用例が多数掲載されているので、図書館での文献検索を行い、これらを読むことが推奨される	川勝
7	(全般)ICF, GAF, BPRS	ICF, GAF, BPRSについて概説し、事例に対して評価を行う 演習を行う	講義・演習	これらの評価方法は、作業療法や他の職種多くの教科書で取り上げられている。また、雑誌などにも活用例が多数掲載されているので、図書館での文献検索を行い、これらを読むことが推奨される	佐々木
8	(全般)ICF, GAF, BPRS、2回目	ICF, GAF, BPRSについて概説し、事例に対して評価を行う 演習を行う	講義・演習	これらの評価方法は、作業療法や他の職種多くの教科書で取り上げられている。また、雑誌などにも活用例が多数掲載されているので、図書館での文献検索を行い、これらを読むことが推奨される	佐々木
9	(行動)LASMIなど	LASMIなどの全般的行動評価をいくつか紹介する	講義・演習	これらの評価方法は、作業療法や他の職種多くの教科書で取り上げられている。また、雑誌などにも活用例が多数掲載されているので、図書館での文献検索を行い、これらを読むことが推奨される	佐々木
10	(行動)LASMIなど、2回目	LASMIなどの全般的行動評価をいくつか紹介する	講義・演習	これらの評価方法は、作業療法や他の職種多くの教科書で取り上げられている。また、雑誌などにも活用例が多数掲載されているので、図書館での文献検索を行い、これらを読むことが推奨される	佐々木
11	(職)MWS, MSFAS, GATB	職業評価などについて概説・演習を行う	講義・演習	教科書、配布資料を用いて、症例のサマリーシートを再評価することが行われる。また、自己評価を行うこともある	佐々木
12	(職)MWS, MSFAS, GATB、2回目	職業評価などについて概説・演習を行う	講義・演習	教科書、配布資料を用いて、症例のサマリーシートを再評価することが行われる。また、自己評価を行うこともある	佐々木
13	(認知) BACS-J, 1回目	精神障害者の認知障害について概説する	講義	これらの評価方法は、作業療法や他の職種多くの教科書で取り上げられている。また、雑誌などにも活用例が多数掲載されているので、図書館での文献検索を行い、これらを読むことが推奨される。	佐々木 川勝
14	(認知) BACS-J, 2回目	精神障害者の認知障害について概説・演習する	演習	これらの評価方法は、作業療法や他の職種多くの教科書で取り上げられている。また、雑誌などにも活用例が多数掲載されているので、図書館での文献検索を行い、これらを読むことが推奨される。	佐々木 川勝

15	(鬱・ストレス)Zung, HAM-D, BDI, 職業性ストレス尺度	鬱の評価や、ストレスに関する評価を概説・演習する	講義・演習	これらの評価方法は、作業療法や他の職種多くの教科書で取り上げられている。また、雑誌などにも活用例が多数掲載されているので、図書館での文献検索を行い、これらを読むことが推奨される。	佐々木川勝
日付					
6. 5.16 (木) 1・2 6. 5.23 (木) 1・2 6. 5.30 (木) 1・2 6. 6. 6 (木) 1・2 6. 6.13 (木) 1・2 6. 6.20 (木) 1・2 6. 6.27 (木) 1・2 6. 7. 4 (木) 2					

教科書	張 賢徳(訳): 精神科面接マニュアル、メディカルサイエンスインターナショナル、第3版 稲田俊也ほか: 客観的精神科評価尺度ガイド、じほう、2016
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業3
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	佐々木 学: 研究室19 msasaki@yachts.ac.jp 川勝 祐貴: 理作共同研究室 ykawakatsu@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	作業療法評価学演習Ⅲ	科目英語表記	Practicum OT for Evaluation Ⅲ		
職名、担当教員氏名	准 教 授 森 直樹 教 授 佐藤 寿晃 教 授 外川 佑 非常勤講師 黒淵 永寿				
科目責任者氏名	森 直樹				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習／実習若しくは実技	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	小児期作業療法領域で用いられる主要な評価を概説し、各疾患に適した評価・検査を遂行ができるように演習を通して学ぶ。具体的には、基本的な実施方法、手順、留意点を学び、実技を通して的確に実施できるよう技術を身につける演習を通じて教授する。また、作業療法に必要なとされる画像評価についても教授する。				
到達目標	1)発達検査の目的と検査の選択、実施する際の留意点を説明できる。 2)小児期作業療法における各評価領域（運動機能、感覚統合機能、視知覚・視覚認知、知的・認知機能、行動、作業遂行・身辺処理）とその障害について説明できる。また、各機能を評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できる。 3)脳の構造を理解し、各種病変について画像を元に説明できる。 4)骨・筋系の構造を理解し、各種病変について画像を元に説明できる。				
成績評価方法	到達目標1～4 を評価する 特に優れている； 適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明(表現)できる 優れている； 根拠をふまえて論理的に説明（表現）できる 良好である； 根拠を用いてある程度論理的に説明（表現）できる 最低限の到達； 根拠は乏しいがある程度論理的に説明（表現）できる 目標に到達していない； 説明（表現）できない				
成績評価基準	筆記試験：中間（50%）、期末（50%）（到達目標1）～4）に対して）				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	発達過程作業療法における家族との面接法、発達検査の目的と留意点	情報収集するうえでの必要な項目を列挙し、面接時の留意点を学習する。さらに、発達全般を評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できるよう学習する。	講義	P546-P557について学修する	森
2	発達全般を評価する検査・演習	発達全般を評価する検査名を列挙し検査の特性を把握するため、その特徴を説明できるよう演習を通して学習する。	講義、演習	P558-P561について学修する	森
3	運動機能評価の評価・演習①	運動機能とその障害、評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できるよう演習を通して学習する。 マイルストーンに基づく運動機能の評価について学習する	講義、演習、実技	P562-P567について学修する	森
4	運動機能評価の評価・演習②	運動機能とその障害、評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できるよう演習を通して学習する。 GMFCS,GMFM,MACS,MABC-2,BOT2について学習する	講義、演習、実技	P562-P567について学修する	森
5	姿勢筋緊張、反射・反応の評価・演習	姿勢筋緊張、反射・反応の評価、測定方法について演習を通して学習する。	講義、演習、実技	P562-P567について学修する	森
6	感覚統合評価機能の評価・演習①	感覚統合機能とその障害、評価する検査名を列挙し、その	集中講義（講義、演習、実技）	P568～P574について学修する	黒淵 森

		特徴を説明できるよう演習を通して学習する。 JPANについて学習する			
7	感覚統合評価機能の評価・演習②	感覚統合機能とその障害、評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できるよう演習を通して学習する。 JMAPについて学習する	集中講義（講義、演習、実技）	P568～P574について学修する	黒淵森
8	感覚統合評価機能の評価・演習③ 臨床観察、日本版感覚プロフィール	感覚統合機能とその障害、評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できるよう演習を通して学習する。 臨床観察について学習する	集中講義（講義、演習、実技）	P568～P574について学修する	黒淵森
9	感覚統合評価機能の評価・演習④	感覚統合機能とその障害、評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できるよう演習を通して学習する。 日本版感覚プロフィールについて学習する。	集中講義（講義、演習、実技）	P568～P574について学修する	黒淵森
10	視知覚・視覚認知の評価・演習	視知覚・視覚認知とその障害、評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できるよう演習を通して学習する。	講義、演習	P575-P578について学修する	森
11	知能・認知機能の評価・演習	知能・認知機能とその障害、評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できるよう演習を通して学習する。	講義、演習	P579-P586について学修する	森
12	行動の評価・演習	適応行動とその障害、評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できるよう演習を通して学習する。	講義、演習	P587-P592について学修する	森
13	作業遂行・身辺処理の評価・演習 疾患・障害による評価の選択	作業遂行とその障害、身辺処理を評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できるよう演習を通して学習する。また、疾患・障害による評価の選択を説明できるよう学習する。	講義、演習	P593-P600について学修する	森
14	骨・筋系画像所見の診かた	X線,MRI,エコー等の骨・筋系画像の診かたについて、講義、演習を行い学習する。	講義	講義終了後に復習してください。	佐藤
15	脳画像所見の診かた	CT,MRI,SPECT等の脳画像の診かたについて、講義、演習を行い学習する。	講義	事前に資料を配布するとともに、脳画像確認用のアプリケーションを配布するのでPCにインストールするなどの準備をしておくこと。 講義後は配布資料やアプリケーションを使用して復習することが望ましい。	外川

日付

第1～5回 後日連絡
6.6.29(土) 1～4
第10回～13回 後日連絡
6.7.12(金) 2
6.7.18(木) 2

教科書	標準作業療法学 作業療法評価学第3版（医学書院）、人間発達学第6版（中外医学社）
参考書	なし
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業3
先修条件指定	非該当

科目	
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	森 直樹：研究室34 nmori@yachts.ac.jp 佐藤寿晃：研究室37 tsato@yachts.ac.jp 外川 佑：研究室28 tsotokawa@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	作業療法評価学実習		科目英語表記	Practice OT for Evaluation		
職名、担当教員氏名	教授 佐藤 寿晃 教授 外川 佑 准教授 森 直樹 准教授 千葉 登 講師 佐々木 学 講師 川勝 祐貴					
科目責任者氏名	千葉 登					
学内連絡教員氏名						
学科／分野	作業療法学科	学年	3年			
科目区分	専門	必修・選択の別	必修			
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	前期	単位数	1単位	
授業概要	各領域（身体機能、精神機能、高齢期、小児期）での障がい有する対象者等への面接・検査・測定・動作分析等を実践し、対象者の問題点、プログラムの立案などの作業療法の流れを学内および学外実習を通じて学習する。 具体的には、基本的な実施方法、手順、留意点等を学び、実技を通して的確に実施できる技術を身につけるよう実習を通じて学修する。					
到達目標	1. 障がい有する対象者に対する評価の流れを理解できる。 2. 障がい有する対象者に対して具体的な治療計画を立案することができる。 3. 作業療法評価の一部について対象者への介入を具体的に実践・理解できるようになる。 4. 評価した内容を明確に記録し、理解することができる。					
成績評価方法	レポート：100% 到達目標1, 2, 3, 4					
成績評価基準	理解度に応じて S (100点)、A (90点)、B (80点)、C (70点)、D (60点)、F (59点以下で得点化します) S：観察視点、解釈、質疑内容が特に優れたものあり、模範的なレポートである。 A：観察視点、解釈、質疑内容に不備もなく優れた内容である。 B：観察視点、解釈、質疑内容に一部不足する箇所があるが概ね良好である。 C：観察視点、解釈、質疑内容に不足する箇所があるが理解された内容である。 D：観察視点、解釈、質疑内容に不足する箇所があるが最低限の理解の内容である。 F：観察視点、解釈、質疑内容に不足する箇所があり、理解されていない内容である。 レポート提出は期限までの必須条件（未提出者は単位認定しません）。 また、すべてのレポートにてD以上の評価を必要とし、各領域で提出されたレポートの平均を成績評価とします。					

授業計画						
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員	
1	オリエンテーション	実習の進め方について説明する	講義にて各領域の評価学実習の進め方について説明する。	なし	千葉	
2	第1期 身体・精神 5.20(月)～5.31(金) 身体機能領域 (1)	身体障害領域の病院、施設において作業療法評価の用いる面接、観察、検査、測定を実際に経験する。また、作業療法計画の立案し実践を学ぶ。	身体障害領域の病院、施設に向いて、指導者の指導のもと面接、観察、検査、測定を見学と一部を実施する。	必要に応じて、これまで学習したことを復習すること。	佐藤 千葉	
3	身体機能領域 (2)	身体障害領域の病院、施設において作業療法評価の用いる面接、観察、検査、測定を実際に経験する。また、作業療法計画の立案し実践を学ぶ。	身体障害領域の病院、施設に向いて、指導者の指導のもと面接、観察、検査、測定を見学と一部を実施する。	必要に応じて、これまで学習したことを復習すること。	佐藤 千葉	
4	身体機能領域 (3)	身体障害領域の病院、施設において作業療法評価の用いる面接、観察、検査、測定を実際に経験する。また、作業療法計画の立案し実践を学ぶ。	身体障害領域の病院、施設に向いて、指導者の指導のもと面接、観察、検査、測定を見学と一部を実施する。	必要に応じて、これまで学習したことを復習すること。	佐藤 千葉	
5	身体機能領域 (4)	身体障害領域の病院、施設において作業療法評価の用いる面接、観察、検査、測定を実際に経験する。また、作業療法計画の立案し実践を学ぶ。	身体障害領域の病院、施設に向いて、指導者の指導のもと面接、観察、検査、測定を見学と一部を実施する。	必要に応じて、これまで学習したことを復習すること。	佐藤 千葉	

6	身体機能領域 (5)	身体障害領域の病院、施設において作業療法評価の用いる面接、観察、検査、測定を実際に経験する。また、作業療法計画の立案し実践を学ぶ。	身体障害領域の病院、施設に向いて、指導者の指導のもと面接、観察、検査、測定を見学と一部を実施する。	必要に応じて、これまで学習したことを復習すること。	佐藤千葉
7	第1期 身体・精神 5.20(月)～5.31(金) 精神機能領域 (1)	県内外の医療機関などにて、初期面接から介入までに必要な情報を得るための評価(叙事的評価など)を行う。	県内外の医療機関等に向いて、指導者の指導のもと面接、観察、検査、測定を見学と一部を実施する。	必要に応じて、これまで学習したことを復習すること。	佐々木川勝
8	精神機能領域 (2)	県内外の医療機関などにて、初期面接から介入までに必要な情報を得るための評価(叙事的評価など)を行う。	県内外の医療機関等に向いて、指導者の指導のもと面接、観察、検査、測定を見学と一部を実施する。	必要に応じて、これまで学習したことを復習すること。	佐々木川勝
9	精神機能領域 (3)	県内外の医療機関などにて、初期面接から介入までに必要な情報を得るための評価(叙事的評価など)を行う。	県内外の医療機関等に向いて、指導者の指導のもと面接、観察、検査、測定を見学と一部を実施する。	必要に応じて、これまで学習したことを復習すること。	佐々木川勝
10	精神機能領域 (4)	県内外の医療機関などにて、初期面接から介入までに必要な情報を得るための評価(叙事的評価など)を行う。	県内外の医療機関等に向いて、指導者の指導のもと面接、観察、検査、測定を見学と一部を実施する。	必要に応じて、これまで学習したことを復習すること。	佐々木川勝
11	精神機能領域 (5)	県内外の医療機関などにて、初期面接から介入までに必要な情報を得るための評価(叙事的評価など)を行う。	県内外の医療機関等に向いて、指導者の指導のもと面接、観察、検査、測定を見学と一部を実施する。	必要に応じて、これまで学習したことを復習すること。	佐々木川勝
12	第2期 小児期・高齢期 7.8(月)～7.19(金) 小児期領域 (1)	保育園、通園施設、療育機関などの実習を通して、子どもの特性、発達を学び、作業療法評価の視点を学習する。また、事例を通して具体的な治療計画を立案し、実践を学ぶ。	保育園、通園施設、療育機関に向いて、指導者の指導のもと子どもの特性、発達を学び、作業療法評価の視点を学習する。	必要に応じて、これまで学習したことを復習すること。	森
13	小児期領域 (2)	保育園、通園施設、療育機関などの実習を通して、子どもの特性、発達を学び、作業療法評価の視点を学習する。また、事例を通して具体的な治療計画を立案し、実践を学ぶ。	保育園、通園施設、療育機関に向いて、指導者の指導のもと子どもの特性、発達を学び、作業療法評価の視点を学習する。	必要に応じて、これまで学習したことを復習すること。	森
14	小児期領域 (3)	保育園、通園施設、療育機関などの実習を通して、子どもの特性、発達を学び、作業療法評価の視点を学習する。また、事例を通して具体的な治療計画を立案し、実践を学ぶ。	保育園、通園施設、療育機関に向いて、指導者の指導のもと子どもの特性、発達を学び、作業療法評価の視点を学習する。	必要に応じて、これまで学習したことを復習すること。	森
15	小児期領域 (4)	保育園、通園施設、療育機関などの実習を通して、子どもの特性、発達を学び、作業療法評価の視点を学習する。また、事例を通して具体的な治療計画を立案し、実践を学ぶ。	保育園、通園施設、療育機関に向いて、指導者の指導のもと子どもの特性、発達を学び、作業療法評価の視点を学習する。	必要に応じて、これまで学習したことを復習すること。	森
16	小児期領域 (5)	保育園、通園施設、療育機関などの実習を通して、子どもの特性、発達を学び、作業療法評価の視点を学習する。また、事例を通して具体的な治療計画を立案し、実践を学ぶ。	保育園、通園施設、療育機関に向いて、指導者の指導のもと子どもの特性、発達を学び、作業療法評価の視点を学習する。	必要に応じて、これまで学習したことを復習すること。	森
17	第2期 小児期・高齢期 7.8(月)～7.19(金) 高齢期領域 (1)	高齢者施設等において、高齢期における特徴を踏まえた、面接、観察、検査、測定を実際に経験する。また、作業療法計画を立案し実践を学ぶ。	高齢者施設等に向いて、指導者の指導のもと高齢期における特徴を踏まえた面接、観察、検査、測定を見学と一部を実施する。	必要に応じて、これまで学習したことを復習すること。	外川

18	高齢期領域 (2)	高齢者施設等において、高齢期における特徴を踏まえた、面接、観察、検査、測定を実際に経験する。また、作業療法計画を立案し実践を学ぶ。	高齢者施設等に出向いて、指導者の指導のもと高齢期における特徴を踏まえた面接、観察、検査、測定を見学と一部を実施する。	必要に応じて、これまで学習したことを復習すること。	外川
19	高齢期領域 (3)	高齢者施設等において、高齢期における特徴を踏まえた、面接、観察、検査、測定を実際に経験する。また、作業療法計画を立案し実践を学ぶ。	高齢者施設等に出向いて、指導者の指導のもと高齢期における特徴を踏まえた面接、観察、検査、測定を見学と一部を実施する。	必要に応じて、これまで学習したことを復習すること。	外川
20	高齢期領域 (4)	高齢者施設等において、高齢期における特徴を踏まえた、面接、観察、検査、測定を実際に経験する。また、作業療法計画を立案し実践を学ぶ。	高齢者施設等に出向いて、指導者の指導のもと高齢期における特徴を踏まえた面接、観察、検査、測定を見学と一部を実施する。	必要に応じて、これまで学習したことを復習すること。	外川
21	高齢期領域 (5)	高齢者施設等において、高齢期における特徴を踏まえた、面接、観察、検査、測定を実際に経験する。また、作業療法計画を立案し実践を学ぶ。	高齢者施設等に出向いて、指導者の指導のもと高齢期における特徴を踏まえた面接、観察、検査、測定を見学と一部を実施する。	必要に応じて、これまで学習したことを復習すること。	外川
22	まとめ (1)	4領域の評価実習を終え、各領域の実習内容を振り返る。	グループワークにより客観的・主観的に今後の課題について討論する。	なし	千葉
23	まとめ (2)	4領域の評価実習を終え、各領域の実習内容を振り返る。	グループワークにより客観的・主観的に今後の課題について討論する。	なし	千葉

日付

後日連絡

教科書	これまで講義等で使用した教科書・参考書・プリント
参考書	これまで講義等で使用した教科書・参考書・プリント
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業3
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	佐藤寿晃：研究室37 tsato@yachts.ac.jp 外川 佑：研究室28 tsotokawa@yachts.ac.jp 森 直樹：研究室34 nmori@yachts.ac.jp 千葉 登：研究室22 nchiba@yachts.ac.jp 佐々木学：研究室29 msasaki@yachts.ac.jp 川勝祐貴：理学・作業共同研究室 ykawakatsu@yachts.ac.jp
備考	後日、領域毎の担当者から領域毎の説明と詳細な日程を連絡します。

授業科目	小児期作業療法学	科目英語表記	OT for Pediatrics		
職名、担当教員氏名	准教授 森 直樹				
科目責任者氏名	森 直樹				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習／実習若しくは実技	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	小児期作業療法を実践する際の基本的な知識基盤、実践過程、地域支援について学習する。				
到達目標	1) 発達過程作業療法の基本的な捉え方ができるようになるための知識基盤を理解する 2) 発達過程作業療法が行われている現場の職務内容について理解する 3) 発達過程作業療法を実践できるようになるために、その実践過程に関連する事項について理解する 4) 発達過程作業療法の実践過程を記録し、作成することができる 5) 発達過程作業療法の地域支援の場で活躍するために、地域支援システムと病院、放課後等デイサービス、学校、保育所、就労支援機関での作業療法士の役割、業務内容を理解する				
成績評価方法	筆記試験：中間（45%）、期末（45%）（到達目標1）～4）に対して） レポート：10%（到達目標5）に対して）				
成績評価基準	到達目標1～5を評価する 特に優れている； 適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明（表現）できる 優れている； 根拠をふまえて論理的に説明（表現）できる 良好である； 根拠を用いてある程度論理的に説明（表現）できる 最低限の到達； 根拠は乏しいがある程度論理的に説明（表現）できる 目標に到達していない； 説明（表現）できない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	小児期作業療法学の基礎①	小児期作業療法の理念と目的、歴史と変遷について学習する	講義	P3～P11について学修します	森
2	小児期作業療法学の基礎②	人間の発達過程と作業療法に必要な知識について学習する	講義、演習、実技	P12～P35について学修します	森
3	小児期作業療法学の基礎③	小児期作業療法の対象疾患と発達遅滞症状について学習する	講義	P36～P38について学修します	森
4	小児期作業療法学の基礎④	1) 小児期作業療法に関連する法規・制度 2) 発達過程の子どもたちに携わる作業療法士の役割と資質	講義	P39～P47について学修します	森
5	小児期作業療法の実践現場と実践過程および記録①	小児期作業療法における基本的実践過程を学習する	講義	P53～P69について学修します	森
6	小児期作業療法の実践現場と実践過程および記録②	発達過程作業療法における記録について学習する	講義	P70～P74について学修します	森
7	発達過程作業療法の地域支援①	1) 病院施設から地域への変化を学習する 2) 地域支援のシステムを学習する	レポート	講義終了時に示す課題についてレポート作成する	森
8	発達過程作業療法の地域支援②	作業療法士のかかわりを学習する	レポート	講義終了時に示す課題についてレポート作成する	森
日付					
後日連絡					

教科書	発達過程作業療法学第3版（医学書院）、人間発達学第6版（中外医学社）
参考書	なし
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業2
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	森直樹：研究室34 nmori@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	小児期作業療法学演習	科目英語表記	OT Interventions for Pediatrics		
職名、担当教員氏名	准 教 授 森 直樹 非常勤講師 黒淵 永寿				
科目責任者氏名	森 直樹				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習／実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	2単位
授業概要	小児期作業療法の対象疾患に対して、評価～治療立案、作業療法実践について理解するとともに、評価に用いられる測定・検査を行い、その解釈について教授する。				
到達目標	1) 主たる対象疾患の臨床像について述べるができる 2) 主たる臨床像、障害構造から適切な作業療法評価内容を示すことができる 3) 評価結果から、疾患に起因する生活行為（活動、参加）や作業遂行要素（心身機能、身体構造）の障害およびその関連について示し、全体像をまとめることができる 4) 主たる対象疾患の医学的治療内容と作業療法の治療・実践内容を検討することができる				
成績評価方法	到達目標1～4を評価する 特に優れている； 適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明（表現）できる 優れている； 根拠をふまえて論理的に説明（表現）できる 良好である； 根拠を用いてある程度論理的に説明（表現）できる 最低限の到達； 根拠は乏しいがある程度論理的に説明（表現）できる 目標に到達していない； 説明（表現）できない				
成績評価基準	筆記試験：中間（50%）、期末（50%）（到達目標1）～4）に対して）				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	小児期作業療法における基本的実践過程	小児期作業療法の実践過程及びICFを考慮した作業療法について学習する。また、一連の「記録」に関する種類、目的各記録方式の内容を学習する	講義、グループワーク	P53～P69について学修します	森 直樹
2	NICU児に対する評価とアプローチ	NICU児の臨床像を把握し、作業療法評価から問題点の抽出、治療計画、具体的な治療手段を講義、視覚教材、実技等を通して学習する。また、具体的な事例を通して作業療法実践について学習する	講義、グループワーク	P117～P134について学修する	渋間（スポット）森
3	脳性麻痺児（痙直型）に対する評価とアプローチ①	脳性麻痺児の多様な臨床像を把握し、作業療法評価から問題点の抽出、治療計画、具体的な治療手段を講義、視覚教材、実技等を通して学習する。また、具体的な事例を通して作業療法実践について学習する	講義、グループワーク	P135～P162について学修する	森
4	脳性麻痺児（アテトーゼ型）に対する評価とアプローチ②	脳性麻痺児の多様な臨床像を把握し、作業療法評価から問題点の抽出、治療計画、具体的な治療手段を講義、視覚教材、実技等を通して学習する。また、具体的な事例を通して作業療法実践について学習する	講義、グループワーク	P135～P162について学修する	森
5	脳性麻痺児（低緊張型）に対する評価とアプローチ③	脳性麻痺児の多様な臨床像を把握し、作業療法評価から問題点の抽出、治療計画、具体	講義、グループワーク	P135～P162について学修する	森

		的な治療手段を講義、視覚教材、実技等を通して学習する。また、具体的な事例を通して作業療法実践について学習する			
6	神経発達症／神経発達障害群（ASD）に対する評価とアプローチ①	神経発達症（限局性学習症、注意欠場・多動症、自閉スペクトラム症、発達性協調運動症）の多様な臨床像を把握し、作業療法評価から問題点の抽出、計画、具体的な治療手段を講義、視覚教材、実技等を通して学習する	集中講義（講義、グループワーク）	P179－P211について学修する	黒淵森
7	神経発達症／神経発達障害群（ADHD）に対する評価とアプローチ②	神経発達症（限局性学習症、注意欠場・多動症、自閉スペクトラム症、発達性協調運動症）の多様な臨床像を把握し、作業療法評価から問題点の抽出、計画、具体的な治療手段を講義、視覚教材、実技等を通して学習する	集中講義（講義、グループワーク）	P179－P211について学修する	黒淵森
8	神経発達症／神経発達障害群（DCD）に対する評価とアプローチ③	神経発達症（限局性学習症、注意欠場・多動症、自閉スペクトラム症、発達性協調運動症）の多様な臨床像を把握し、作業療法評価から問題点の抽出、計画、具体的な治療手段を講義、視覚教材、実技等を通して学習する	集中講義（講義、グループワーク）	P179－P211について学修する	黒淵森
9	骨関節疾患に対する評価とアプローチ	骨関節疾患の臨床像を把握し、作業療法評価から問題点の抽出、治療計画、具体的な治療手段を講義、視覚教材、実技等を通して学習する。また、具体的な事例を通して作業療法実践について学習する	集中講義（講義、グループワーク）	P179－P211について学修する	黒淵森
10	重症心身障害児（者）に対する作業療法評価	重症心身障害児（者）の臨床像を把握し、作業療法評価から問題点の抽出、治療計画、具体的な治療手段を講義、視覚教材、実技等を通して学習する。また、具体的な事例を通して作業療法実践について学習する	講義、グループワーク	P212－P225について学修する	森
11	重症心身障害児（者）に対する作業療法アプローチ	重症心身障害児（者）の臨床像を把握し、作業療法評価から問題点の抽出、治療計画、具体的な治療手段を講義、視覚教材、実技等を通して学習する。また、具体的な事例を通して作業療法実践について学習する	講義、グループワーク	P212－P225について学修する	森
12	筋ジストロフィー症に対する評価とアプローチ	筋ジストロフィー症の多様な臨床像を把握し、作業療法評価から問題点の抽出、治療計画、具体的な治療手段を講義、視覚教材、実技等を通して学習する。また、具体的な事例を通して作業療法実践について学習する	講義、グループワーク	P257－P274について学修する	森
13	知的能力障害に対する評価とアプローチ	知的能力障害の臨床像を把握し、作業療法評価から問題点の抽出、治療計画、具体的な治療手段を講義、視覚教材、実技等を通して学習する。また、具体的な事例を通して作業療法実践について学習する	講義、グループワーク	P162－P178について学修する	森

14	強度行動障害に対する作業療法	強度行動障害の臨床像を把握し、作業療法評価から問題点の抽出、治療計画、具体的な治療手段を講義、視覚教材、実技等を通して学習する。また、具体的な事例を通して作業療法実践について学習する	講義、グループワーク	P226-P242について学修する	森
15	二分脊椎に対する評価とアプローチ	二分脊椎の臨床像を把握し、作業療法評価から問題点の抽出、治療計画、具体的な治療手段を講義、視覚教材、実技等を通して学習する。また、具体的な事例を通して作業療法実践について学習する	講義、グループワーク	P298-P312について学修する	森

日付

6.10.15 (火) 2・4
6.10.22 (火) 2・4
6.10.25 (金) 1~4
6.11.26 (火) 2・3
6.12.3 (火) 2・3
6.12.17 (火) 2・3
7.1.14 (火) 3

教科書	発達過程作業療法学第3版、人間発達学第6版
参考書	なし
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業3
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	森 直樹：研究室34 nmori@yachts.ac.jp
備考	小児内部障害、がんに対する評価とアプローチについては内部障害作業療法学にて教授する

授業科目	小児期作業療法学実習	科目英語表記	Practice OT for Pediatrics		
職名、担当教員氏名	准 教 授 森 直樹 非常勤講師 黒淵 永寿				
科目責任者氏名	森 直樹				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習／実習若しくは実技	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	小児期作業療法学、小児期作業療法学演習を踏まえ、作業療法実践過程に必要な評価と治療介入法について主にケーススタディーを通して教授する。				
到達目標	1) 小児期領域の各疾患の特徴を説明できる 2) 小児期作業療法領域の評価項目を説明できる 3) 小児期作業療法の作業療法実施を説明できる				
成績評価方法	筆記試験（100%）：到達目標1）～3）に対して				
成績評価基準	到達目標1～3を評価する 特に優れている； 適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明(表現)できる 優れている； 根拠をふまえて論理的に説明（表現）できる 良好である； 根拠を用いてある程度論理的に説明（表現）できる 最低限の到達； 根拠は乏しいがある程度論理的に説明（表現）できる 目標に到達していない； 説明（表現）できない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	小児作業療法実習総論	小児期作業療法の実践課程について総括し、対象児を想定し評価演習、治療介入の実習を行う。	講義、グループワーク、実習	小児期作業療法学、作業療法評価学演習Ⅲ、小児期作業療法学演習にに習したことを復習し、小児領域における作業療法実践について予習すること	森
2	事例検討（NICU対象児）	ケーススタディーを通して、対象児の評価、問題点の抽出、治療目標、具体的な治療介入法について学習する。	講義、グループワーク、実習	小児期作業療法学、作業療法評価学演習Ⅲ、小児期作業療法学演習にて学習したことを復習し、小児領域における作業療法実践について予習すること	森
3	事例検討（重症心身障害児（者））	ケーススタディーを通して、対象児の評価、問題点の抽出、治療目標、具体的な治療介入法について学習する。	講義、グループワーク、実習	小児期作業療法学、作業療法評価学演習Ⅲ、小児期作業療法学演習にて学習したことを復習し、小児領域における作業療法実践について予習すること	森
4	事例検討（筋ジストロフィー症）	ケーススタディーを通して、対象児の評価、問題点の抽出、治療目標、具体的な治療介入法について学習する。	講義、グループワーク、実習	小児期作業療法学、作業療法評価学演習Ⅲ、小児期作業療法学演習にて学習したことを復習し、小児領域における作業療法実践について予習すること	森
5	事例検討（知的障害）	ケーススタディーを通して、対象児の評価、問題点の抽出、治療目標、具体的な治療介入法について学習する。	講義、グループワーク、実習	小児期作業療法学、作業療法評価学演習Ⅲ、小児期作業療法学演習にて学習したことを復習し、小児領域における作業療法実践について予習すること	森
6	事例検討（発達障害）	ケーススタディーを通して、対象児の評価、問題点の抽出、	講義、グループワーク、実習	小児期作業療法学、作業療法評価学演習Ⅲ、小児期作業療法学演習にて学習したことを	森

		治療目標、具体的な治療介入法について学習する。		復習し、小児領域における作業療法実践について予習すること	
7	事例検討（脳性麻痺①）	ケーススタディーを通して、対象児の評価、問題点の抽出、治療目標、具体的な治療介入法について学習する。	講義、グループワーク、実習	小児期作業療法学、作業療法評価学演習Ⅲ、小児期作業療法学演習にて学習したことを復習し、小児領域における作業療法実践について予習すること	森
8	事例検討（脳性麻痺②）	ケーススタディーを通して、対象児の評価、問題点の抽出、治療目標、具体的な治療介入法について学習する。	集中講義（講義、グループワーク、実習）	小児期作業療法学、作業療法評価学演習Ⅲ、小児期作業療法学演習にて学習したことを復習し、小児領域における作業療法実践について予習すること	森
9	事例検討（痙直型、アテトーゼ型低緊張型脳性麻痺）	多様な事例検討を通して、作業療法実践過程の修得を図る。教授法としてグループワークを通して、対象児の観察・評価の視点を養うとともに、具体的な治療介入法について学習する。	集中講義（講義、グループワーク、実習）講	外部講師からのスライド資料についてしっかり復習すること	渡辺（スポット） 森
10	事例検討（痙直型、アテトーゼ型低緊張型脳性麻痺）	多様な事例検討を通して、作業療法実践過程の修得を図る。教授法としてグループワークを通して、対象児の観察・評価の視点を養うとともに、具体的な治療介入法について学習する。	集中講義（講義、グループワーク、実習）	外部講師からのスライド資料についてしっかり復習すること	渡辺（スポット） 森
11	事例検討（痙直型、アテトーゼ型低緊張型脳性麻痺）	多様な事例検討を通して、作業療法実践過程の修得を図る。教授法としてグループワークを通して、対象児の観察・評価の視点を養うとともに、具体的な治療介入法について学習する。	集中講義（講義、グループワーク、実習）	外部講師からのスライド資料についてしっかり復習すること	渡辺（スポット） 森
12	事例検討（知的障害、自閉症スペクトラム、注意欠如多動症、発達性協調運動障害など）	多様な事例検討を通して、作業療法実践過程の修得を図る。教授法としてグループワークを通して、対象児の観察・評価の視点を養うとともに、具体的な治療介入法について学習する。	集中講義（講義、グループワーク、実習）	外部講師からのスライド資料についてしっかり復習すること	黒淵 森
13	事例検討（知的障害、自閉症スペクトラム、注意欠如多動症、発達性協調運動障害など）	多様な事例検討を通して、作業療法実践過程の修得を図る。教授法としてグループワークを通して、対象児の観察・評価の視点を養うとともに、具体的な治療介入法について学習する。	集中講義（講義、グループワーク、実習）	外部講師からのスライド資料についてしっかり復習すること	黒淵 森
14	事例検討（知的障害、自閉症スペクトラム、注意欠如多動症、発達性協調運動障害など）	多様な事例検討を通して、作業療法実践過程の修得を図る。教授法としてグループワークを通して、対象児の観察・評価の視点を養うとともに、具体的な治療介入法について学習する。	集中講義（講義、グループワーク、実習）	外部講師からのスライド資料についてしっかり復習すること	黒淵 森
15	事例検討（知的障害、自閉症スペクトラム、注意欠如多動症、発達性協調運動障害など）	多様な事例検討を通して、作業療法実践過程の修得を図る。教授法としてグループワークを通して、対象児の観察・評価の視点を養うとともに、具体的な治療介入法について学習する。	集中講義（講義、グループワーク、実習）	外部講師からのスライド資料についてしっかり復習すること	黒淵 森
日付					

6.7.10 (水) 1・2
 6.7.16 (火) 2・3・4
 6.7.19 (金) 3・4・5
 6.7.23 (火) 2・3・4
 6.7.26 (金) 1～4

教科書	適宜、プリント、資料を配布します
参考書	子どもの能力から考える発達障害領域の作業療法アプローチ（第2版）メデイカルビュー社
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業3/作業4
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	森 直樹：研究室34 nmori@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	身体機能作業療法学		科目英語表記	OT for Physical function	
職名、担当教員氏名	教授 佐藤 寿晃 准教授 千葉 登				
科目責任者氏名	千葉 登				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	身体に障がいをもつ対象者の臨床像の理解と作業療法評価、治療計画およびその実施方法を教授する。				
到達目標	1. 身体に障がいをもつ対象者に対する病態と経過を説明できる。 2. 身体に障がいをもつ対象者に対するOT評価を説明できる。 3. 身体に障がいをもつ対象者に対してOT支援方法を説明できる。				
成績評価方法	筆記試験：100% 到達目標1, 2, 3を評価				
成績評価基準	筆記試験：100%				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	脊髄損傷	脊髄損傷の特徴とアプローチについて	教科書とスライド資料を基に臨床症状やアプローチ方法を教員の臨床経験を織り交ぜながら解説する。	教科書「身体機能作業療法学（第4版）」p214-233を読んで理解を深める	佐藤
2	関節リウマチ	関節リウマチの特徴とアプローチについて	教科書とスライド資料を基に臨床症状やアプローチ方法を教員の臨床経験を織り交ぜながら解説する。	教科書「身体機能作業療法学（第4版）」p260-272を読んで理解を深める	佐藤
3	整形外科領域	整形外科領域疾患の特徴とアプローチについて	教科書とスライド資料を基に臨床症状やアプローチ方法を教員の臨床経験を織り交ぜながら解説する。	教科書「身体機能作業療法学（第4版）」p236-251、p251-259、p278-299を読んで理解を深める	佐藤
4	脳血管障害（病像/運動機能）	脳血管障がい者の運動機能とそのアプローチについて	教科書とスライド資料を基に臨床症状やアプローチ方法を教員の臨床経験を織り交ぜながら解説する。	教科書「身体機能作業療法学（第4版）」p176-200を読んで理解を深める	千葉
5	脳血管障害（感覚機能/高次脳9	脳血管障がい者の感覚障がいと高次脳機能障がいとそのアプローチについて	教科書とスライド資料を基に臨床症状やアプローチ方法を教員の臨床経験を織り交ぜながら解説する。	教科書「身体機能作業療法学（第4版）」p176-200を読んで理解を深める	千葉
6	脳血管障害（ADL/病期）	脳血管障がいのADLトレーニングと病期毎の留意点	教科書とスライド資料を基に臨床症状やアプローチ方法を教員の臨床経験を織り交ぜながら解説する。	教科書「身体機能作業療法学（第4版）」p176-200を読んで理解を深める	千葉
7	神経難病Ⅰ	パーキンソン病/小脳疾患/多発性硬化症の特徴とアプローチについて	教科書とスライド資料を基に臨床症状やアプローチ方法を教員の臨床経験を織り交ぜながら解説する。	教科書「身体機能作業療法学（第4版）」p365-371、p380-390、p392-399を読んで理解を深める	千葉
8	神経難病Ⅱ	筋萎縮性側索硬化症/ニューロパシーとミオパシー/頭部外傷のアプローチ	教科書とスライド資料を基に臨床症状やアプローチ方法を教員の臨床経験を織り交ぜながら解説する。	教科書「身体機能作業療法学（第4版）」p203-212、p358-363、365-371、p372-377、p380-390、p392-399を読んで理解を深める	千葉
日付					
6.6.05（水）3 6.6.13（木）4・5 6.7.10（水）3・4					

6.7.17 (水) 3・4

6.7.24 (水) 3

教科書	標準作業療法学 身体機能作業療法学 (第4版). 医学書院,東京,2021. 標準作業療法学 作業療法評価学 (第3版). 医学書院,東京,2021.
参考書	日常生活活動の作業療法. 中央法規,東京,2014. ベッドサイドの神経の診かた (第18版). 南山堂,東京,2019
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業2
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	佐藤寿晃: 研究室37 tsato@yachts.ac.jp 千葉 登: 研究室22 nchiba@yachts.ac.jp
備考	専門科目です。欠席・遅刻のないように自己管理をしっかりとって授業に臨むことを希望します。

授業科目	身体機能作業療法学演習		科目英語表記	OT Interventions for Physical function		
職名、担当教員氏名	教 授 佐藤 寿晃 准 教 授 千葉 登 非常勤講師 笹原 寛					
科目責任者氏名	千葉 登					
学内連絡教員氏名						
学科／分野	作業療法学科	学年	2年			
科目区分	専門	必修・選択の別	必修			
授業形態	演習／実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	2単位	
授業概要	身体に障がい有する対象者の臨床像の理解と作業療法評価、治療計画およびその実施方法を教授する。					
到達目標	1. 身体に障がい有する対象者に対する介入方法（評価、実技）を理解し実施できる。 2. 身体に障がい有する対象者に対して評価～治療計画の立案について理解できる。 3. 評価に用いられる測定・検査を行い、その解釈について考察することができる。					
成績評価方法	<p>到達目標 1. 身体に障がい有する対象者に対する介入方法（評価、実技）を理解し実施できる。 特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない；説明できない</p> <p>到達目標 2. 身体に障がい有する対象者に対して評価～治療計画の立案について理解できる。 特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない；説明できない</p> <p>到達目標 3. 評価に用いられる測定・検査を行い、その解釈について考察することができる。 特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない；説明できない</p>					
成績評価基準	最終成績：期末試験にて評定します。					

授業計画						
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員	
1	身体障害領域の作業療法治療・訓練方法Ⅰ	ROM-ex・ポジショニングについて	講義及び実技のデモンストレーション後にペアで実技の練習を行います。	事前に資料を配布するので資料を参考に予習してください。また、講義終了後復習をしてください。	千葉	
2	身体障害領域の作業療法治療・訓練方法Ⅱ	起居動作訓練について	講義及び実技のデモンストレーション後にペアで実技の練習を行います。	事前に資料を配布するので資料を参考に予習してください。また、講義終了後復習をしてください。	千葉	
3	身体障害領域の作業療法治療・訓練方法Ⅲ	移乗移動訓練について	講義及び実技のデモンストレーション後にペアで実技の練習を行います。	事前に資料を配布するので資料を参考に予習してください。また、講義終了後復習をしてください。	千葉	
4	身体障害領域の作業療法治療・訓練方法Ⅳ	筋力訓練、バランス訓練	講義及び実技のデモンストレーション後にペアで実技の練習を行います。	事前に資料を配布するので資料を参考に予習してください。	千葉	

				また、講義終了後復習をしてください。	
5	脳卒中の作業療法治療・訓練方法について	プルンストローム法等について	講義及び実技のデモンストレーション後にペアで実技の練習を行います。	事前に資料を配布するので資料を参考に予習してください。また、講義終了後復習をしてください。	千葉
6	脳卒中・パーキンソン病のADLトレーニング	脳卒中、パーキンソン病等のADLトレーニングについて	講義及び実技のデモンストレーション後にペアで実技の練習を行います。	事前に資料を配布するので資料を参考に予習してください。また、講義終了後復習をしてください。	千葉
7	脊髄損傷の作業療法治療・訓練方法	脊髄損傷の作業療法治療・訓練方法	脊髄損傷の治療・訓練方法を説明、実技を通じて解説します。	講義終了後に復習してください。	佐藤
8	関節リウマチの作業療法治療・訓練方法	関節リウマチの作業療法治療・訓練方法について	関節リウマチの作業療法治療・訓練方法を説明、実技を通じて解説します。	講義終了後に復習してください。	佐藤
9	脊髄損傷・関節リウマチのADLトレーニング	脊髄損傷・関節リウマチのADLトレーニングについて	脊髄損傷・関節リウマチのADLトレーニングについて説明と実技を通じて解説します。	講義終了後に復習してください。	佐藤
10	整形外科領域の作業療法治療項目およびその訓練方法Ⅰ	末梢神経損傷の作業療法治療・訓練方法について	末梢神経損傷の作業療法治療・訓練方法について説明と実技を通じて解説します。(スプリント作製も含む)	講義終了後に復習してください。	佐藤・笹原
11	整形外科領域の作業療法治療項目およびその訓練方法Ⅱ	骨折・脱臼の作業療法介入について	骨折・脱臼疾患についての作業療法治療・訓練方法について説明と実技を通じて解説します。(スプリント作製も含む)	講義終了後に復習してください。	佐藤・笹原
12	整形外科領域の作業療法治療項目およびその訓練方法Ⅲ	手の外科領域の作業療法介入について	手の外科領域の作業療法治療・訓練方法について説明と実技を通じて解説します。(スプリント作製も含む)	講義終了後に復習してください。	佐藤・笹原
13	各種疾患とスプリント適応Ⅰ	様々な疾患、障がいに対するスプリントの目的および適応について	様々な疾患、障がいに対するスプリントの目的および適応について解説・スプリント作製を通じて解説します。	講義終了後に復習してください。	佐藤
14	各種疾患とスプリント適応Ⅱ	様々な疾患、障がいに対するスプリントの目的および適応について	様々な疾患、障がいに対するスプリントの目的および適応について説明、スプリント作製を通じて解説します。	講義終了後に復習してください。	佐藤
15	切断者の義肢装具	切断者の義肢装具の目的と適応	切断者の義肢装具の目的と適応について説明および実際の装具見学を通じて解説します。	講義終了後復習をしてください。	佐藤
日付					

教科書	標準作業療法学 身体機能作業療法学 (第4版). 医学書院,東京,2021. 標準作業療法学 作業療法評価学 (第3版). 医学書院,東京,2021.
参考書	日常生活活動の作業療法. 中央法規,東京,2014. ベッドサイドの神経の診かた (第18版). 南山堂,東京,2019.
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業3
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目において	非該当

あらかじめ修得しておかなければならない科目	
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	佐藤寿晃：研究室37 tsato@yachts.ac.jp 千葉 登：研究室22 nchiba@yachts.ac.jp
備考	実技を伴いますので、実技のできる服装、長髪の方は髪を束ねる、つめを切って出席してください。 限られた時間なので、主体的に講義に参加して下さい。 欠席・遅刻のないように自己管理をしっかりとって授業に望むことを希望します。

授業科目	身体機能作業療法学実習	科目英語表記	Practice OT for Physical function		
職名、担当教員氏名	教授 佐藤 寿晃 准教授 千葉 登				
科目責任者氏名	千葉 登				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	身体に障がいをもつ対象者に対する作業療法の流れ（評価～問題点抽出～目標設定～治療計画立案）に沿った実技を実施し、作業療法の実践を教授する。				
到達目標	1. 身体に障がいをもつ対象者に対する評価の流れを理解できる。 2. 事例を通して、臨床推論（クリニカルリーズニング）ができる。 3. 模擬患者を想定した作業療法の面接、観察、検査・測定を実践できる。 4. 事例を検討し、具体的な治療計画を立案・実施することができる。				
成績評価方法	筆記試験：到達目標1, 2 レポート：到達目標3, 4 臨床的技能試験：到達目標3, 4				
成績評価基準	期末試験（70%）、臨床的技能試験（20%）、レポート（10%）にて評価します。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	オリエンテーション・臨床推論	本授業のオリエンテーションおよび身体障がい作業療法領域の臨床推論について	本授業のオリエンテーションおよび身体障がい作業療法領域の臨床推論について講義する。	事前配布の資料及び身体機能作業療法学、身体機能作業療法学演習で使用した資料に目を通して頂くこと。	千葉
2	評価の実践①-1（姿勢・バランス・トランスファー）	模擬患者を想定した姿勢・バランス・トランスファーの練習	教員のデモンストレーションをもとに、ペアにて実践練習を行う。	作業療法評価学演習Ⅰで行った内容を確認してください。また、身体機能作業療法学、身体機能作業療法学演習の復習をしてください	佐藤 千葉
3	評価の実践①-2（初回面接、バイタサイン）	模擬患者を想定した初回面接、バイタサイン測定の練習	教員のデモンストレーションをもとに、ペアにて実践練習を行う。	作業療法評価学演習Ⅰで行った内容を確認してください。また、身体機能作業療法学、身体機能作業療法学演習の復習をしてください	佐藤 千葉
4	評価の実践②-1（ROM・T）	模擬患者を想定した関節可動域測定の実技の練習	教員のデモンストレーションをもとに、ペアにて実践練習を行う。	作業療法評価学演習Ⅰで行った内容を確認してください。また、身体機能作業療法学、身体機能作業療法学演習の復習をしてください	佐藤 千葉
5	評価の実践②-1（感覚知覚検査）	模擬患者を想定した感覚知覚検査の実技の練習	教員のデモンストレーションをもとに、ペアにて実践練習を行う。	作業療法評価学演習Ⅰで行った内容を確認してください。また、身体機能作業療法学、身体機能作業療法学演習の復習をしてください	佐藤 千葉
6	評価の実践②-3（筋緊張・反射）	模擬患者を想定した筋緊張・反射検査の実技の練習	教員のデモンストレーションをもとに、ペアにて実践練習を行う。	作業療法評価学演習Ⅰで行った内容を確認してください。また、身体機能作業療法学、身体機能作業療法学演習の復習をしてください	佐藤 千葉
7	評価の実践③-1（片麻痺機能検査）	模擬患者を想定した片麻痺機能検査の実技の練習	教員のデモンストレーションをもとに、ペアにて実践練習を行う。	作業療法評価学演習Ⅰで行った内容を確認してください。また、身体機能作業療法学、身体機能作業療法学演習の復習をしてください	佐藤 千葉

8	評価の実践③ー2 (協調性検査)	模擬患者を想定した協調性検査の実技の練習	教員のデモンストレーションをもとに、ペアにて実践練習を行う。	作業療法評価学演習Ⅰで行った内容を確認してください。また、身体機能作業療法学、身体機能作業療法学演習の復習をしてください	佐藤 千葉
9	評価の実践③ー3 (脳神経検査、MMT)	模擬患者を想定した脳神経検査、MMTの実技の練習	教員のデモンストレーションをもとに、ペアにて実践練習を行う。	作業療法評価学演習Ⅰで行った内容を確認してください。また、身体機能作業療法学、身体機能作業療法学演習の復習をしてください	佐藤 千葉
10	事例検討(1) 治療計画の立案	事例を用いて問題点の抽出・目標設定・プログラムの立案	ペアにて事例を用いて問題点の抽出・目標設定・プログラムの立案について検討する。教員は問題点の抽出・目標設定・プログラムの立案についてアドバイスをを行う。レポート提出。	身体機能作業療法学及び身体機能作業療法演習で用いた資料、教科書等にて授業に関連する箇所を学習してください	佐藤 千葉
11	事例検討(2) 治療計画の実施	事例検討にて立案したプログラムについてその効果について検討	ペアにて事例検討にて立案したプログラムについてその効果について検討する。教員は立案したプログラムについてアドバイスをを行う。レポート提出。	身体機能作業療法学及び身体機能作業療法演習で用いた資料、教科書等にて授業に関連する箇所を学習してください	佐藤 千葉
12	作業療法評価及び治療介入の実践①	事例を通して一連の流れで評価及び治療介入を実施の練習	ペアにて対象者と治療者に担当を決め、評価介入及び治療介入の場面を想定し模擬的に実践練習を行う。教員は評価介入及び治療介入についてアドバイスをを行う。	身体機能作業療法学及び身体機能作業療法演習で用いた資料、教科書等にて授業に関連する箇所を学習してください	佐藤 千葉
13	作業療法評価及び治療介入の実践②	事例を通して一連の流れで評価及び治療介入を実施の練習	ペアにて対象者と治療者に担当を決め、評価介入及び治療介入の場面を想定し模擬的に実践練習を行う。教員は評価介入及び治療介入についてアドバイスをを行う。	身体機能作業療法学及び身体機能作業療法演習で用いた資料、教科書等にて授業に関連する箇所を学習してください	佐藤 千葉
14	臨床的技能試験① (評価介入)	事例を想定した作業療法評価介入の実施	ペアにて対象者と治療者に担当を決め、評価介入の場面を想定し模擬的に実施する。教員は評価介入についてアドバイスをを行う。	事例を想定した流れに沿った評価介入及び治療介入の練習。	佐藤 千葉
15	臨床的技能試験② (治療介入)	事例を想定した作業療法治療介入の実施	ペアにて対象者と治療者に担当を決め、治療介入の場面を想定し模擬的に実施する。教員は治療介入についてアドバイスをを行う。	事例を想定した流れに沿った評価介入及び治療介入の練習。	佐藤 千葉

日付

6.4.12 (金) 3～5
6.4.19 (金) 3～5
6.4.26 (金) 3～5
6.5.10 (金) 3～5
6.5.17 (金) 3～5

教科書	標準作業療法学 身体機能作業療法学 (第4版)。医学書院,東京,2021. 標準作業療法学 作業療法評価学 (第3版)。医学書院,東京,2021.
参考書	津山直一：新・徒手筋力検査法 (第10版)。協同医書,2020. 田崎義昭：ベッドサイドの神経の診かた (第17版)。南山堂,2016.
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業3/作業4
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目において	該当

あらかじめ修得しておかなければならない科目	
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	佐藤寿晃：研究室37 tsato@yachts.ac.jp 千葉 登：研究室22 nchiba@yachts.ac.jp
備考	実技を伴いますので、実技のできる服装、長髪の方は髪を束ねる、つめを切って出席してください。 限られた時間なので、主体的に講義に参加して下さい。 欠席・遅刻のないように自己管理をしっかりとって授業に望むことを希望します。

授業科目	精神機能作業療法学	科目英語表記	OT for Mental function		
職名、担当教員氏名	講師 佐々木 学 講師 川勝 祐貴				
科目責任者氏名	佐々木 学				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	精神障がい者に対するリハビリテーションの一つである作業療法は、精神監護法(1900年)を起源とする入院中心主義と共に発展したが、精神障害者の退院促進(平成14年度)や就労支援、地域包括ケアシステムの対象になる(平成29年度)など、作業療法は入院から地域までの対象者に幅広く実践されている。 本講義では、疾患の特性、理論的枠組み、入院での介入から精神科デイケア、地域・在宅、就労での介入、社会的問題、近年の動向などについて概説する。				
到達目標	医療・福祉について 精神障害者に関連する医療・福祉の動向について説明することができる 精神障害者が利用できる医療・福祉サービスについて説明することができる 精神科医療にかかわる職種と病院などの機能・組織について説明することができる 代表的な疾患の受診から退院までの流れについて説明することができる。 触法精神障がい者の処遇について説明することができる 作業療法について 作業療法の対象となる代表的な疾患について説明することができる 伝統的作業療法について説明することができる 各種プログラム(機能維持、退院促進、在宅支援、就労(復学)支援など)について説明することができる 理論的枠組み、介入過程と手段について説明することができる				
成績評価方法	成績判定は筆記試験によりなされる。				
成績評価基準	A 100-90点 大学生として発展的な意見が述べられている B 89-80点 授業の内容を十分に理解している C 79-70点 授業内容を部分的に理解している D 69-60点 授業の内容を最低限理解している F 59以下 理解が不十分である				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	精神科作業療法の歴史	18世紀ごろからの現代までの我が国における精神障害者に関連した法的制度や諸外国の作業療法について概説される	講義	教科書の関連部分を参照するとよい	佐々木
2	触法精神障害者の処遇	犯罪を犯した精神障害者の処遇と支援について概説する	講義	教科書の関連部分を参照するとよい	佐々木
3	精神疾患関連職種と病院等の機能・組織	精神障害者の支援を行う職種と組織について概説する	講義	教科書の関連部分を参照するとよい	川勝
4	代表的な疾患の精神病院での処遇	統合失調症などの代表的な精神疾患患者の発症から入院、入院中の治療、退院支援などについて概説する	講義	教科書(「分裂病少女の手記」)を参照するとよい。これは、薬物療法をうけていない段階での症状が詳細に、当事者者の視点で記載されている。参考書に指定した書籍は当事者が執筆したものであり、これも役に立つ。	川勝
5	伝統的作業療法	昭和30年代まで、精神病院では作業療法が重視されてきた。これらの概要を説明する	講義	教科書を参照するとよい	川勝
6	治療理論1	精神領域の作業療法士が活用している作業療法士以外の専門職が使用している理論的枠組みについて概説する	講義	教科書を参照するとよい	佐々木

7	治療理論2	精神領域の作業療法士が活用している作業療法士が開発した理論的枠組みについて概説する	講義	教科書を参照するとよい	佐々木
8	アウトリーチ	日本では入院医療中心のあぶろーとから外来・在宅などによる治療的介入にシフトしつつある。これらについて概説する。	講義	配布資料を参照するとよい	佐々木

日付

6.4.18 (木) 1・2
6.4.25 (木) 1・2
6.5.2 (木) 1・2
6.5.9 (木) 1・2

教科書	(教科書1) 現代臨床精神医学/金原出版株式会社 (教科書2) 分裂病の少女の手記—心理療法による分裂病の回復過程、セシュエ、みすず書房
参考書	(参考図書) 精神保健福祉白書、精神保健福祉白書編集委員会、中央法規(福祉一般) (参考図書) 風の歌を聴きながら、東瀬戸サダエ/ラグーナ出版(当事者本、就労関連)
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業2
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	佐々木 学：研究室19 msasaki@yachts.ac.jp 川勝 祐貴：理作共同研究室 ykawakatsu@yachts.ac.jp
備考	特になし

授業科目	精神機能作業療法学演習	科目英語表記	OT Interventions for Mental function		
職名、担当教員氏名	講師 佐々木 学 講師 川勝 祐貴 非常勤講師 木内真美子				
科目責任者氏名	佐々木 学				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	2単位
授業概要	<p>デイケアにおける、復職支援や復学支援について学習する。 統合失調症、気分性障害、境界型人格障害、依存症へのアプローチを想定する。 2名の学生がペアとなり、1名が治療者、1名が患者を演じるロールプレイが行われる。 毎回、異なるテーマが設定され、配布した教材によって指導したり、教材作成などを行ったりしながら演習を行う。テーマは、学生の理解度や進行状況から変更される。 精神科デイケアでの治療的アプローチを中心に演習を行い、精神障がい者のリハビリテーションの介入過程を理解する。 講義の終盤では、症例についての作業療法実施計画書を作成する。</p>				
到達目標	<p>対象者への面接・評価の内容を考えることができる 対象者への面接・治療的介入において、リーダー・サブリーダーの役割を理解・経験する 対象者への面接・治療的介入において、教材を理解し、作成する過程を経験する 精神科デイケア・プログラム(作業療法実施計画)を立案することができる(初期治療介入仮説,問題点抽出,目標設定,施設内プログラムの組み合わせと新しいプログラムの作成)</p>				
成績評価方法	成績判定は作業療法実施計画を作成し、内容によって判定する				
成績評価基準	<p>A 100-90点 実習生として発展的な意見が述べられている B 89-80点 実習生として標準的な内容を全項目、記載することができる C 79-70点 実習生として標準的な内容を1-2項目の不足はあるが、記載することができる D 69-60点 実習生として最低限の記載ができる F 59以下 実習レベルに達していない</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	オリエンテーション、症例紹介	本科目で実施する概要の説明を行う。 症例は統合失調症22歳の大学生、双極性障害50歳の公務員で、成育歴や職場での状態について、疾患の特徴を説明しながら症例紹介を行う。	講義	教科書参照が望ましい	佐々木
2	初回面接	初回面接について理解する	講義、実習	教科書参照 YouTubeなどで、当事者の意見を視聴することも推奨される	佐々木 川勝
3	疾患教育	医療機関などで実施される疾患教育について理解する	講義、実習	教科書、図書館で動画視聴など	佐々木 川勝
4	服薬管理	服薬管理について理解する	講義、実習	教科書参照、図書館での動画視聴	佐々木 川勝
5	心理教育	心理教育について理解する	講義、実習	教科書、図書館で動画視聴	佐々木 川勝
6	スケジュール管理と生活習慣	スケジュール管理と生活習慣の指導について概説する	講義、実習	教科書、図書館で動画視聴	佐々木 川勝
7	Socail Skill Training(SST), 困っていることを解決する	Socail Skill Trainingについて概説する	講義、実習	教科書、図書館で動画視聴	(スポット) 木内真美子 佐々木 川勝
8	ストレス・コーピング	ストレス・コーピングについて概説する	講義、実習	教科書、図書館で動画視聴	佐々木 川勝

9	アサーション	アサーションについて概説する	講義、実習	教科書、図書館で動画視聴	佐々木川勝
10	レジリエンス	レジリエンスについて概説する	講義、実習	教科書、図書館で動画視聴	佐々木川勝
11	レクリエーション	レクリエーションについて概説する	講義、実習	教科書、図書館で動画視聴	佐々木川勝
12	自主活動	作業療法実施計画立案に必要な個別の評価、活動を行う	学生個人が計画立案・実行する	特になし	佐々木川勝
13	反省会	反省会を実施し、対象者がこれまで経験した内容について、どのようにとらえているか、検討する	講義、実習	事例レポート参照	佐々木川勝
14	作業療法実施計画の例示	作業療法実施計画の概要と、2事例の作成例を概説する	講義	教科書 作業療法実施計画を各自で立案する	佐々木川勝
15	作業療法実施計画発表会	作業療法実施計画を相互に発表し、研鑽する	グループ別に各自が作成した実施計画を発表、検討する	事例レポート参照 グループ発表会で指摘されたことや、他者の良い点を各自のレポートに反映させる。	佐々木川勝

日付

6.9.30 (月) 3・4
6.10.7 (月) 3・4
6.10.21 (月) 3・4
6.10.28 (月) 3・4
6.11.11 (月) 3・4
6.11.18 (月) 3・4
6.11.25 (月) 3・4
6.12.2 (月) 3

教科書	香山明美,精神障害作業療法/医歯薬出版株式会社
参考書	精神障がいと回復、リバーマン/星和書店 泣いて笑ってまた泣いた、倉科透恵/ラグーナ出版
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業3
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	佐々木 学：研究室19番 msasaki@yachts.ac.jp 川勝 祐貴：理作共同研究室 ykawakatsu@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	精神機能作業療法学実習	科目英語表記	Practice OT for Mental function		
職名、担当教員氏名	講師 佐々木 学 講師 川勝 祐貴				
科目責任者氏名	佐々木 学				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／実習若しくは実技	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	精神病院入院患者に対して行われる「精神科作業療法」を想定し、そこで実施される「退院促進プログラム」「身体機能維持プログラム」などについて学内実習する。 ロールプレイでは、1.教員による説明、2.教員によるデモンストレーション、3.学生が実技の過程を踏むが、学生が演じる患者は、問題行動を起こす場面が設定され、これに対処する能力を養うことも要求される。 診療に必要な管理業務として、業務日誌、月報、備品管理なども指導される。 臨床実習Ⅰ,Ⅱ,Ⅲでの実習地は、単科精神病院、精神科デイケア、就労支援施設などで実施されているが、本授業は単科精神病院での精神科作業療法(入院)の範疇で考えられている。				
到達目標	臨床実習で担当することの多い4疾患に対する対応を大まかに理解・経験できる 臨床実習で必要な記録を理解・経験することができる 精神病院で必要な管理業務を理解・経験できる 精神疾患患者の行動特性を理解した指導ができる 精神疾患患者への臨機応変な対応ができる 長期入院の精神疾患患者に対して教育的指導が重要であることを理解できる				
成績評価方法	各回の実習状況のうち、治療者役の学生が指導している場面を評価する。				
成績評価基準	A 100-90点 実習生として発展的な意見が述べられている B 89-80点 実習生として標準的な内容を十分記載することができる C 79-70点 実習生として標準的な内容を部分的に記載することができる D 69-60点 実習生として最低限の記載ができる F 59以下 実習レベルに達していない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	オリエンテーション・実習準備	・4人1グループによるロールプレイ ・4人のメンバーは異なる疾患患者(統合失調症・うつ病・境界型人格障害・依存症など)が設定される ・OTSが担当患者を含むグループ指導にあたる場面が再現される。 ・実習構成は、前回記録の確認10分、ミニ講義10分、デモ20分、学生実技10分×4回、記録記入10分程度の時間配分である。 ・講義部分は事例紹介と介入方法の紹介に大別される。	講義	疾患と介入方法について教科書などを用いて予習・復習する	佐々木川勝
2	実習の記録物と病院で必要な管理文書	実習の記録物と病院に必要な管理文書について説明する	講義	疾患と介入について調べる	佐々木川勝
3	退院促進プログラム、初回面接と情報収集	退院促進プログラムの概要、初回面接と情報収集の在り方について概説する	講義、実習	面接に関する資料を参照するとよい	佐々木川勝
4	伝統的作業療法(芸・工・習・音など)	伝統的作業療法について実習する	講義・実習	教科書参照	佐々木川勝
5	身体機能評価とスポーツ、レク活動	身体機能評価とスポーツ、レク活動について講義・実習する	講義・実習	教科書参照	佐々木川勝

6	心理教育/退院で経験できること	心理教育/退院で経験できることについて、講義・実習する	講義・実習	教科書参照	佐々木川勝
7	個別プログラム	既存プログラムで解決できない個別の問題に対応する個別プログラムを立案する	講義・実習	教科書参照	佐々木川勝
8	訪問指導(整理、洗濯、買い物、調理)	訪問指導(整理、洗濯、買い物、調理)を実施する	講義・実習	教科書参照	佐々木川勝
9	心理教育/リラクゼーション	心理教育/リラクゼーションについて実習する	講義・実習	教科書参照	佐々木川勝
10	ケア会議	ケア会議を実習する	講義・実習	教科書参照	佐々木川勝
11	心教/アンチエイジング/食生活他	心教/アンチエイジング/食生活他について実習する	講義・実習	教科書参照	佐々木川勝
12	在宅訪問指導	在宅訪問指導	講義・実習	教科書参照	佐々木川勝
13	個別プログラム	個別プログラムを実践する	講義・実習	教科書参照	佐々木川勝
14	反省会	反省会を開催して、対象者の認知を確認する	講義・実習	教科書参照	佐々木川勝
15	学生による作業療法実施計画発表会	学生による作業療法実施計画発表会を開催する	グループ別発表会	教科書参照	佐々木川勝

日付

6.4.10 (水) 3～5
6.4.17 (水) 3～5
6.4.24 (水) 3～5
6.5. 1 (水) 3～5
6.5. 8 (水) 3～5

教科書	山根寛、精神障害と作業療法、三輪書店
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業3/作業4
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	佐々木 学：研究室19 msasaki@yachts.ac.jp 川勝 祐貴：理作共同研究室 ykawakatsu@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	内部障がい作業療法学	科目英語表記	OT for Internal Medicine		
職名、担当教員氏名	教授 佐藤 寿晃 准教授 森 直樹				
科目責任者氏名	佐藤 寿晃				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習／実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	内部障がいを有する対象者の臨床像の理解と作業療法評価、治療計画およびその実施方法を教授する。				
到達目標	1. 内部障がいを有する対象者に対する病態と経過を説明できる。 2. 内部障がいを有する対象者に対するOT評価を説明できる。 3. 内部障がいを有する対象者に対してOT支援方法を説明できる。				
成績評価方法	筆記試験（100％）				
成績評価基準	到達目標1～3を評価する 特に優れている； 適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明（表現）できる 優れている； 根拠をふまえて論理的に説明（表現）できる 良好である； 根拠を用いてある程度論理的に説明（表現）できる 最低限の到達； 根拠は乏しいがある程度論理的に説明（表現）できる 目標に到達していない； 説明（表現）できない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	呼吸器疾患Ⅰ	呼吸器疾患の病態 OT評価	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	佐藤 スポット
2	呼吸器疾患Ⅱ	呼吸器疾患に対してのOT支援	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	佐藤 スポット
3	循環器疾患Ⅰ	循環器疾患の病態 OT評価	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	森 スポット
4	循環器疾患Ⅱ	循環器疾患のOT支援	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	森 スポット
5	がん、各年代別の内部疾患Ⅰ	がん、糖尿病、サルコペニアに対するOT評価、OT支援	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	佐藤
6	各年代別の内部疾患Ⅱ	小児期におけるがん、内部疾患に対するOT評価、OT支援	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	森
7	吸引に関する講義・演習Ⅰ	吸引の目的、リスクなどの基礎知識	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	佐藤 看護学科教員
8	吸引に関する演習・実習Ⅰ	吸引前を行い前に基礎知識 吸引の準備 吸引の実際	実習を通して吸引の実際を学ぶ。	講義終了後に復習してください。	佐藤 看護学科教員
日付					

教科書	小林隆司：身体障害作業療法学2（内部障害）、羊土社、2019
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの	作業2

関連	
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	佐藤：研究室37 tsato@yachts.ac.jp 森：研究室34 nmori@yachts.ac.jp
備考	吸引の講義・実習はPT学科3年生と合同

授業科目	認知機能作業療法学	科目英語表記	OT for Cognitive function		
職名、担当教員氏名	教授 外川 佑				
科目責任者氏名	外川 佑				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	2単位
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知機能障がい有する対象者の臨床像について教授する。 ・ 認知機能障がいに対する各種検査及び観察の技術とその結果の解釈について教授する。 ・ 認知機能障がい有する対象者への作業療法治療・訓練方法とその根拠について教授する。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床症状に合わせた評価法を選択し、実施することができる。 ・ 評価結果から、対象者の障がい像を解釈・説明できる。 ・ 認知機能障がい有する対象者への作業療法治療・訓練方法を説明できる。 ・ 各症状を有する事例に対し、適切な治療計画を立案できる。 				
成績評価方法	定期試験（100％）で判断する。				
成績評価基準	上記について、A:100～90、B:89～80、C:79～70、D:69～60、F59～0で評価する。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	注意機能障がいの評価	MARS日本語版、脳損傷者の日常生活観察による注意評価スケール、CAT、ADL評価	講義・演習	覚えることが多いので、復習をしっかりと行ってください。授業に臨むにあたって、関連図書を読んでおくとう理解が進みやすいです。	外川
2	注意機能障がいの作業療法	注意機能障がいへの介入の原則、直接刺激法、行動条件付け法、戦略置換法、全般的運動刺激、ADL訓練	講義・演習	覚えることが多いので、復習をしっかりと行ってください。授業に臨むにあたって、関連図書を読んでおくとう理解が進みやすいです。	外川
3	半側空間無視の評価	Visual Extinction Test、CBS、BIT、ADL評価	講義・演習	覚えることが多いので、復習をしっかりと行ってください。授業に臨むにあたって、関連図書を読んでおくとう理解が進みやすいです。	外川
4	半側空間無視の作業療法	視覚走査訓練、Spatiomotor cueing、プリズム順応、ADL訓練	講義・演習	覚えることが多いので、復習をしっかりと行ってください。授業に臨むにあたって、関連図書を読んでおくとう理解が進みやすいです。	外川
5	認知の障がいの評価	VPTA、ADL評価	講義・演習	覚えることが多いので、復習をしっかりと行ってください。授業に臨むにあたって、関連図書を読んでおくとう理解が進みやすいです。	外川
6	認知の障がいの作業療法	視覚失認、相貌失認、地誌的見当識障がいに対する対応と介入	講義・演習	覚えることが多いので、復習をしっかりと行ってください。授業に臨むにあたって、関連図書を読んでおくとう理解が進みやすいです。	外川
7	言語障がいの評価	SLTA、WAB、CADL	講義・演習	覚えることが多いので、復習をしっかりと行ってください。授業に臨むにあたって、関連図書を読んでおくとう理解が進みやすいです。	外川

8	言語障がい作業療法	失語の回復過程と介入（仮名文字訓練法、MIT、PACE、AACなど）、失語症患者とのコミュニケーション	講義・演習	覚えることが多いので、復習をしっかりと行ってください。授業に臨むにあたって、関連図書を読んでおくとう理解が進みやすいです。	外川
9	記憶障がいの評価	ベントン視覚記憶検査、レイ・オストリッチの複雑図、三宅式記憶力検査法、RBMT、ハノイの塔	講義・演習	覚えることが多いので、復習をしっかりと行ってください。授業に臨むにあたって、関連図書を読んでおくとう理解が進みやすいです。	外川
10	記憶障がいの作業療法	誤りなし学習法、PQRST法、頭文字記憶術、視覚イメージ法、ベグ法、運動コード化、代償手段、ADL訓練	講義・演習	覚えることが多いので、復習をしっかりと行ってください。授業に臨むにあたって、関連図書を読んでおくとう理解が進みやすいです。	外川
11	行為・行動の障がいの評価	失行、運動維持困難、運動継続、本能的把握反応の評価、SPTA、ADL評価	講義・演習	覚えることが多いので、復習をしっかりと行ってください。授業に臨むにあたって、関連図書を読んでおくとう理解が進みやすいです。	外川
12	行為・行動の障がいの作業療法	介入の原則とポイント、ADL訓練	講義・演習	覚えることが多いので、復習をしっかりと行ってください。授業に臨むにあたって、関連図書を読んでおくとう理解が進みやすいです。	外川
13	遂行機能障がいの評価	BADS、WCST、Stroopテスト、誤の流暢性、ティンカートイテスト、ADL評価	講義・演習	覚えることが多いので、復習をしっかりと行ってください。授業に臨むにあたって、関連図書を読んでおくとう理解が進みやすいです。	外川
14	遂行機能障がいの作業療法	自己教示訓練、問題解決訓練、環境の調整	講義・演習	覚えることが多いので、復習をしっかりと行ってください。授業に臨むにあたって、関連図書を読んでおくとう理解が進みやすいです。	外川
15	知能検査：Wechsler Adult Intelligence Scale - Fourth Edition	知能検査：Wechsler Adult Intelligence Scale - Fourth Editionの学習と実践	講義・演習	覚えることが多いので、復習をしっかりと行ってください。授業に臨むにあたって、関連図書を読んでおくとう理解が進みやすいです。	外川

日付

6.9.26 (木) 1・2
6.10.3 (木) 1・2
6.10.10 (木) 1・2
6.10.17 (木) 1・2
6.10.24 (木) 1・2
6.10.31 (木) 1・2
6.11.7 (木) 1・2
6.11.14 (木) 1

教科書	・長崎重信 監修/鈴木孝治 編集：作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 高次脳機能障害作業療法学、メジカルビュー社、2016
参考書	・石合純夫：高次脳機能障害学 第3版 医歯薬出版社 ・平山和美：高次脳機能障害の理解と診察 中外医学社 ・大槻閑人、子鹿ゆずる：アンメット-ある脳外科医の日記- 講談社
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業2
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修	非該当

得しておかなければならない科目	
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	外川 佑： 研究室28 tsotokawa@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	高齢期作業療法学	科目英語表記	OT for Geriatric		
職名、担当教員氏名	教授 外川 佑				
科目責任者氏名	外川 佑				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	日本の高齢者の現状と特徴、高齢者に多い疾患の臨床像とその評価方法、高齢期の対象者に対する作業療法で用いられる理論について教授する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本の高齢者の現状と特徴について説明できる。 高齢者に多い疾患の臨床像を理解し、その評価を実施できる。 ICF、COPMを用いて対象者の障害像を解釈・説明することができる。 				
成績評価方法	定期試験（60％）、課題レポート（20％）、講義中の小テスト（20％）から判断する。				
成績評価基準	上記について、A:100～90、B:89～80、C:79～70、D:69～60、F59～0で評価する。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	高齢者の現状	高齢化の進展、超高齢社会の抱える問題、一般高齢者の状況、社会制度	講義	覚えることが多いので、講義後は教科書を読み込み、配布資料を再確認するなど復習をしっかりと行ってください。	外川
2	高齢者の特徴	高齢者の生理的、身体的、認知、心理的特徴	講義	覚えることが多いので、講義後は教科書を読み込み、配布資料を再確認するなど復習をしっかりと行ってください。	外川
3	高齢者に多い症候と疾患1	意識障害、循環器疾患、呼吸器疾患、内分泌・栄養・代謝系疾患、嚥下機能障害	講義	覚えることが多いので、講義後は教科書を読み込み、配布資料を再確認するなど復習をしっかりと行ってください。	外川
4	高齢者に多い症候と疾患2	神経系疾患、運動器疾患、精神系疾患、排尿・排便機能障害、睡眠障害、転倒・骨折、褥瘡、廃用症候群	講義	覚えることが多いので、講義後は教科書を読み込み、配布資料を再確認するなど復習をしっかりと行ってください。	外川
5	高齢者に多い症候と疾患3	認知症の臨床像、作業療法評価とその解釈	講義	覚えることが多いので、講義後は教科書を読み込み、配布資料を再確認するなど復習をしっかりと行ってください。	外川
6	介護予防とその評価 高齢者に対する作業療法の実践課程	フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム 作業療法評価プロセスと方法、課題の焦点化、目標設定、治療・援助計画、再評価	講義	覚えることが多いので、講義後は教科書を読み込み、配布資料を再確認するなど復習をしっかりと行ってください。	外川
7	高齢期の作業療法で用いられる理論	カナダ作業遂行モデル（COPM）、 国際生活機能分類（ICF）	講義	覚えることが多いので、講義後は教科書を読み込み、配布資料を再確認するなど復習をしっかりと行ってください。	外川
8	事例検討	評価項目の選択、評価の解釈	講義・演習	レポートを作成し、提出	外川
日付					
6.6.20 (木) 3・4					
6.6.27 (木) 3・4					
6.7.4 (木) 3・4					
6.7.11 (木) 3・4					

教科書	松房利憲／新井健五 編集：高齢期作業療法学 第3版. 医学書院, 2016 大塚俊男, 他：高齢者のための知的機能検査の手引き. ワールドプランニング, 1991
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業2
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	外川 佑： 研究室28 tsotokawa@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	高齢期作業療法学演習	科目英語表記	OT Interventions for Geriatric		
職名、担当教員氏名	教授 外川 佑				
科目責任者氏名	外川 佑				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	2単位
授業概要	高齢期の対象者に対する作業療法治療・訓練方法とその根拠について教授する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・病期や実施場所に応じた治療プログラムを立案できる。 ・現実見当識訓練、回想法、音楽、運動、手工芸を用いた介入を実践できる。 ・認知症、虚弱高齢者、寝たきりの高齢者に対する治療プログラムを立案できる。 ・介護予防における作業療法士の役割を説明できる。 ・事例をもとに、作業療法の一連の流れを説明できる。 				
成績評価方法	定期試験（70%）、課題レポート（20%）、プレゼンテーション(10%)から判断する				
成績評価基準	上記について、A:100～90、B:89～80、C:79～70、D:69～60、F59～0で評価する				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	高齢者に対する作業療法の実践過程1	作業療法プロセス、リスク管理、予後予測	講義	覚えることが多いので、教科書や資料を振り返っての復習を推奨する。	外川
2	高齢者に対する作業療法の実践過程2	病期、実施場所に応じた治療・援助内容の違い	講義	覚えることが多いので、教科書や資料を振り返っての復習を推奨する。	外川
3	高齢期の作業療法の実際1	現実見当識訓練(RO)、回想法	講義・演習（プレゼンテーション）	プレゼンテーションに関する情報収集やプレゼン資料のまとめ	外川
4	高齢期の作業療法の実際2	音楽とその治療的使用	講義・演習（プレゼンテーション）	音楽療法に関する情報収集やレポート作成	外川
5	高齢期の作業療法の実際3	運動とその治療的使用	講義・演習	覚えることが多いので、教科書や資料を振り返っての復習を推奨する。	外川
6	高齢期の作業療法の実際4	手工芸とその治療的使用	講義・演習	覚えることが多いので、教科書や資料を振り返っての復習を推奨する。	外川
7	高齢期の作業療法の実際5	手工芸とその治療的使用	講義・演習	覚えることが多いので、教科書や資料を振り返っての復習を推奨する。	外川
8	作業とその治療的応用	活動分析・作業分析と適応	講義・演習	活動分析・作業分析に関する情報収集やレポート作成	外川
9	認知症に対する作業療法1	認知症を有する対象者への介入方法	講義	覚えることが多いので、教科書や資料を振り返っての復習を推奨する。	外川
10	認知症に対する作業療法2	認知症を有する対象者への介入方法	講義	覚えることが多いので、教科書や資料を振り返っての復習を推奨する。	外川
11	虚弱、寝たきり高齢者に対する作業療法	虚弱高齢者、寝たきり高齢者への介入方法	講義	覚えることが多いので、教科書や資料を振り返っての復習を推奨する。	外川
12	介護予防	介護予防事業の実際と作業療法士の役割	講義	覚えることが多いので、教科書や資料を振り返っての復習を推奨する。	外川

13	事例検討1	評価結果の解釈	講義・演習	レポート作成	外川
14	事例検討2	作業療法プログラム立案	講義・演習	レポート作成	外川
15	事例検討3、まとめ	作業療法プログラム立案	講義・演習	レポート作成	外川
日付					
6.11.14 (木) 2 6.11.28 (木) 1・2 6.12. 5 (木) 1・2 6.12.12 (木) 1・2 6.12.19 (木) 1・2 6.12.26 (木) 1・2 7.1. 9 (木) 1・2 7.1.16 (木) 1・2					

教科書	松房利憲／新井健五 編集：高齢期作業療法学 第3版. 医学書院, 2016 大塚俊男, 他：高齢者のための知的機能検査の手引き. ワールドプランニング, 1991
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業3
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	外川 佑：研究室28 tsotokawa@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	高齢期作業療法学実習	科目英語表記	Practice OT for Geriatric		
職名、担当教員氏名	教授 外川 佑				
科目責任者氏名	外川 佑				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	演習／実習若しくは実技	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	障がいの特性に応じた作業療法を実践するための技術を教授する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の特性に応じた評価項目を選択し、その理由を説明できる。 ・ 評価結果から障害構造を解釈・説明できる。 ・ 障害の特性に応じた作業療法プログラムを立案し、その根拠を説明することができる。 ・ 高齢者に対する作業療法で用いられる介入法を適切に実践できる。 				
成績評価方法	演習への取組状況：教員による観察評価（40%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）により判断する。				
成績評価基準	上記について、A:100～90、B:89～80、C:79～70、D:69～60、F59～0で評価する				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	臨床に役立つ評価Ⅰ	身体機能に関する評価	演習	各回におけるこれまでに学習した関連項目を復習するなどの準備をしておくことが望ましい。	外川
2	臨床に役立つ評価Ⅰ	身体機能に関する評価	演習	各回におけるこれまでに学習した関連項目を復習するなどの準備をしておくことが望ましい。	外川
3	臨床に役立つ評価Ⅱ	精神機能に関する評価 社会性に関する評価	演習	各回におけるこれまでに学習した関連項目を復習するなどの準備をしておくことが望ましい。	外川
4	臨床に役立つ評価Ⅱ	精神機能に関する評価 社会性に関する評価	演習	各回におけるこれまでに学習した関連項目を復習するなどの準備をしておくことが望ましい。	外川
5	治療計画立案演習1	パーキンソン病患者の事例を用いて治療計画を立案する	演習	各回におけるこれまでに学習した関連項目を復習するなどの準備をしておくことが望ましい。	外川
6	治療計画立案演習1	パーキンソン病患者の事例を用いて治療計画を立案する	演習	各回におけるこれまでに学習した関連項目を復習するなどの準備をしておくことが望ましい。	外川
7	治療計画立案演習2	廃用症候群の事例を用いて治療計画を立案する	演習	各回におけるこれまでに学習した関連項目を復習するなどの準備をしておくことが望ましい。	外川
8	治療計画立案演習2	廃用症候群の事例を用いて治療計画を立案する	演習	各回におけるこれまでに学習した関連項目を復習するなどの準備をしておくことが望ましい。	外川
9	治療計画立案演習3	認知症患者の事例を用いて治療計画を立案する	演習	各回におけるこれまでに学習した関連項目を復習するなどの準備をしておくことが望ましい。	外川

10	治療計画立案演習3	認知症患者の事例を用いて治療計画を立案する	演習	各回におけるこれまでに学習した関連項目を復習するなどの準備をしておくことが望ましい。	外川
11	臨床に役立つツール	生活行為向上マネジメント(演習)	演習	各回におけるこれまでに学習した関連項目を復習するなどの準備をしておくことが望ましい。	外川
12	臨床に役立つツール	生活行為向上マネジメント(演習)	演習	各回におけるこれまでに学習した関連項目を復習するなどの準備をしておくことが望ましい。	外川
13	高齢者の理解	高齢者疑似体験による演習	演習	各回におけるこれまでに学習した関連項目を復習するなどの準備をしておくことが望ましい。	外川
14	高齢者の理解	高齢者疑似体験による演習	演習	各回におけるこれまでに学習した関連項目を復習するなどの準備をしておくことが望ましい。	外川
15	高齢者の理解	高齢者疑似体験による演習	演習	各回におけるこれまでに学習した関連項目を復習するなどの準備をしておくことが望ましい。	外川

日付

6.6.12(水)3・4
6.6.14(金)3・4
6.6.19(水)3・4
6.6.21(金)3・4
6.6.26(水)3・4
6.6.28(金)3・4
6.7. 5(金)3～5

教科書	松房利憲／新井健五 編集：高齢期作業療法学 第3版. 医学書院, 2016 大塚俊男, 他：高齢者のための知的機能検査の手引き. ワールドプランニング, 1991 日本作業療法士協会：作業療法マニュアル66生活行為向上マネジメント, 2018
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業3／作業4
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	外川 佑 28研究室 tsotokawa@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	日常生活活動学	科目英語表記	Activities of daily living		
職名、担当教員氏名	准 教 授 鈴木 由美 非常勤講師 笹原 寛				
科目責任者氏名	鈴木 由美				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	対象者の生活を担う広域日常生活活動および、対象者の生活の中に生かせる作業療法評価および支援方法を教授する。				
到達目標	1 ADLの概念をICFの視点から説明できる。 2 ADL評価法の名称とその適応および概略を説明できる。 3 ADLの一連の動作を動作分析の視点から説明できる。 4 対象者の障がい特性を考慮し、個々のニーズに応じたADL支援内容を考えることができる。				
成績評価方法	定期試験	50%	到達目標	1、2、3、4	
	授業内のプレゼンテーション	30%	到達目標	3、4	
	レポート内容	20%	到達目標	2、4	
成績評価基準	<p>到達目標1 ADLの概念をICFの視点から説明できる。</p> <p>特に優れている 身体障がい・精神障がい・発達障がい・高齢期障がい・地域領域のADLの概念をICFの視点から説明できる。</p> <p>優れている 上記5つの領域の中の3つ以上の領域で、そのADLの概念をICFの視点から説明できる。</p> <p>良好である 上記5つの領域の中のひとつの領域でADLの概念をICFの視点から説明できる。</p> <p>最低限の到達 上記5つの領域においてADLの概念を説明できる。</p> <p>目標に達していない ADLの概念もICFの概念も説明できない。</p> <p>到達目標2 ADL評価法の名称とその適応および概略を説明できる。</p> <p>特に優れている 上記5つの領域において代表的なADL評価法の名称を1つ以上述べ、その適応および概略を説明できる。</p> <p>優れている 上記5つの領域の中の3つ以上の領域で、代表的なADL評価法の名称を1つ以上述べ、その適応および概略を説明できる。</p> <p>良好である 2つ以上のADL評価法の名称とその適応および概略を説明できる。</p> <p>最低限の到達 少なくとも1つの領域のADL評価法の名称とその適応および概略を説明できる。</p> <p>目標に達していない ADL評価法の説明ができない。</p> <p>到達目標3 ADLの一連の動作を動作分析の視点から説明できる。</p> <p>特に優れている 対象者のADLを観察して正確な動作分析ができる。</p> <p>優れている 対象者のADLを観察して、細かな誤りはあるがほぼ正確な動作分析ができる。</p> <p>良好である 対象者のADLを観察して一通り動作分析ができる。</p> <p>最低限の到達 対象者のADLを観察してテキストを用いながらも一通り動作分析ができる。</p> <p>目標に達していない テキストを用いても一部しか動作分析ができない。</p> <p>到達目標4 対象者の障がい特性を考慮し、個々のニーズに応じたADL支援内容を考えることができる。</p> <p>特に優れている 対象者の障がい特性に配慮しつつ、ニーズに応じた指導内容を考案できる。</p> <p>優れている 対象者の障がい特性、ニーズのどちらかに重きを置くものの、指導内容を考案できる。</p> <p>良好である テキストや講義資料を参照しながらも対象者の障がい特性を考慮し、個々のニーズに応じた指導内容を考えることができる。</p> <p>最低限の到達 対象者の障がい特性、あるいはニーズどちらかに配慮した指導内容を考案できる。</p> <p>目標に達していない ADL支援内容を考案できない。</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	総論 (ADLの概念・ICFとの関係)	ADL・IADLの定義およびICFとの関連性を学習する。 5つの領域におけるADL評価の概念を学習する。	講義	教科書1 p2～39まで熟読すること。 教科書2 p2～8まで熟読すること。	鈴木由美
2	行為別ADL 食事動作・整容動作	食事動作・整容動作の特徴を踏まえて、演習にてそれらの	講義・演習	教科書1 p70～82を読んで復習すること。	鈴木由美

		支援を体験する。			
3	行為別ADL 更衣動作 動作分析	更衣場面の動作分析を体験する。	グループワーク	グループワークおよびプレゼンテーションの準備等が、講義時間内に終わらないときは、必ず学外時間を使って期限まで準備するようにしてください。 運動学の復習をしてください。	鈴木由美
4	行為別ADL 更衣動作 動作分析	前回の分析結果をグループごとにプレゼンテーションする。	プレゼンテーション	各グループのプレゼンテーション内容を見直し、誤った分析をチェックしておく。	鈴木由美
5	行為別ADL 排泄動作・入浴動作	排泄動作・入浴動作の分析と支援方法を学習する。	講義	教科書1 p90~100まで読んで復習しておくこと。	鈴木由美
6	日本人特有の生活様式	日本人の生活様式に沿ったADL支援について学習する。	講義		鈴木由美
7	IADLの理解 炊事・洗濯・掃除・外出・自己管理	炊事・洗濯・掃除・外出・自己管理支援の特徴をグループで討議する。	グループワーク	プレゼンテーション資料作成・提出	鈴木由美
8	IADLの理解 炊事・洗濯・掃除・外出・自己管理	前回調査した結果をグループごとにプレゼンテーションする。	プレゼンテーション	プレゼンテーション資料作成・提出	鈴木由美
9	BI(Barthel Index)・FIM(Functional Independence Measure)の理解と解釈	ADLの代表的な評価方法であるBIとFIMを学習する。	講義	教科書2 p13~14、20~21を熟読すること。	鈴木由美
10	FIMの理解と解釈 事例検討	模擬事例のデータを用い、FIMにて模擬事例の回復経過を検証する。	グループワーク	BI・FIMの評価の視点を教科書や配布資料で復習する。	鈴木由美
11	FIMの理解と解釈 事例検討	第10回の授業の続き。模擬事例のデータを用い、FIMにて模擬事例の回復経過を検証する。	グループワーク	グループで検証した結果をレポートにまとめて提出する。	鈴木由美
12	ADL指導の実際 移動動作の支援・更衣動作の支援	疾患別の移動(移乗)動作・車いす駆動の支援方法を体験しながら学習する。	演習	学生どうして時間を見つけて何度でも練習すること。	非常勤講師 笹原寛 鈴木由美
13	ADL指導の実際 更衣動作に対する支援	疾患別で更衣動作に対する支援方法を体験しながら学習する。	演習	学生どうして時間を見つけて何度でも練習すること。	非常勤講師 笹原寛 鈴木由美
14	ADL支援の実際 利き手交換・高次脳機能障害に対する支援	非利き手でのADL遂行に対する支援を学習する。	演習	課題として、疾患ごとの自助具の考案を提示する。	非常勤講師 笹原寛 鈴木由美
15	ADL支援の実際 自助具考案・事例検討	考案した自助具のプレゼンテーション。 模擬事例に対するADL指導をグループで討議する。	グループワーク		非常勤講師 笹原寛 鈴木由美

日付

6.4.8(月)4
6.4.15(月)4
6.4.22(月)4
6.5.13(月)4
6.5.20(月)4
6.5.27(月)4
6.6.3(月)4
6.6.10(月)4
6.6.17(月)4
6.6.24(月)4
6.7.1(月)4
第12~15回 後日連絡

教科書	教科書1 クリニカル作業療法シリーズ 日常生活の作業療法 中央法規出版株式会社 2014年 教科書2 ADLとその周辺 評価・指導・介護の実際 第3版 医学書院
-----	---

参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業2
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	鈴木由美：研究室30 yusuzuki@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	地域作業療法学概論	科目英語表記	Community Based OT		
職名、担当教員氏名	准教授 鈴木 由美				
科目責任者氏名	鈴木 由美				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	地域リハビリテーション（作業療法）の歴史と必要性・地域社会をとらえる視点・関連法規・社会資源・実践課程の紹介をもとに、地域作業療法の概念を教授する。				
到達目標	1 地域リハビリテーション・地域作業療法の必要性を説明できる。 2 地域を捉える視点を理解できる。 3 医療保険および介護保険と作業療法の関係性を説明できる。 4 地域作業療法を支える社会資源および多職種連携を説明できる。 5 生活者として生きる対象者への支援を理解できる。				
成績評価方法	定期試験	40%	到達目標	1、2、3、4 を評価	
	小テスト	40%	到達目標	1、2、3、4 を評価	
	プレゼンテーション	10%	到達目標	2 を評価	
	レポート課題	10%	到達目標	1 を評価	
成績評価基準	<p>到達目標 1 地域リハビリテーション・地域作業療法の必要性を説明できる。</p> <p>特に優れている : 地域リハビリテーション・地域作業療法の必要性を、歴史・対象者の変遷・疾患特性および人口動態をもって説明できる。</p> <p>優れている : 地域リハビリテーション・地域作業療法の必要性を、歴史・対象者の変遷に、疾患特性および人口動態のいずれかを加味して説明できる。</p> <p>良好である : 地域リハビリテーション・地域作業療法の必要性を、歴史・対象者の変遷より説明できる。</p> <p>最低限の到達 : 地域リハビリテーション・地域作業療法の必要性を講義資料の内容を用いて説明できる。</p> <p>目標に達していない : 地域リハビリテーション・地域作業療法の必要性を説明できない。</p> <p>到達目標 2 地域を捉える視点を理解できる。</p> <p>特に優れている : 提示した9つの地域を捉える視点をもって対象地域を概観できる。</p> <p>優れている : 提示した9つの地域を捉える視点のうち、5つの内容から対象地域を概観できる。</p> <p>良好である : 提示した9つの地域を捉える視点のうち、3つの内容から対象地域を概観できる。</p> <p>最低限の到達 : 提示した9つの地域を捉える視点のうち、少なくとも1つの内容から対象地域を概観できる。</p> <p>目標に達していない : 地域を捉える視点を理解できない。</p> <p>到達目標 3 医療保険および介護保険と作業療法の関係性を説明できる。</p> <p>特に優れている : 医療保険および介護保険のそれぞれの特徴と相違、および全作業療法領域との関係性を説明できる。</p> <p>優れている : 医療保険および介護保険のそれぞれの特徴と最低ひとつの作業療法領域との関係性を説明できる。</p> <p>良好である : 医療保険および介護保険のそれぞれの特徴と作業療法の関係性を説明できる。</p> <p>最低限の到達 : 医療保険および介護保険のそれぞれの特徴を説明できる。</p> <p>目標に達していない : 医療保険および介護保険のどちらかの特徴、あるいはどちらの特徴も説明できない。</p> <p>到達目標 4 地域作業療法を支える社会資源および他職種連携を説明できる。</p> <p>特に優れている : 地域作業療法を支える社会資源および他職種連携の関連性を、具体的な例をあげて説明できる。</p> <p>優れている : 地域作業療法を支える社会資源および他職種連携の関連性の大枠を説明できる。</p> <p>良好である : 地域作業療法を支える社会資源および他職種連携それぞれの内容を具体的に説明できる。</p> <p>最低限の到達 : 地域作業療法を支える社会資源および他職種連携それぞれの内容の大枠を説明できる。</p> <p>目標に達していない : 地域作業療法を支える社会資源および他職種連携のどちらの内容も説明できない。</p> <p>到達目標 5 生活者として生きる対象者への支援を理解できる。</p> <p>特に優れている : 地域の中で障がいを持ちつつも主体的に生きていく対象者への支援内容を、人一作業一環境の視点より具体的に提示できる。</p> <p>優れている : 地域の中で障がいを持ちつつも主体的に生きていく対象者への支援内容を提示し、その根拠を説明できる。</p> <p>良好である : 地域の中で障がいを持ちつつも主体的に生きていく対象者への支援内容を提示し、大枠を説明</p>				

最低限の到達目標に達していない

できる。
 : 地域の中で障がいを持ちつつも主体的に生きていく対象者への支援内容のひとつを説明できる。
 : 地域の中で障がいを持ちつつも主体的に生きていく対象者への支援内容がひとつも説明できない。

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	地域作業療法の歴史およびその概念	これまで構築されてきた、地域リハビリテーション・地域作業療法の必要性を、歴史・対象者の変遷・疾患特性および人口動態、地域特性の側面から講義する。	講義	教科書p11からp17まで読んで確認すること。	鈴木由美
2	地域を捉える視点	それぞれの地域をどのような視点から捉えていくべきか、9つの例を挙げて説明する。	講義	講義資料を見返して復習する。	鈴木由美
3	地域を捉える視点	グループワークプレゼンテーション資料作成グループに分かれて各自が生まれ育った地域を同じ視点で調査し、比較する。	個々の生まれ育った地域を提示された視点から調査し、比較する。 プレゼンテーション資料を作成する。	プレゼンテーション資料作成発表準備	鈴木由美
4	地域を捉える視点	グループワーク発表を通して、地域の違いを知るとともに、それぞれの地域の特性を作業療法にどのように生かしていくか考察する。 グループワーク発表を通して、わかりやすい発表方法を検討する。	グループワーク発表	地域を知る視点の9項目をそれぞれ復習する	鈴木由美
5	社会保障制度(医療保険)と作業療法	作業療法を展開していくために必要な医療保険制度の概要および、作業療法士の責務を学習する。	講義	次週に本講義内容の小テストを実施する。テキスト・講義資料の復習。	鈴木由美
6	社会保障制度(介護保険)と作業療法	第5回の講義内容を踏まえて、地域作業療法を展開していくために必要な介護保険制度の概要、医療保険および作業療法との関連を学習する。	講義	次週に本講義内容の小テストを実施する。テキスト・講義資料の復習。	鈴木由美
7	社会資源と活用・他職種との連携	地域において対象者に提示できる社会資源(フォーマル、インフォーマル)および作業療法士以外の職種と作業療法の関りを学習する。具体的には多様な社会資源、対象者を支援するシステムやツールについて学習する。	講義	次週に本講義内容の小テストを実施する。講義資料の復習。	鈴木由美
8	模擬 地域作業療法体験	先に事例を提示し地域において支援内容とその経過を学習をする。 後半、別事例において講義5. 6. 7をもとにどのような支援が望ましいのか考える。	講義の聴講 後半は事例検討。レポート課題とする。	レポート作成・提出	鈴木由美
日付					
6. 4.12 (金) 2					
6. 4.19 (金) 2					
6. 4.26 (金) 2					
6. 5.10 (金) 2					
6. 5.17 (金) 2					
6. 5.24 (金) 2					
6. 5.31 (金) 2					
6. 6.14 (金) 2					

教科書 ゴールドマスターテキスト 地域作業療法学 監修 長崎重信 編集 徳永千尋、田村孝司 メジカルビュー社 2023年発行

参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業2
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	鈴木由美：研究室30 yusuzuki@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	地域作業療法学Ⅰ	科目英語表記	Community Based OT Ⅰ		
職名、担当教員氏名	准教授 鈴木 由美				
科目責任者氏名	鈴木 由美				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	1. 地域における作業療法士の役割について教授する。 2. 対象（個々、地域全体）を支援する社会資源と他職種等との連携について教授する。 3. 地域の視点から保健・医療・福祉の連携の必要性を教授する。 4. 地域作業療法の評価、アプローチ方法およびリスク管理について教授する。				
到達目標	1. 地域における作業療法士の役割を説明できる。 2. 対象者を支援する社会資源と多職種等との連携について説明できる。 3. 地域作業療法の評価方法・アプローチ方法について説明できる。 4. 地域作業療法を実施するために必要なリスク管理を説明できる。				
成績評価方法	定期試験	60%	到達目標	1、2、3、4	
	プレゼンテーション	20%	到達目標	2、3、4	
	プレゼンテーション資料	20%	到達目標	2、3、4	
成績評価基準	<p>到達目標1 地域における作業療法士の役割を説明できる。</p> 特に優れている : 地域における作業療法士の役割と現状、および展望を述べることができる。 優れている : 講義・演習内容をもとに地域における作業療法士の役割と現状を説明できる。 良好である : 講義・演習内容をもとに地域における作業療法士の役割を説明できる。 最低限の到達 : 講義・演習内容をもとに地域における作業療法士の役割の大枠を説明できる。 目標に達していない : 地域における作業療法士の役割を説明できない。 <p>到達目標2 対象者を支援する社会資源と多職種等との連携について説明できる。</p> 特に優れている : 対象者を支援する社会資源と関連職種との連携について、例をあげて説明できる。 優れている : 対象者を支援する社会資源と関連職種との連携について、それぞれの関係性を説明できる。 良好である : 対象者を支援する社会資源と関連職種との連携について、概要を説明できる。 最低限の到達 : 対象者を支援する社会資源と関連職種との連携について、個々に説明できる。 目標に達していない : 対象者を支援する社会資源と関連職種との連携について説明できない。 <p>到達目標3 地域作業療法の評価方法・アプローチ方法について説明できる。</p> 特に優れている : 地域作業療法の評価・アプローチの過程を、個別活動・集団活動それぞれ例をあげて説明できる。 優れている : 地域作業療法の評価・アプローチの過程を一例をあげて説明できる。 良好である : 地域作業療法の評価・アプローチの過程の概要を説明できる。 最低限の到達 : 地域作業療法の評価方法・アプローチ方法のどちらかについて説明できる。 目標に達していない : 地域作業療法の評価方法・アプローチ方法のどちらも説明できない。 <p>到達目標4 地域作業療法を実施するために必要なリスク管理を説明できる。</p> 特に優れている : 地域作業療法を実施するために必要なリスク管理を状況に応じて詳細に説明できる。 優れている : 地域作業療法を実施するために必要なリスク管理を例をあげて説明できる。 良好である : 地域作業療法を実施するために必要なリスク管理を講義内容をもとに説明できる。 最低限の到達 : 地域作業療法を実施するために必要なリスク管理のいくつかを説明できる。 目標に達していない : 地域作業療法を実施するために必要なリスク管理を記憶していない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	地域作業療法と介護保険	地域作業療法を行っていく上で必要知識として、介護保険との関連性を学習する。	講義	講義資料、および教科書p50～64まで読んで復習する。	鈴木由美
2	対象者の生活を支援する社会資源 調査	地域作業療法とともに利用される社会資源について調査する。	グループワークで提示された社会資源について調査する。	調査内容をプレゼンテーション資料としてまとめる。発表2日前までにプレゼンテーション資料を提出する。	鈴木由美

3	対象者の生活を支援する社会資源 発表	前回調査した内容を各グループ12分以内で発表する。	プレゼンテーション	各グループのプレゼンテーション資料を十分に復習する。	鈴木由美
4	生活行為向上マネジメントの概要・評価	生活行為向上マネジメントの概要および評価	講義	本講義の演習を高年齢作業療法学実習にて行うので、必ず、教科書を読み返しておくこと。	鈴木由美
5	学内環境調査	対象者（障がい者）の視点で本学の環境を調査し、改善点を検討する。	グループワーク		鈴木由美
6	学内環境調査	グループワーク 第5回同様、対象者（障がい者）の視点で本学の環境を調査し、改善点を検討する。	調査内容・検討内容をプレゼンテーション資料として作成する。	プレゼンテーション資料の作成	鈴木由美
7	学内環境調査 プレゼンテーション	各グループのプレゼンテーション内容をそれぞれディスカッションする。	プレゼンテーションおよびディスカッション	プレゼンテーション 資料提出	鈴木由美
8	地域作業療法におけるリスク管理	地域作業療法を展開していくために必要な知識としてのリスク管理を学習する。	講義	教科書 p91～107を読み復習すること。	鈴木由美
9	集団アプローチ・評価と支援	作業療法士が実施する集団アプローチについて、計画立案から実施まで学習する。	講義		鈴木由美
10	集団アプローチ・評価と支援	模擬患者を用いて評価・計画立案・準備の方法を学習する。	グループワーク	模擬患者の評価をまとめておく。	鈴木由美
11	10回からの継続 集団アプローチ・評価と支援	模擬患者を用いて評価・計画立案・準備の方法を学習する。	グループワーク	プレゼンテーションの準備資料作成	鈴木由美
12	模擬事例を用いて地域における集団アプローチを実施する	模擬事例に対するアプローチを提示する。	グループワーク	実施計画書の作成・提出	鈴木由美
13	地域包括ケア・地域における連携	地域包括ケアの概念およびそこに関わる職種との連携を学習する	講義	教科書p68～72まで読んで復習すること。	鈴木由美
14	就学児童に対する地域支援	就学児童に対する作業療法士の地域支援の可能性を学習する	講義		スポット 松山幸太郎先生 鈴木由美
15	精神領域における地域支援	外部講師を迎え、精神科領域でどのような地域支援が行われてきたかご紹介いただく。	講義		スポット 佐々木俊二先生 鈴木由美

日付

6.4.18 (木) 2
6.4.25 (木) 1・2
6.5. 2 (木) 1・2
6.5. 9 (木) 1・2
6.5.16 (木) 1・2
6.5.23 (木) 1・2
6.5.30 (木) 1・2
6.5.31 (金) 1
第15回 後日連絡

教科書	重森健太・横井賀津志：地域リハビリテーション学第2版 羊土社 2019年 日本作業療法士協会：作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント改定第2版 2016年
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業2
先修条件指定科目	非該当

先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	鈴木由美：研究室30 yusuzuki@yachts.ac.jp
備考	14回目は、K-education(広島市)より松山幸太郎先生をお迎えして、広島市において就学児童に対してどのような地域支援が行われているか、学校教員の立場から作業療法支援の可能性をお話しいたします。 15回目は、介護老人保健施設なとりより、佐々木俊二先生をお迎えして精神領域における地域支援についてお話しいただきます。

授業科目	地域作業療法学Ⅱ	科目英語表記	Community Based OT Ⅱ																																										
職名、担当教員氏名	准 教 授 鈴木 由美 非常勤講師 川田 智尋																																												
科目責任者氏名	鈴木 由美																																												
学内連絡教員氏名																																													
学科／分野	作業療学科	学年	4年																																										
科目区分	専門	必修・選択の別	必修																																										
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位																																								
授業概要	地域における作業療法実践のための知識を教授する。 医学モデルと生活モデルの違いを理解し、地域活動における作業療法のあり方を教授する。 他職種との連携の中で作業療法士の関りを教授する。																																												
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域リハビリテーションの作業療法評価の一部を実施できる。 2. 抽出した地域課題に対して作業療法の具体的な作業療法支援を説明できる。 3. 地域リハビリテーションにおける訪問作業療法の位置づけを説明できる。 4. 訪問リハビリテーションの中の作業療法士の関りを説明できる。 																																												
成績評価方法	プレゼンテーション	30%	到達目標	1、2																																									
	プレゼンテーション資料	20%	到達目標	1、2																																									
	レポート	50%	到達目標	2、3、4																																									
成績評価基準	<p>到達目標1. 地域リハビリテーションの作業療法評価の一部を実施できる。</p> <table border="0"> <tr> <td>特に優れている</td> <td>自らの明確な目的をもって、他学生をサポートしながら課題を遂行した。</td> </tr> <tr> <td>優れている</td> <td>最小の助言は必要とするが、自らの目的を明確にし課題を遂行した。</td> </tr> <tr> <td>良好である</td> <td>助言は必要とするが、他学生と目的を共有し課題を遂行した。</td> </tr> <tr> <td>最低限の到達</td> <td>助言、他学生の支援を得ながら、課題を遂行することができた。</td> </tr> <tr> <td>目標に達していない</td> <td>多くの助言、他学生の支援を得ても課題を遂行できなかった。</td> </tr> </table> <p>到達目標2. 抽出した地域課題に対して具体的な作業療法支援を説明できる。</p> <table border="0"> <tr> <td>特に優れている</td> <td>自らの明確な目的をもって、他学生をサポートしながら具体的な作業療法支援を説明できた。</td> </tr> <tr> <td>優れている</td> <td>最小の助言は必要とするが、他学生と目的を共有し具体的な作業療法支援を説明できた。</td> </tr> <tr> <td>良好である</td> <td>助言は必要とするが、他学生と協調し具体的な作業療法支援を説明できた。</td> </tr> <tr> <td>最低限の到達</td> <td>助言、他学生の支援を得ながら、作業療法支援の概略を説明できた。</td> </tr> <tr> <td>目標に達していない</td> <td>多くの助言、他学生の支援を得ても作業療法支援の説明はできなかった。</td> </tr> </table> <p>3. 地域リハビリテーションにおける訪問作業療法の位置づけを説明できる。</p> <table border="0"> <tr> <td>特に優れている</td> <td>地域リハビリテーションにおける訪問作業療法の位置づけを、具体的な例をもって説明できる。</td> </tr> <tr> <td>優れている</td> <td>地域リハビリテーションにおける訪問作業療法の位置づけを、他職種との関係を含めて説明できる。</td> </tr> <tr> <td>良好である</td> <td>地域リハビリテーションにおける訪問作業療法の位置づけの概略を説明できる。</td> </tr> <tr> <td>最低限の到達</td> <td>地域リハビリテーションと訪問作業療法の関係は説明できる。</td> </tr> <tr> <td>目標に達していない</td> <td>地域リハビリテーションと訪問作業療法の関係が理解できていない。</td> </tr> </table> <p>4. 訪問リハビリテーションの中の作業療法士の関りを説明できる。</p> <table border="0"> <tr> <td>特に優れている</td> <td>訪問リハビリテーションの中の作業療法士の関りを、長期的な展望を示しながら説明できる。</td> </tr> <tr> <td>優れている</td> <td>訪問リハビリテーションの中の作業療法士の関りを、具体例を示しながら説明できる。</td> </tr> <tr> <td>良好である</td> <td>訪問リハビリテーションの中の作業療法士の関りを、一通り説明できる。</td> </tr> <tr> <td>最低限の到達</td> <td>訪問リハビリテーションの中の作業療法士の関りの概略を説明できる。</td> </tr> <tr> <td>目標に達していない</td> <td>訪問リハビリテーションの中の作業療法士の関りを理解できない。</td> </tr> </table>					特に優れている	自らの明確な目的をもって、他学生をサポートしながら課題を遂行した。	優れている	最小の助言は必要とするが、自らの目的を明確にし課題を遂行した。	良好である	助言は必要とするが、他学生と目的を共有し課題を遂行した。	最低限の到達	助言、他学生の支援を得ながら、課題を遂行することができた。	目標に達していない	多くの助言、他学生の支援を得ても課題を遂行できなかった。	特に優れている	自らの明確な目的をもって、他学生をサポートしながら具体的な作業療法支援を説明できた。	優れている	最小の助言は必要とするが、他学生と目的を共有し具体的な作業療法支援を説明できた。	良好である	助言は必要とするが、他学生と協調し具体的な作業療法支援を説明できた。	最低限の到達	助言、他学生の支援を得ながら、作業療法支援の概略を説明できた。	目標に達していない	多くの助言、他学生の支援を得ても作業療法支援の説明はできなかった。	特に優れている	地域リハビリテーションにおける訪問作業療法の位置づけを、具体的な例をもって説明できる。	優れている	地域リハビリテーションにおける訪問作業療法の位置づけを、他職種との関係を含めて説明できる。	良好である	地域リハビリテーションにおける訪問作業療法の位置づけの概略を説明できる。	最低限の到達	地域リハビリテーションと訪問作業療法の関係は説明できる。	目標に達していない	地域リハビリテーションと訪問作業療法の関係が理解できていない。	特に優れている	訪問リハビリテーションの中の作業療法士の関りを、長期的な展望を示しながら説明できる。	優れている	訪問リハビリテーションの中の作業療法士の関りを、具体例を示しながら説明できる。	良好である	訪問リハビリテーションの中の作業療法士の関りを、一通り説明できる。	最低限の到達	訪問リハビリテーションの中の作業療法士の関りの概略を説明できる。	目標に達していない	訪問リハビリテーションの中の作業療法士の関りを理解できない。
特に優れている	自らの明確な目的をもって、他学生をサポートしながら課題を遂行した。																																												
優れている	最小の助言は必要とするが、自らの目的を明確にし課題を遂行した。																																												
良好である	助言は必要とするが、他学生と目的を共有し課題を遂行した。																																												
最低限の到達	助言、他学生の支援を得ながら、課題を遂行することができた。																																												
目標に達していない	多くの助言、他学生の支援を得ても課題を遂行できなかった。																																												
特に優れている	自らの明確な目的をもって、他学生をサポートしながら具体的な作業療法支援を説明できた。																																												
優れている	最小の助言は必要とするが、他学生と目的を共有し具体的な作業療法支援を説明できた。																																												
良好である	助言は必要とするが、他学生と協調し具体的な作業療法支援を説明できた。																																												
最低限の到達	助言、他学生の支援を得ながら、作業療法支援の概略を説明できた。																																												
目標に達していない	多くの助言、他学生の支援を得ても作業療法支援の説明はできなかった。																																												
特に優れている	地域リハビリテーションにおける訪問作業療法の位置づけを、具体的な例をもって説明できる。																																												
優れている	地域リハビリテーションにおける訪問作業療法の位置づけを、他職種との関係を含めて説明できる。																																												
良好である	地域リハビリテーションにおける訪問作業療法の位置づけの概略を説明できる。																																												
最低限の到達	地域リハビリテーションと訪問作業療法の関係は説明できる。																																												
目標に達していない	地域リハビリテーションと訪問作業療法の関係が理解できていない。																																												
特に優れている	訪問リハビリテーションの中の作業療法士の関りを、長期的な展望を示しながら説明できる。																																												
優れている	訪問リハビリテーションの中の作業療法士の関りを、具体例を示しながら説明できる。																																												
良好である	訪問リハビリテーションの中の作業療法士の関りを、一通り説明できる。																																												
最低限の到達	訪問リハビリテーションの中の作業療法士の関りの概略を説明できる。																																												
目標に達していない	訪問リハビリテーションの中の作業療法士の関りを理解できない。																																												

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	地域環境調査 3年次の地域作業療法学Ⅰで学修した地域作業療法評価を、学外で展開する。その結果から解決すべき点を抽出し、具体的な解決策を提示する。 障がい者（視覚障がい者、身体障がい者）の視点で地域社会の	グループワーク1 企画 障がい者（視覚障がい者、身体障がい者）を設定し、調査項目を決める。 具体的な調査内容を討論する。	グループワーク	決定事項を資料にして、まとめておく。	鈴木由美

	環境を調査する。 調査目的・調査項目・調査方法などグループで企画して調査に臨む。				
2	地域環境調査（1回目 続き）	グループワーク 2 企画・調査 企画に沿った調査を開始する。	グループワーク	調査内容を資料としてまとめておく。	鈴木由美
3	地域環境調査（1、2 回目 続き）	グループワーク 3 調査・整理 調査内容の整理と討議	グループワーク	調査した内容を討議・整理する。 プレゼンテーション資料の作成	鈴木由美
4	プレゼンテーション 準備	調査内容が企画段階の目的に 適合しているか等、討議する。	グループワーク		鈴木由美
5	中間発表	プレゼンテーション 調査内容 の途中経過を発表する	プレゼンテーション	調査内容の振り返り 修正等	鈴木由美
6	資料見直し・再調査 等	プレゼンテーションに対する フィードバックをもとに、再度、 企画・調査の見直しを行う。	グループワーク	再調査等の整理と統合	鈴木由美
7	プレゼンテーション 資料作成 プレゼンテーション 準備	最終発表に向けた準備を行う。	グループ学習	プレゼンテーション準備	鈴木由美
8	最終発表	調査結果および解決策を発表 する	プレゼンテーション		鈴木由美
9	訪問リハビリテーション の実際	訪問リハビリテーションの位置 づけ 訪問リハビリテーションの概 略	講義	授業内容を整理しておくこと。	鈴木由美
10	訪問リハビリテーション で用いる評価と 支援	身体障がい者に対する訪問リ ハビリテーションの評価と支 援	講義		非常勤講師 川田智尋 鈴木由美
11	訪問リハビリテーション の事例紹介	講師が実際に関わった多数の 事例を紹介し、具体的な支援 法を紹介する。	講義	講義内容を資料とともに見返 し復習する。	非常勤講師 川田智尋 鈴木由美
12	精神科領域の訪問リ ハビリテーションの 実際	精神科領域の訪問リハビリテ ーションの評価やアプローチ の紹介	講義・演習		スポット 中村泰輔 非常勤講師 川田智尋 鈴木由美
13	精神科領域の訪問リ ハビリテーションの 実際	精神科領域の訪問リハビリテ ーションの評価やアプローチ の紹介	講義・演習		スポット 中村泰輔 非常勤講師 川田智尋 鈴木由美
14	訪問リハビリテーション と他職種連携	地域リハビリテーションにお けるケアマネジャーの役割	講義		スポット 山岸広明 非常勤講師 川田智尋 鈴木由美
15	訪問リハビリテーション と他職種連携	ケアマネジャーの視点からの 地域作業療法	講義・演習	講義内容を資料等で見返して 復習すること。	スポット 山岸広明・中村 泰輔 非常勤講師 川田智尋 鈴木由美

日付

6.4.10 (水) 3・4・5
6.4.12 (金) 2~5
6.4.15 (月) 3・4・5
6.4.16 (火) 2・3・4
6.4.17 (水) 3・4

教科書	必要時指定する。
参考書	

ディプロマ・ポリシーとの関連	作業2
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	鈴木由美：研究室30 yusuzuki@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	福祉用具・住環境整備学	科目英語表記	Welfare equipment and living environment maintenance		
職名、担当教員氏名	准教授 鈴木 由美 准教授 森 直樹				
科目責任者氏名	鈴木 由美				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	2単位
授業概要	福祉用具導入の適応と評価、および住環境整備の方法とその効果について教授する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ICFにおける福祉用具と住環境整備の位置付けを説明できる。 片麻痺や四肢麻痺、骨・関節障害等の代表的な障がいに対する福祉用具や住環境整備について説明できる。 ADLの活動項目ごとに適用される福祉用具や住環境整備について説明できる。 福祉用具導入や住環境整備の根拠となるシステムについて説明できる。また、導入の際の他職種との連携について説明できる。 				
成績評価方法	プレゼンテーション	60%	到達目標	1、2、3、4	
	プレゼンテーション資料	40%	到達目標	1、2、3、4	
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> ICFにおける福祉用具と住環境整備の位置付けを説明できる。 <ul style="list-style-type: none"> 特に優れている ICFにおける福祉用具と住環境整備の位置付けを、ICFそれぞれの項目について説明できる。 優れている ICFにおける福祉用具と住環境整備の位置付けを、具体例を用いて明確に説明できる。 良好である ICFにおける福祉用具と住環境整備の位置付けを明確に説明できる。 最低限の到達 ICFの中で福祉用具と住環境整備の位置付けの大枠を説明できる。 目標に達していない ICFと福祉用具と住環境整備の関係を理解していない（説明できない）。 片麻痺や四肢麻痺、骨・関節障害等の代表的な障がいに対する福祉用具や住環境整備について説明できる。 <ul style="list-style-type: none"> 特に優れている 各疾患とその代表的な障がいに対する一連の福祉用具や住環境整備について、疾患・病期ごとの適応を含めて説明できる。 優れている 各疾患とその代表的な障がいに対する一連の福祉用具や住環境整備について、疾患ごとに説明できる。 良好である 各疾患とその代表的な障がいに対する一連の福祉用具や住環境整備について説明できる。 最低限の到達 テキスト等を用いながら各疾患とその代表的な障がいに対する一連の福祉用具や住環境整備について説明できる。 目標に達していない テキストおよび助言等を用いても各疾患とその代表的な障がいに対する一連の福祉用具や住環境整備について説明できできない。 ADL・APDLの活動項目ごとに適用される福祉用具や住環境整備について説明できる。 <ul style="list-style-type: none"> 特に優れている ADL・APDLの活動項目ごとに適用される福祉用具や住環境整備について、複数の例を用いて利点・欠点を含めて説明できる。 優れている ADL・APDLの活動項目ごとに適用される福祉用具や住環境整備について、複数の例を用いて説明できる。 良好である ADL・APDLの活動項目ごとに適用される福祉用具や住環境整備について、一通り説明できる。 最低限の到達 テキスト等を用いてADL・APDLの活動項目ごとに適用される福祉用具や住環境整備について説明できる。 目標に達していない テキストおよび助言等を用いてもADL・APDLの活動項目ごとに適用される福祉用具や住環境整備について説明できない。 福祉用具導入や住環境整備の根拠となるシステムおよび、導入の際の他職種との連携について説明できる。 <ul style="list-style-type: none"> 特に優れている 福祉用具導入や住環境整備の根拠となるシステムおよび、導入の際の他職種との連携について疾患、障がい別に説明できる。 優れている 福祉用具導入や住環境整備の根拠となるシステムおよび、導入の際の他職種との連携について例をあげて説明できる。 良好である 福祉用具導入や住環境整備の根拠となるシステムおよび、導入の際の他職種との連携について一通り説明できる。 最低限の到達 福祉用具導入や住環境整備の根拠となるシステムおよび、導入の際の他職種との連携についてテキスト等を用いながらも説明できる。 目標に達していない 福祉用具導入や住環境整備の根拠となるシステムおよび、導入の際の他職種との連携についてテキストおよび助言を用いても説明できない。 				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員

1	総論（リハビリテーション、ICFと福祉用具・住環境整備との関連、定義・歴史）	福祉用具の定義およびICFとの関連と、リハビリテーションと福祉用具位置づけを学習する	講義	講義資料を見直し復習すること。	鈴木由美
2	起居動作、移動・移乗動作に関連する福祉用具	ベーシックな起居動作、移動・移乗動作に関連する福祉用具を学習する。	講義	講義資料を見直し復習すること。	鈴木由美
3	セルフケアとコミュニケーション障がいに対応する福祉用具	セルフケア（入浴、更衣、整容、排泄、食事）における福祉用具の種類と適応を調査する 視線入力装置・重度障がい者用意思伝達装置を体験する。	グループワーク	調査した内容をプレゼンテーション資料としてまとめておく。	鈴木由美
4	セルフケア（入浴、更衣、整容、排泄、食事）における福祉用具の種類と適応 コミュニケーションに特化した福祉用具（視線入力装置・重度障がい者用意思伝達装置の体験・演習）	第3回セルフケア（入浴、更衣、整容、排泄、食事）における福祉用具の種類と適応のプレゼンテーションを行う。	プレゼンテーション	他グループの資料をしっかりと見返すこと。	鈴木由美
5	福祉用具適応疾患	福祉用具を多く必要とする疾患とその適応を学習する。	講義	教科書 p58～144を熟読すること。	鈴木由美
6	福祉用具の作成	食食用自助具を作成する	講義・演習		鈴木由美
7	福祉用具の作成（第6回の続き）	食食用自助具を作成する	演習	自助具作成手順等を整理しておくこと。	鈴木由美
8	福祉用具と住環境整備	基本的な住環境整備の概略を学習する	講義		鈴木由美
9	福祉用具と住環境整備 演習	模擬事例を用いて住環境整備を検討する	グループワーク	プレゼンテーション資料作成・提出	鈴木由美
10	福祉用具と住環境整備 演習	第9回で検討した内容を発表する	プレゼンテーション	プレゼンテーション資料提出	鈴木由美
11	障害観、生活モデル、ICT支援の導入と適応、評価、支援①	障害観、生活モデルについて学習する	集中講義(講義・演習)	外部講師からのスライド資料についてしっかり復習すること	坂井聡（スポット） 森直樹
12	障害観、生活モデル、ICT支援の導入と適応、評価、支援②	小児期～高齢期における様々なICT支援の導入と適応、評価、支援について学習する	集中講義(講義・演習)	外部講師からのスライド資料についてしっかり復習すること	坂井聡（スポット） 森直樹
13	障害観、生活モデル、ICT支援の導入と適応、評価、支援③	小児期～高齢期における様々なICT支援の導入と適応、評価、支援について学習する	集中講義(講義・演習)	外部講師からのスライド資料についてしっかり復習すること	坂井聡（スポット） 森直樹
14	車椅子・座位保持装置の基礎知識、評価、支援①	小児期～高齢者における車いす、座位保持装置の導入、支援の実際について学習する	集中講義(講義・演習)	外部講師からのスライド資料についてしっかり復習すること	菅原史生（スポット） 森直樹
15	車椅子・座位保持装置の基礎知識、評価、支援②	小児期～高齢者における車いす、座位保持装置の導入、支援の実際について学習する	集中講義(講義・演習)	外部講師からのスライド資料についてしっかり復習すること	菅原史生（スポット） 森直樹
日付					

教科書	日常生活活動学と同じ教科書を使用する ADLとその周辺－評価・指導・介護の実際－ 第3版 医学書院
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業3
先修条件指定	非該当

科目	
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	鈴木：研究室30 yusuzuki@yachts.ac.jp 森：研究室34 nmori@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	職業関連活動学		科目英語表記	Occupation-related activities		
職名、担当教員氏名	講師 佐々木 学					
科目責任者氏名	佐々木 学					
学内連絡教員氏名						
学科／分野	作業療法学科	学年	4年			
科目区分	専門	必修・選択の別	選択			
授業形態	講義／実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	1単位	
授業概要	<p>健常者や障害者などの対象者に対して就労支援や復職支援を行う場合に必要となる各種法制度や支援組織、学術団体などの動向や、臨床での対応事例などについて紹介する。</p> <p>授業後半では、施設見学などを行い、健常者や障害者に対する就労支援が幅広く行われていることを確認する。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国における一般就労や障害者就労に関連した法制度について対象者や家族に説明できる ・身体障害者・精神障害者・発達障害者・高次脳機能障害等などの支援の相違を理解できる ・各種の就労支援施設を見学し、対象者に施設利用を考慮した介入アプローチを考察できる 					
成績評価方法	レポート課題「あなたが総合実習での担当症例に対し、就労支援するとしたらどのような介入が可能があるかを考察しなさい」により判断する。					
成績評価基準	<p>A: 100-90 秀でた独創的知見が述べられている</p> <p>B: 80-89 大学生として発展的な意見が述べられている</p> <p>C: 70-79 臨床で必要な知識の習得や応用ができると総合的に判断される</p> <p>D: 60-69 講義内容をおおまかには理解している</p> <p>E: 59以下 臨床家を志す学生として不十分であると思われる</p>					

授業計画						
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員	
1	法制度(労働法、総合福祉法、職業分類)等	諸外国での労働法の成立、日本での労働法の位置づけ、一般人が就労した場合にどのような控除がなされるかについて概説する	講義	配布資料を復習するとよい	佐々木	
2	働き方改革の推進などを通じた労働環境の整備など	厚生労働白書から「働き方改革の推進などを通じた労働環境の整備など」について概説する	講義	厚生労働労働省ホームページから「構成労働白書」を検索し、予習・復習するとよい	佐々木	
3	各種疾患・障害での就労を幅広い視点で考える	多様な疾患・障害において、多義的な就労の在り方を考察する	講義	Web, Youtubeなどで、「障害者」「就労」などの検索語で検索するとよい	佐々木	
4	各種疾患の就労支援	就労支援を行う各種の資格とその内容について理解し、作業療法士との相違点を理解する。	講義 資料としては、独立行政法人高齢・障害・求職者支援機構が実施している相談員講習会テキストを参照する	Webで、独立行政法人高齢・障害・求職者支援機構が実施している相談員講習会テキストを検索するとよい	佐々木	
5	高齢者の支援	高齢者雇用の現状について理解する	講義		佐々木	
6	ハローワーク山形専門援助部門について	ハローワーク山形専門援助部門の機能を理解する	施設見学	Webで施設について調べておくとよい	佐々木	
7	ポリテクセンター山形について	ポリテクセンター山形の機能について理解する	施設見学	Webで事前に調べておくとよい	佐々木	
8	障害者職業センターについて	障害者職業センターのきのうについて理解する	施設見学または講義	Webで事前に調べておくとよい	佐々木	
日付						

教科書	特になし
参考書	特になし
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業2
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	佐々木 学 : 研究室19 msasaki@yachts.ac.jp
備考	特になし

授業科目	作業療法研究法	科目英語表記	Research Method in OT		
職名、担当教員氏名	教授 藤井 浩美				
科目責任者氏名	藤井 浩美				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	作業療法(Occupational Therapy: OT)に関して生じた疑問に対し、解決するための考え方と方法論を学ぶ				
到達目標	OT研究を展開する上で必要な考え方と方法論を説明できる。				
成績評価方法	4回のレポートで評価します。レポートは、理解度で判断します。骨格筋レポート提出は、下記の通りです。講義開始までに提出することを必須条件とします。提出期限を過ぎた場合は、0点となります。レポートは、講義内容の理解度で判断します。基準は、理解度に応じてA、B、C、Dを合格としF(59点以下)を不合格とします。 到達目標に達したか否かの判定は、4回のレポートの各々が60%以上とします。				
成績評価基準	特に優れている：根拠を踏まえて、OT研究を展開する上で必要な考え方と方法論について、理論的に説明できる。 優れている：根拠を踏まえて、OT研究を展開する上で必要な考え方と方法論について、説明できる。 良好である：根拠を踏まえて、OT研究を展開する上で必要な考え方と方法論について、ある程度説明できる。 最低限の到達：根拠は乏しいが、OT研究を展開する上で必要な考え方と方法論について、ある程度説明できる。 目標に達していない：OT研究を展開する上で必要な考え方と方法論について、説明できない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	研究のすすめ方1	作業療法研究とは何か、具体的な研究手続きが説明できる。	講義		藤井
2	研究論文と学会発表	研究成果の公表の意義と方法が理解できる。	講義	課題	藤井
3	研究結果の評価と統計1	研究結果の信頼性を高めるための考え方が説明できる。	講義		藤井
4	研究結果の評価と統計2	統計学的仮説検定と統計学的推定が理解できる。	講義と演習	課題	藤井
5	数量的捉え方	如何に研究で用いるかが説明できる。	講義		スポット
6	研究のすすめ方2	仮説検証の正否を過去の研究から理解する。	講義	課題	スポット
7	具体的研究例1	作業療法関連領域の研究が理解できる	講義		スポット
8	具体的研究例2	作業療法関連領域の研究が理解できる。	講義	課題	藤井
日付					
6.4.18(木)4 6.4.25(木)4 6.5.2(木)4 6.5.9(木)4 6.5.16(木)4 6.5.23(木)4 6.5.30(木)4 6.6.6(木)4					

教科書	
参考書	渡部欣忍 著「あなたのプレゼン誰も聞いてませんよ！」(南江堂)2014. 市原清志：バイオサイエンスの統計学、南江堂、東京、1993.

	鎌倉矩子、他：作業療法研究法入門.三輪書店.東京,1997. 金子翼、他：P T ・ O T のための統計学入門. 三輪書店. 2000.
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業3
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	藤井浩美：研究室27 hfujii@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	卒業研究	科目英語表記	OT Research		
職名、担当教員氏名	教授 佐藤 寿晃 教授 藤井 浩美 教授 菊池 昭夫 教授 仁藤 充洋 教授 外川 佑 准教授 森 直樹 准教授 千葉 登 准教授 鈴木 由美 講師 佐々木 学 講師 川勝 祐貴 助教 高畑 未樹				
科目責任者氏名	佐々木 学				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学科	学年	4年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習／実習若しくは実技	開講時期	通年	単位数	2単位
授業概要	臨床では大学で習得したことや、所属している医療機関や福祉施設での通常業務を繰り返していればよいのではなく、対象者への最大のサービスを提供すべく、日々の研鑽が重要である。過去の知識や技術では解決が困難な問題にも直面する。こうした場合、決して諦めることなく、問題解決しようとする態度やどのように問題解決すべきかについての科学的態度と一連の過程を通じて、臨床家に必要な技能を向上させることが本授業の目的である。学生が臨床実習や授業で考えたこと、テレビやインターネットで取り上げられた社会的問題などから研究テーマを絞ってゆくなど、自分が解決すべき問題を明らかにする過程も重要である。問題についてどのような視点で取り組むか、どのような行動を起こすべきなのか、その結果はどのように活用されるべきなのかを考えなければならない。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・指導教員の指導のもと、研究活動を行い、その一連の流れを理解すること ・指導教員より定期的指導を受け、指導教員から教育的指導を受けること ・指導教員が企画するゼミに参加し、他の学生の研究を通じて、幅広い研究の重要性を理解すること ・作業療法卒業研究発表会で発表すること ・作業療法卒業研究論文集に投稿すること ・著作権や倫理的側面について理解すること 				
成績評価方法	指導教員と指導外教員が以下の評価を行う 指導教員の評価 1.研究態度(研究日誌、他者との協調、期限厳守、全般的態度) 2.研究領域の調査 (文献検索など) 3.倫理 (倫理審査、協力者への配慮、全般的な倫理観) 4.研究計画 (1年間の時間管理、計画性) 5.遂行能力 (実験・調査などの遂行) 6.論文執筆 (理論性、論文・資料作成能力) 7.プレゼン資料作成 (理論性、論文・資料作成能力) 8.発表と質疑応答 指導外教員2名の評価 9.発表と質疑応答				
成績評価基準	A 90-100 指導教員が最小限の指導を与えれば、自主的に遂行することができ、発展的に行動できる B 80-89 指導教員の指示を、十分に遂行することができる C 70-79 (平均的レベル)指導教員の指示の元、なんとか遂行することができる D 60-79 指導教員が指導を与えても、理解遂行困難な場合や、完了することができないことが散見される E 59以下 指導教員が指導を与えても、理解遂行困難であり、実行も著しく低い				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
卒業研究	授業としては、小グループのゼミ形式で各指導教員のもとで行われる。研究内容によっては、個別指導となる。研究領域について先	指導教員の決定方法は毎年異なる。決定方法は、ガイダンス時に指定する。自分の研究テーマをよく考え、複数の教員と相談してから決定すること。研究テーマの決定は、学生自	指導教員が直接指導を行う	自分の問題を具体化することには非常に努力を要することであり、学際的な知識が必要であり、教員のアドバイスをうけるとよいだろう。専門領域ではなく、さまざまな領域の文献を読み、見聞	教員1名が、学生数名を担当する

<p>行研究を調査し、論文を読みすすめ、近接領域の動向を知ることが重要である。研究で用いられる手法には、実験、社会的調査、心理学的研究、症例研究、実践報告など多岐にわたり、これを限定するものではない。年末には、ポスター発表または口演による作業療法卒業研究発表会が開催される。発表会后、質疑応答や指導内容を踏まえて作業療法卒業研究論文集に投稿しなければならない。</p>	<p>身の就職先をも考慮し、教員と相談して決定することも必要であろう。</p>		<p>を広めなければならない。必要な学習について指導教員と十分に相談してほしい。</p>	
<p>日付</p>				

教科書	特になし
参考書	特になし
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業3
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	佐々木 学 : 研究室19 msasaki@yachts.ac.jp
備考	詳細は4月のガイダンス時に配布される卒業研究マニュアルに記載されている。

授業科目	見学実習特論	科目英語表記	Fieldwork(CLINICAL EARLY EXPOSURE) Seminar		
職名、担当教員氏名	教授 佐藤 寿晃 教授 藤井 浩美 教授 仁藤 充洋 教授 外川 祐 准教授 森 直樹 准教授 千葉 登 准教授 鈴木 由美 講師 佐々木 学 講師 川勝 祐貴 助教 高畑 未樹				
科目責任者氏名	森 直樹				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	見学実習特論は、見学実習を履修予定の全学生が対象となる。作業療法の臨床実習に必要な知識と技術をグループ学習にて習得する。また、見学実習後に個人の実習内容を振り返るとともに、学内における事前教育および実習施設に対する評価も含めて反省し、見学実習全体を総括する				
到達目標	<見学実習前> 1) 職業人としての身だしなみ、態度、情報管理等について確認し準備ができる 2) 当該実習地について必要な知識・能力等について見学実習シートを用いて確認し準備ができる 3) 講義、グループワーク等を通して臨床推論の知識を深め、考え方について述べる事ができる <見学実習後> 4) 見学実習終了後、グループ報告会で発表することができる。 5) 見学実習終了後、教員等との指導において見学実習シートを用いて振り返りができ、今後の自己改善目標を考えることができる 6) 事例の観察、面接、検査・測定、作業分析などを通して臨床推論の一部を経験し、自身の思考過程への気付きや理解を深めることができる				
成績評価方法	見学実習前特論（50%）、見学実習後特論（50%）等から、教員が内容を精査し、総合的判断から以下のA-DおよびFで評価する。 A 100-90点、到達目標に十分達成しており、特に優れている B 89-80点、到達目標に十分達成している C 79-70点、到達目標に概ね達成している D 69-60点、到達目標に達しているが、努力が必要である F 59点以下、到達目標に達しておらず、一層努力が必要である				
成績評価基準	見学実習前後の：事前・事後学習（グループワーク、グループ内発表会）、見学実習チェックシート等から総合的に評価します。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	<見学実習前> 見学実習オリエンテーション①	見学実習特論の概要、臨床実習の手引、臨床実習指導報告書関連書類の説明	講義	当該実習についての事前学習（施設情報の収集や過去の実習レポート、ノートの記載方法の確認、閲覧等）を行う。	森
2	<見学実習前> 臨床推論総論	臨床推論の基礎、考え方について	講義	・配布資料について予習、復習を行うこと ・当該実習地の事前学習（施設情報の機能、役割、実習ノートの確認、閲覧等）を行うこと。	森

3	<見学実習前> 臨床推論各論①	当該実習領域の臨床推論の知識を深める。実習領域毎に視聴覚教材等を用いて模擬事例のメタ分析を行い、自身の思考過程への気付きや理解を深める	グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・見学実習にあたりグループワークを行い担当教員より指導（自己紹介用紙も含む）や講義を受ける。 ・当該実習地の事前学習（施設情報の機能、役割、実習ノートの確認、閲覧等）を行うこと。 ・見学実習にあたり担当教員より指導（自己紹介用紙も含む）や講義を受けること。 	担当教員全員
4	<見学実習前> 臨床推論各論②	当該実習領域の臨床推論の知識を深める。実習領域毎に視聴覚教材等を用いて模擬事例のメタ分析を行い、自身の思考過程への気付きや理解を深める	グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・見学実習にあたりグループワークを行い担当教員より指導（自己紹介用紙も含む）や講義を受ける。 ・当該実習地の事前学習（施設情報の機能、役割、実習ノートの確認、閲覧等）を行うこと。 ・見学実習にあたり担当教員より指導（自己紹介用紙も含む）や講義を受けること。 	担当教員全員
5	<見学実習前> オリエンテーション②	見学実習チェックシート、見学実習報告書のまとめ方、臨床実習経験表、感染対策について説明する	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料について予習、復習を行うこと ・当該実習地の事前学習（施設情報の機能、役割、実習ノートの確認、閲覧等）を行うこと。 	森
6	<見学実習後> オリエンテーション③	見学実習成果報告の進め方、グループ討論について実習の達成度について見学実習シートを用いて確認する。	講義	グループ内討論用の資料（パワーポイント）を準備する	森
7	<見学実習後> 見学実習成果報告会①	見学実習シート、見学実習報告書を用いてグループ間で報告しディスカッションする	見学実習シート、見学実習報告書を用いてグループ間で報告しディスカッションを行う	見学実習シート、見学実習報告のための資料（パワーポイント）作成	担当教員全員
8	<見学実習後> 見学実習成果報告会②	見学実習シート、見学実習報告書を用いてグループ間で報告しディスカッションを行う	見学実習シート、見学実習報告書を用いてグループ間で報告しディスカッションを行う	見学実習チェックシート、見学実習報告のための資料（パワーポイント）作成	担当教員全員

日付

6.12.10 (火) 2・3
6.12.11 (水) ～ 7.1.20 (月) (のうち2コマ)
7.1.21 (火) 3
7.2.18 (火) 2
7.2.19 (火) 3・4

教科書	なし
参考書	なし
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業1
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内	

容	
教員の連絡先	実習施設毎の相談、連絡は訪問担当教員が担当する。 本科目全般については科目責任者が担当する。 森直樹：研究室34 nmori@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	総合実習Ⅰ特論	科目英語表記	Fieldwork Seminar I		
職名、担当教員氏名	教授 佐藤 寿晃 教授 藤井 浩美 教授 仁藤 充洋 教授 外川 佑 准教授 森 直樹 准教授 千葉 登 准教授 鈴木 由美 講師 佐々木 学 講師 川勝 祐貴 助教 高畑 未樹				
科目責任者氏名	佐々木 学				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	総合実習Ⅰ特論は、必修科目「総合実習Ⅰ」の前後で実施されるものであり、学生が総合実習へ円滑に適応できるように指導するものである。実習地の特徴や必要とされる技能の確認、総合実習Ⅱに必要な能力確認や、実習後の能力確認が行われる。				
到達目標	(総合実習Ⅰ前) 実習地の基本理念、特性を述べるができる 実習地での主な疾患と治療理論の概要を述べるができる 実習地で必要な能力を確認し、自己改善目標を考えることができる 前年度実習生が経験した反省点をもとに、自分の行動の一助とすることができる (総合実習Ⅰ後) 臨床実習報告会で発表することができる 実習終了での能力を確認し、次の目標を考えることができる 反省会や個別面接を通じて教員からアドバイスを受け、次期実習への自己改善目標を考えることができる				
成績評価方法	臨床的スキル評価、発表会成績、個別指導などから判定を行う				
成績評価基準	A 100-90点、十分な達成であると認められる B 89-80点、達成した項目が2/3程度である C 79-70点、達成した項目が1/3程度である D 69-60点、達成した項目が1項目程度である E 59点以下、実習到達度や安全を配慮した行動が著しく劣り、次実習への取り組みが著しく困難				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	オリエンテーション1回目	総合実習の構成、総合実習の目的、方法などを説明する	講義	「臨床実習の手引き」を参照する	佐々木 学
2	オリエンテーション2回目	オリエンテーション1回目に続いた内容を説明する	講義	「実習の手引き」を参照する	佐々木 学
3	臨床的スキル評価1回目	臨床的スキル評価を行う	実技	実技テストの領域はオリエンテーション時に説明するので、予習・復習する	科目担当者全員が担当する
4	領域別・実習地毎の学習会	領域別・実習地毎に施設特性・疾患・治療などについて重点的な学習を実施する。	実習	実習地についてはホームページなども参照する 実習地は複数の施設から成り立っている場合もあるので、それらについても参照する 解剖学的・生理学的基盤から病態、リハビリテーションに至るまで対象疾患に関する項目を復習する	科目担当者全員が担当する

5	実習後オリエンテーション	提出物(実習成績、出席、通所・訪問リハ出席、自己紹介用紙など)の回収をいながら、退出物に関する実習概況についての簡単な確認を行う 発表会、資料作成についての説明を行う	講義など	終了後、パワーポイントにて、発表会資料作成を行う 資料作成は、情報処理室のA3白黒レーザープリンターで出力する。	佐々木 学
6	発表会1	発表会に参加、事例発表を行うとともに、他者の発表を聴講する	発表会に参加する		科目担当者
7	発表会2	発表会に参加、事例発表を行うとともに、他者の発表を聴講する	発表会に参加する		科目担当者
8	発表会3、および反省会・個別指導	訪問教員から個別指導を受ける	資料(日誌氏、レポート、成績など)を持参して訪問教員と面談する 日程は、訪問教員と調整する(学生から連絡する) 訪問教員と成績などについて確認し、次の実習への準備を行う		訪問教員

日付

6.7. 8 (月) 1・2
6.8. 7 (水) 1~5
6.11.18 (月) 1
6.11.22 (金) 3・4

教科書	「臨床実習指導報告書」「実習の手引き」
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業2
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	実習施設毎の相談、連絡は訪問担当教員が担当する。 本科目全般については科目責任者が担当する。 佐々木 学 : 研究室19 msasaki@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	総合実習Ⅱ特論	科目英語表記	Fieldwork Seminar II		
職名、担当教員氏名	教授 佐藤 寿晃 教授 藤井 浩美 教授 仁藤 充洋 教授 外川 佑 准教授 森 直樹 准教授 千葉 登 准教授 鈴木 由美 講師 佐々木 学 講師 川勝 祐貴 助教 高畑 未樹				
科目責任者氏名	鈴木 由美				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	総合実習Ⅱ特論は、必修科目「総合実習Ⅰ」の前後で実施されるものであり、学生が総合実習へ円滑に適應できるように指導するものである。実習地の特徴や必要とされる技能の確認、総合実習Ⅱに必要な能力確認や、実習後の能力確認が行われる。				
到達目標	(総合実習Ⅱ前) 実習地の基本理念、特性を述べることができる 実習地での主な疾患と治療理論の概要を述べることができる 実習地で必要な能力を確認し、自己改善目標を考えることができる 総合実習Ⅰで経験した反省点をもとに、自分の行動の一助とすることができる (総合実習Ⅱ後) 臨床実習報告会で発表することができる 実習終了での能力を確認し、次の目標を考えることができる 反省会や個別面接を通じて教員からアドバイスを受け、次期実習への自己改善目標を考えることができる				
成績評価方法	1.臨床的技能試験 3.発表会(プレゼン能力のみ)、3.個別指導などを評定する				
成績評価基準	A 100-90点、十分な達成であると認められる B 89-80点、達成した項目が2/3程度である C 79-70点、達成した項目が1/3程度である D 69-60点、達成した項目が1項目程度である F 59点以下、実習到達度や安全を配慮した行動が著しく劣り、次実習への取り組みが著しく困難				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	(総合実習Ⅱ前) 実習前オリエンテーション	総合実習Ⅱの概要、実習に臨む心構え、守秘義務等について。	講義	「臨床実習の手引き」を参照にする。	鈴木由美
2	(総合実習Ⅱ前) 実習伝達会	総合実習Ⅰで学んだ内容を、各領域で伝達しあう。 総合実習Ⅱの実習先の情報を整理する。	グループ学習	「実習の手引き」を参考にする。	鈴木由美
3	(総合実習Ⅱ前) 臨床的技能評価(実習前学習)	実習領域ごとに必要な知識を整理し再確認をする。	実技	総合実習Ⅰ特論の臨床的技能試験を該当させる。	科目担当者全員が行う。
4	(総合実習Ⅱ後) 実習後オリエンテーション	提出物(実習成績、出席用紙、訪問リハ・通所リハ出席用紙、自己紹介用紙)、実習ノート、レポートの回収と確認。 発表会における資料作成の説明。	講義	発表会用のパワーポイント資料作成	鈴木由美
5	(総合実習Ⅱ後) 実習発表会準備	ポスター(または口述)にて、担当した事例について発表用の資料を作成する。	個別学習	発表会用のパワーポイント資料作成	鈴木由美

6	(総合実習Ⅱ後) 総合実習Ⅱ発表会 (1) ポスター発表 (場合によっては口 述発表)	発表会に参加し事例発表を行 う。また、他の学生の発表を 聴講する。	発表会・討議への参加		科目担当者
7	(総合実習Ⅱ後) 総合実習Ⅱ発表会 (2) ポスター発表 (場合によっては口 述発表)	発表会に参加し事例発表を行 う。また、他の学生の発表を 聴講する。	発表会・討議への参加		科目担当者
8	(総合実習Ⅱ後) (総合実習Ⅱ発表会 (3)) 個別指導(訪問担当 教員との面談)	訪問担当教員から個別指導を 受ける	資料(日誌・レポート、成績 など)を持参し、訪問担当教 員と面談する。 日程は学生から訪問担当教員 に連絡し調整する。		訪問担当教員
日付					

教科書	学科から配布される「臨床実習指導報告書」「実習の手引き」を読むこと。
参考書	
ディプロマ・ ポリシーとの 関連	作業2
先修条件指定 科目	非該当
先修条件指定 科目において あらかじめ修 得しておかな ければならな い科目	非該当
実務経験のあ る教員	
実務経験をい かした教育内 容	
教員の連絡先	学生個別には実習訪問教員が対応する。 科目についての意見・疑問点は担当者に問い合わせしてほしい。 科目責任者 鈴木由美：研究室30 yusuzuki@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	総合実習Ⅲ特論	科目英語表記	Fieldwork Seminar III		
職名、担当教員氏名	教授 佐藤 寿晃 教授 藤井 浩美 教授 仁藤 充洋 教授 外川 佑 准教授 森 直樹 准教授 千葉 登 准教授 鈴木 由美 講師 佐々木 学 講師 川勝 祐貴 助教 高畑 未樹				
科目責任者氏名	千葉 登				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学科	学年	4年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	演習	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	総合実習Ⅲ特論では、必修科目「総合実習Ⅲ」の前後で実施されるものであり、総合実習前には学生が円滑に実習に適応できるように指導とともに、必要とされる知識・技能の確認を行う。また、総合実習後は実習の成果の確認を行う。				
到達目標	到達目標1. 実習地での必要な知識・能力を確認し、自己改善目標を述べることができる。 到達目標2. グループワークで、総合実習Ⅰ・Ⅱでの事例を通じたディスカッションができる。 到達目標3. 総合実習報告会での確に分かりやすく説明し質疑に明確に自分の意見を述べるができる。 到達目標4. 実習終了後、実習の振り返りができ今後の自己改善目標について述べるができる。				
成績評価方法	・グループワークでのディスカッションの内容、取り組み態度等 20%：到達目標1、2を評価 ・事例報告会での発表、質疑 60%：到達目標3を評価 ・総合実習のまとめ 20%：到達目標4を評価				
成績評価基準	到達目標1-4 A 適切で十分な根拠をふまえて論理的に述べる（ディスカッションする）ことができる。 B 根拠をふまえて論理的に述べる（ディスカッションする）ことができる。 C 根拠を用いてある程度論理的に述べる（ディスカッションする）ことができる。 D 根拠は乏しいがある程度論理的に述べる（ディスカッションする）ことができる。 F 根拠に乏しく、論理的に説明できない、ディスカッションができない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	(総合実習Ⅲ前) 総合実習Ⅲ特論Ⅰエンターショングループワーク(1)	総合実習Ⅲ特論Ⅰエンターション(4月の4年次ガイダンスにて詳細に説明)及び事例①②の紹介	グループごとに総合実習Ⅰ又はⅡで担当した症例についてグループでディスカッションをし、相互に事例の理解を深める。 (グループ内で担当学生から事例の報告及び質疑、2事例分)	第1回目からグループ討論を行う。総合実習Ⅰ、Ⅱから事前に指定された事例についてグループ内討論用の資料(パワーポイントの印刷物)を準備する。	千葉
2	(総合実習Ⅲ前) グループワーク(2)	事例①②に対する評価・治療のディスカッション	グループごとに総合実習Ⅰ又はⅡで担当した症例についてグループでディスカッションをし、相互に事例の理解を深める。 (グループ内で担当学生から事例の報告及び質疑、2事例分)	総合実習Ⅰ、Ⅱから事前に指定された事例についてグループ内討論用の資料(パワーポイントの印刷物)を準備する。	千葉
3	(総合実習Ⅲ前) グループワーク(3)	事例③④の紹介	グループごとに総合実習Ⅰ又はⅡで担当した症例についてグループでディスカッション	総合実習Ⅰ、Ⅱから事前に指定された事例についてグループでディスカッション	千葉

			をし、相互に事例の理解を深める。 (グループ内で担当学生から事例の報告及び質疑、2事例分)	ブ内討論用の資料(パワーポイントの印刷物)を準備する。	
4	(総合実習Ⅲ前) グループワーク(4) 総合実習Ⅲ前オリエンテーション	事例③④に対する評価・治療のディスカッション	グループごとに総合実習Ⅰ又はⅡで担当した症例についてグループでディスカッションをし、相互に事例の理解を深める。 (グループ内で担当学生から事例の報告及び質疑、2事例分)	総合実習Ⅰ, Ⅱから事前に指定された事例についてグループ内討論用の資料(パワーポイントの印刷物)を準備する。	千葉
5	(総合実習Ⅲ後) 総合実習Ⅲ発表会(1)	自身が経験した事例を他者に説明し、質疑応答により理解を深める。	臨床実習で経験した事例について報告しディスカッションする。また、他事例について報告を聞き、ディスカッションする。	事例報告のための資料(パワーポイント)作成	担当教員全員
6	(総合実習Ⅲ後) 総合実習Ⅲ発表会(2)	自身が経験した事例を他者に説明し、質疑応答により理解を深める。	臨床実習で経験した事例について報告しディスカッションする。また、他事例について報告を聞き、ディスカッションする。	事例報告のための資料(パワーポイント)作成	担当教員全員
7	(総合実習Ⅲ後) 総合実習Ⅲ発表会(3) 個別指導(訪問担当教員との面談)	自身が経験した事例を他者に説明し、質疑応答により理解を深める。	臨床実習で経験した事例について報告しディスカッションする。また、他事例について報告を聞き、ディスカッションする。	事例報告のための資料(パワーポイント)作成	担当教員全員
8	総合実習Ⅰ-Ⅲのまとめ	自身の経験を他者(3年生)に分かりやすく伝え、総合実習全体を振り返る	4年生と3年生の8名程度(それぞれ4名ずつ)のグループで4年生の実習経験を伝え、3年生は質疑する。	伝達事項の資料等の作成	千葉

日付

6.4.10(水)2
6.4.15(月)2
6.4.19(金)2
6.4.22(月)2
6.7.3(水)3~5
第8回 後日連絡

教科書	なし
参考書	なし
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業3
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	学生個別には実習訪問担当が対応する。 科目についての意見・疑問点は担当者に問い合わせしてほしい。 科目担当者 千葉 登: 研究室22 nchiba@yachts.ac.jp

備考	<p>臨床実習指導者会議が開催され、学生との連絡会には履修学生は参加すること（日程は後日連絡）。</p> <p>総合実習Ⅲ終了後、翌月曜日10：30-12：00に指導報告書、事例レポートを提出すること。</p> <p>総合実習Ⅲ終了後、訪問担当教員との面談があります。</p>
----	--

授業科目	見学実習	科目英語表記	Fieldwork(CLINICAL EARLY EXPOSURE)		
職名、担当教員氏名	教授 佐藤 寿晃 教授 藤井 浩美 教授 仁藤 充洋 教授 外川 佑 准教授 森 直樹 准教授 千葉 登 准教授 鈴木 由美 講師 佐々木 学 講師 川勝 祐貴 助教 高畑 未樹				
科目責任者氏名	森 直樹				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	作業療法における専門基礎科目を概ね学習した段階で、作業療法の臨床実習施設の目的や役割、その中における作業療法士の役割や業務内容および対象者に行っている作業療法について学ぶ				
到達目標	1)職業人としての望ましい態度と行動をとることができる。 2)対象者・利用者や職員等と適切なコミュニケーションがとれる。 3)実習施設で観察・見学した対象者・利用者の作業療法を通して、作業療法の治療行為を理解できる。 4)臨床実習を通して臨床推論の一部を体験し理解を深めることができる 5)情報管理も含めた適切な記録、報告ができる。 6)施設、リハビリテーション部門、作業療法部門の機能・役割や管理・運営について理解できる。				
成績評価方法	(臨床実習中の学生へのフィードバック) ・毎日の中で、臨床実習指導者が実習生に対してフィードバックを行う。 ・臨床実習指導者が「臨床実習指導報告書」によって評価を行う。 ・最終評価後に実習指導者と実習生間で実習についての意見交換を行い、「臨床実習指導報告書」を大学に提出する。 (評価方法) ・臨床実習指導報告書(50%)および実習日誌等(50%)から、教員が内容を精査し、総合的判断から以下のA-DおよびFで評価する。 A 100-90点、到達目標に十分達成しており、特に優れている B 89-80点、到達目標に十分達成している C 79-70点、到達目標に概ね達成している D 69-60点、到達目標に達しているが、努力が必要である F 59点以下、到達目標に達しておらず、一層努力が必要である				
成績評価基準	臨床実習指導報告書(50%)、実習日誌等(50%)等から総合的に判断する。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
オリエンテーション	見学実習のオリエンテーションは見学実習特論にて実施	オリエンテーション	見学実習のオリエンテーションは見学実習特論にて実施 各臨床実習施設によって異なるので、各臨床実習指導者の指示に従うこと	各臨床実習施設によって異なるので、各臨床実習指導者の指示に従い学習を進めること	森
実習	実習期間 令和7年2月10日(月)～令和7年2月17日(月)	見学実習 病院、施設等における作業療法を見学・経験をする	県内の医療機関の協力のもと臨床実習が行われる。	・病院図書館の活用可否を実習地に確認すること。 ・実習中は実習指導者から指導を仰ぐことが望ましい。 ・実習訪問担当教員に相談する	・実習地では臨床実習指導者が指導を行う ・全教員(主に電話、必要に応じて訪問等)は、実習の進捗状況を確認し適宜アドバイスを行う
日付					
7.2.10(月) ～ 7.2.17(月)					

教科書	学科から配布される「臨床実習指導報告書」「実習の手引き」 教科書はこれまで使用した教科書、配布資料すべて
参考書	なし
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業1／作業2／作業3／作業4／作業5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	科目の担当教員と臨床実習講習会を受講した作業療法士が指導します。
実務経験をいかした教育内容	本科目は、実習指導者（実習施設に勤務する作業療法士）の指導の下、作業療法の臨床実習施設の目的や役割、その中における作業療法士の役割や業務内容および対象者に行っている作業療法について学ぶ科目です。
教員の連絡先	実習施設毎の相談、連絡については訪問担当教員が担当する 本科目全般については科目担当者が担当する 森直樹：研究室34 nmori@yachts.ac.jp
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・「臨床実習指導報告書」「実習の手引き」を精読すること ・実習地での指導や生活については、臨床実習指導者会議で指導者から指導を受けること。 ・学生は、臨床実習協力病院の厚意で成り立っていることを理解し、社会人として「わきまえた行動」をとらなければならない。

授業科目	総合実習 I	科目英語表記	Fieldwork I
職名、担当教員氏名	教授 佐藤 寿晃 教授 藤井 浩美 教授 仁藤 充洋 教授 外川 佑 准教授 森 直樹 准教授 千葉 登 准教授 鈴木 由美 講師 佐々木 学 講師 川勝 祐貴 助教 高畑 未樹		
科目責任者氏名	佐々木 学		
学内連絡教員氏名			
学科／分野	作業療法学科	学年	3年
科目区分	専門	必修・選択の別	必修
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	後期
		単位数	8単位
授業概要	本実習で学生が行う具体的内容は、対象者への初回面接から評価、治療介入方針、問題点抽出、ゴール設定、プログラム立案、実践を行う。実習領域としては、身体機能系、小児期、老年期、精神機能系、地域領域系などの領域から成り立ち、1名の学生は実習期間中にわたって1つの実習地で実習を行う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 作業療法実施計画を用いて症例の説明をうける 2) 対象者との面接・観察を通じて、またカルテ及び他部門から必要な情報を収集することができる。 3) 種々な対象者に対して基本的な検査・測定法を選択して、実施することができる。 4) 検査・測定結果を正しく記録し、そこから得られた情報を分析することができる。 5) 評価結果を整理・統合し、作業療法の実施に必要な対象者の問題点や能力をまとめることができる。 6) 臨床課程(リーズニング)について理解・実践すること 7) 学内で習得した知識・実技能力を実習で活用できる。 8) 対象者や他職員と適切な関係を結ぶことができ、医療従事者としての作業療法士の役割を理解できる。 9) 臨床での倫理的配慮や日本作業療法士協会倫理綱領について理解できる。 10) 対象者の病状に応じて対応できる(患者の体調不良時に介入を変更・中止する場面を経験・遂行)。 11) 管理業務の一部を見学し、その重要性を理解できる。 12) 臨床実習指導者の診療記録などを参照し、そのレベルに到達する努力を行うことができる 13) カンファレンス(部門内、病棟内など)を見学し、多職種連携について理解できる。 14) 施設見学を行い、施設の機能について理解できる。 		
成績評価方法	1.臨床実習指導報告書、2.実習日誌、3.症例日誌、4.症例報告書(作業療法実施計画)、などを以下の基準で総合的に判断する。		
成績評価基準	A 100-90点 対象者の安全への配慮(リスク管理)、対象者に必要な評価、リーズニング、実施計画書の作成、経過記録が十分にできている。 B 89-80点 達成した項目が2/3程度である。 C 79-70点 達成した項目が1/3程度である。 D 69-60点 達成した項目が1項目程度である。 F 59点以下 行動が著しく劣り、リスク管理等もできない。		

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
オリエンテーション	総合実習Iのオリエンテーションは総合実習I特論にて実施するのでそちらを参照	総合実習Iのオリエンテーションは総合実習I特論にて実施するのでそちらを参照	総合実習Iのオリエンテーションは総合実習I特論にて実施するのでそちらを参照	特になし	・実習地では、臨床実習指導者が指導を行う。 ・訪問教員は訪問や電話、ZOOMなどで実習経過の把握やアドバイスをを行う。
実習	実習期間 R6.9.24(月)～11.15(金)	初回面接、評価、介入方針、問題点抽出、プログラム立案、実施を体系的に学ぶ(詳細は手引きを参照)	県内外の医療機関等の協力のもと臨床実習が行われる	・実習中は実習指導者から指導を仰ぐことが望ましい。 ・病院図書館の活用可否を実習地に確認すること。 ・大学図書館も長期貸出を行うので確認すること。 ・訪問教員に相談する	
日付					

6.9.24 (火)
～
6.11.15 (金)

教科書	
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業1/作業2/作業3/作業4/作業5
先修条件指定科目	該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	科目の担当教員と臨床実習講習会を受講した作業療法士が指導します。
実務経験をいかした教育内容	本科目は、実習指導者（実習施設に勤務する作業療法士）の指導の下、臨床現場で担当事例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、治療プログラムを立案、実践を行う科目です。
教員の連絡先	1.実習施設毎の相談、連絡は訪問担当教員が担当する。 2.本科目全般については科目責任者が担当する。 佐々木 学：研究室19 msasaki@yachts.ac.jp
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・「臨床実習指導報告書」「実習の手引き」を精読すること。 ・実習施設での指導や生活については臨床実習指導者会議で指導者から指導を受けること。 ・臨床実習協力施設の厚意で成り立っていることを理解し、学生としてふさわしい行動をとらなければならない。

授業科目	総合実習 II	科目英語表記	Fieldwork II		
職名、担当教員氏名	教授 佐藤 寿晃 教授 藤井 浩美 教授 仁藤 充洋 教授 外川 佑 准教授 森 直樹 准教授 千葉 登 准教授 鈴木 由美 講師 佐々木 学 講師 川勝 祐貴 助教 高畑 未樹				
科目責任者氏名	鈴木 由美				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	8単位
授業概要	本実習で学生が行う具体的内容は、対象者への初回面接から評価、治療介入方針、問題点抽出、ゴール設定、プログラム立案、実践を行う。実習領域としては、身体機能系、小児期、老年期、精神機能系、地域領域系などの領域から成り立ち、1名の学生は総合実習Ⅰと同様、実習期間中にわたって1つの実習地で実習を行う。				
到達目標	1) 作業療法実施計画を用いて症例の説明をうける 2) 対象者との面接・観察を通じて、またカルテ及び他部門から必要な情報を収集することができる。 3) 種々な対象者に対して基本的な検査・測定法を選択して、実施することができる。 4) 検査・測定結果を正しく記録し、そこから得られた情報を分析することができる。 5) 評価結果を整理・統合し、作業療法の実施に必要な対象者の問題点や能力をまとめることができる。 6) 臨床課程(リーズニング)について理解・実践すること 7) 学内で習得した知識・実技能力を実習で活用できる。 8) 対象者や他職員と適切な関係を結ぶことができ、医療従事者としての作業療法士の役割を理解できる。 9) 臨床での倫理的配慮や日本作業療法士協会倫理綱領について理解できる。 10) 対象者の病状に応じて対応できる(患者の体調不良時に介入を変更・中止する場面を経験・遂行)。 11) 管理業務の一部を見学し、その重要性を理解できる。 12) 臨床実習指導者の診療記録などを参照し、そのレベルに到達する努力を行うことができる 13) カンファレンス(部門内、病棟内など)を見学し、多職種連携について理解できる。 14) 施設見学を行い、施設の機能について理解できる。				
成績評価方法	1.臨床実習指導報告書、2.実習日誌、3.症例日誌、4. 症例報告書(作業療法実施計画)などを、以下の基準で総合的に判断する。				
成績評価基準	A 100-90点 対象者の安全への配慮(リスク管理)、対象者に必要な評価、リーズニング、実施計画書の作成、経過記録が十分にできている。 B 89-80点 達成した項目が2/3程度である。 C 79-70点 達成した項目が1/3程度である。 D 69-60点 達成した項目が1項目程度である。 F 59点以下 行動が著しく劣り、リスク管理等もできない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
オリエンテーション	総合実習Ⅱの概略(日程・課題等) 守秘義務について 感染対策について	総合実習Ⅱ特論がオリエンテーションを含んでいるので参照すること。	配布された臨床実習関連の手引・報告書類を再度しっかり読むこと。 総合実習Ⅰの指導者のコメントをしっかり読み内容の理解に努めること。		科目責任者 鈴木由美 臨床実習担当教員
実習	本科目では授業は行われない	実際の臨床場面にて、総合実習Ⅰでの経験の上に、さらなる臨床経験を積み重ねていきます。			臨床実習指導者(実習施設) 臨床実習担当教員(学内)
日付					
6.12.2(月) ～ 7.1.31(金)					

教科書	
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業1／作業2／作業3／作業4／作業5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	各領域で臨床に携わっている指導者が、本実習の指導にあたります。
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	科目担当責任者 鈴木由美 yusuzuki@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	総合実習Ⅲ	科目英語表記	Fieldwork III		
職名、担当教員氏名	教授 佐藤 寿晃 教授 藤井 浩美 教授 仁藤 充洋 教授 外川 佑 准教授 森 直樹 准教授 千葉 登 准教授 鈴木 由美 講師 佐々木 学 講師 川勝 祐貴 助教 高畑 未樹				
科目責任者氏名	千葉 登				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	作業療法学科	学年	4年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	前期	単位数	8単位
授業概要	本実習で学生が行う具体的な内容は対象者への初回面接から評価、治療介入方針、問題点抽出、ゴール設定、プログラム立案、実践を教授する。総合実習Ⅲは、身体機能系、高齢期、小児期、精神機能系、地域領域系などの領域にて、1か所の実習地ないし複数の領域の実習を行う。 最終学年での総合実習であることから、学生にはこれまでの臨床実習の経験をもとに、よりレベルの高い作業療法に関する専門的知識・技術および応用を教授し、保健・医療における高度な倫理観を身につけるよう指導する。				
到達目標	1) 対象者との面接・観察を通じて、またカルテ及び他部門から必要な情報を収集することができる。 2) 種々な対象者に対して基本的な検査・測定法を選択して、実施することができる。 3) 検査・測定結果を正しく記録し、そこから得られた情報を分析することができる。 4) 評価結果を整理・統合し、作業療法の実践に必要な対象者の問題や能力をまとめることができる。 5) 臨床過程（リーズニング）について理解・実践することができる。 6) 学内で修得した知識・実践能力を実習で活用できる。 7) 対象者や他職員との適切な関係を結ぶことができ、医療従事者としての作業療法士の役割を理解できる。 8) 臨床での倫理的配慮や日本作業療法士協会倫理綱領について理解できる。 9) 対象者の病状に応じれ対応できる（患者の体調不良時の介入を変更・中止する場面を経験・遂行）。 10) 管理業務の一部を見学し、その重要性を理解できる。 11) 臨床実習指導者の診療記録などを参照し、そのレベルに達する努力を行することができる。 12) カンファレンス（部門内、病棟内など）を見学し、多職種連携について理解できる。 13) 施設見学を行い、施設の機能について理解できる。 14) 1)～15)の到達目標を総合実習Ⅰ・Ⅱよりも高いレベルで実践できる。				
成績評価方法	（臨床実習中の学生へのフィードバック等） ・毎日のなかで、臨床実習指導者が実習生に対してフィードバックを行う。 ・実習中盤で実習指導者と学生によって「臨床実習指導報告書」により中間評価が行われるので、誤解などがあれば適切に説明し、指導者と改善についてのアドバイスを行う。 ・教員による実習地訪問にて、疑問点・自身の課題等についてアドバイスを行う。 （臨床実習施設での評価） 到達目標 1-14 ・臨床実習最終日に臨床実習指導者が「臨床実習指導報告書」により最終評価が行われる。 ・「臨床実習指導報告書」最終評価後に臨床実習実習指導者と学生間で実習について意見交換を行い、「臨床実習指導報告書」を大学に提出する。 （大学での評価） 到達目標 1-14 ・実習日誌・事例日誌・事例レポート・訪問時の状況など教員が内容を精査し総合的にA-DおよびFで評価する。 A 100-90点、 到達目標に十分達成しており、特に優れている B 89-80点、 到達目標に十分達成している C 79-70点、 到達目標に概ね達成している D 69-60点、 最低限のレベルで到達目標に達している F 59点以下、 到達目標に達していない				
成績評価基準	・臨床実習指導報告書（50%）と大学での評価（50%）で最終評価を行う。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員

オリエンテーション	総合実習Ⅲのオリエンテーションは総合実習Ⅲ特論にて実施するのでそちらを参照	総合実習Ⅲのオリエンテーションは総合実習Ⅲ特論にて実施するのでそちらを参照	総合実習Ⅲのオリエンテーションは総合実習Ⅲ特論にて実施するのでそちらを参照	特になし	千葉
実習	実習期間 R6.5.7 (火)～6.28 (金)	初回面接、評価、介入方針、問題点抽出、プログラム立案、実施を体系的に学ぶ(詳細は手引きを参照)	県内外の医療機関等の協力のもと臨床実習が行われる。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習中は実習指導者から指導を仰ぐことが望ましい。 ・病院図書館の活用可否を実習地に確認すること。 ・大学図書館も長期貸出を行うので確認すること。 ・訪問教員に相談する 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習地では、臨床実習指導者が指導を行う。 ・訪問教員は訪問や電話、ZOOMなどで実習経過の把握やアドバイスをを行う。
日付					
6.5.7 (火) ～ 6.6.28 (金)					

教科書	学科から配布される「臨床実習指導報告書」「実習の手引き」 教科書はこれまで使用した教科書、配布資料すべて
参考書	参考書はこれまで使用したものすべて
ディプロマ・ポリシーとの関連	作業1/作業2/作業3/作業4/作業5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	科目の担当教員と臨床実習講習会を受講した作業療法士が指導します。
実務経験をいかした教育内容	本科目は、実習指導者(実習施設に勤務する作業療法士)の指導の下、臨床現場で担当事例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、治療プログラムを立案、実践を行う科目です。
教員の連絡先	実習施設毎の相談、連絡は訪問担当教員が担当する。 本科目全般については科目責任者が担当する。 千葉登：研究室22 nchiba@yachts.ac.jp
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・「臨床実習指導報告書」「実習の手引き」を精読すること。 ・実習施設での指導や生活については臨床実習指導者会議で指導者から指導を受けること。 ・臨床実習協力施設の厚意で成り立っていることを理解し、学生としてふさわしい行動をとらなければならない。